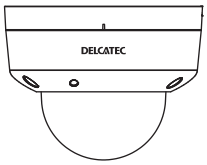
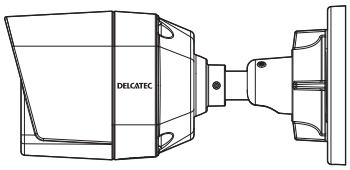
DELCATEC

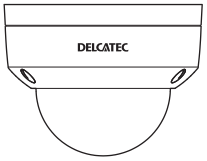
電動可変焦点ドーム型 ネットワークカメラ
CNB4CDZW1



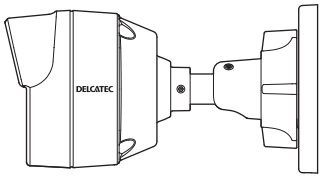
電動可変焦点バレット型 ネットワークカメラ
CNB4CBZW1



固定焦点ドーム型 ネットワークカメラ
CNB4CDFW1



固定焦点バレット型 ネットワークカメラ
CNB4CBFW1



設定ガイド

・ 本書は、CNB4C シリーズのカメラ用設定ガイドです。別売のネットワークレコーダーに接続して使用するときは、弊社ホームページより CNB4R シリーズの設定ガイドをご確認ください。
URL：https://www.dxantenna.co.jp/product/item/manualImg/CNB4R.pdf

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
本書は、カメラに付属の取扱説明書と合わせてご使用ください。

・ この製品は犯罪防止システム品ではありません。空巣、強盗、変質者の侵入などの犯罪による損失、損傷などが発生しても、当社は一切責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

DXアンテナ株式会社

2025 年 10 月　1.0 版

もくじ

本製品の概要 …… 3

使用上のお願い …… 4
- 録画について …… 4
- 使用上のご注意 …… 4
- 設置のご注意 …… 4

管理画面について …… 5
- 管理画面を開く …… 5
- リセットボタンについて …… 9

ホーム画面 …… 10

システム …… 11
- システム設定 …… 11
- システム時間 …… 15
- アクセスリスト …… 17
- ユーザーアカウント …… 18
- 権限管理 …… 19

メディア …… 20
- メディア設定 …… 20
- 昼間と夜間設定 …… 21
- ストリーム設定 …… 22
- オーディオ設定 …… 24
- オーディオクリップ …… 25
- 光学 …… 27
- プライバシーマスク …… 36
- ズームとフォーカス …… 37
- ストリームプロファイル …… 39
- ピクセル計算機 …… 41

映像分析 …… 42
- スマート VCA 検知について …… 42
- スマート VCA 利用時の注意 …… 43
- 動体検知設定画面について …… 44
- 取り付け …… 45
- External signal …… 47
- モーションセル対象範囲 …… 47
- 設定 …… 49
- ライセンス …… 50
- エクスポートと復元 …… 51
- スマートモーション検出 …… 52
- 改ざん検知 …… 58
- パッケージの管理 …… 59
- スマート VCA 設定画面について … 61
- スマート VCA …… 61

通知 …… 79
- イベント設定 …… 79
- 録画設定 …… 85
- 音声と衝撃検出 …… 87
- デジタル入力とデジタル出力 …… 88

ネットワーク …… 89
- ネットワーク設定 …… 89
- 証明書 …… 91
- プロトコル設定 …… 92

ストレージ …… 93
- ストレージ管理 …… 93
- SD カードのフォーマット …… 94
- メディアコンテンツ …… 95

ユーザー …… 97
- ユーザー（ファームウェアの確認）· 97

本製品の概要

本製品は、DX アンテナ製ネットワークレコーダー（CNB4R シリーズ）に対応したネットワークカメラです。本製品と DX アンテナ製ネットワークレコーダー（CNB4R シリーズ）を接続することで、すぐに利用いただくことが可能です。

■ H.265 対応

H.265 に対応し、より長時間の録画が可能です。

※ H.265 とは、H.264（MPEG-4）の後継となる動画圧縮規格です。

■ PoE 対応

全機種 PoE（Power over Ethernet）に対応。電源を敷設しにくい場所にも設置が可能です。

※ PoE とは、LAN ケーブルを通して、電力を供給する技術です。

■ F1.6 レンズ（対応機種のみ※ 1）

少ない光量しかない薄暗い場所でも鮮明な撮影が可能な明るいレンズ（F1.6）を採用しています。

■ 防水防塵

保護等級 IP66 に適合した防水防塵タイプで、屋外での撮影も可能です。

■ 耐衝撃性能

保護等級 IK10 に適合した耐衝撃性能を備えています。

■ CMOS センサー

高画質 CMOS センサーを搭載し、高精細な 5MP 映像を撮影可能です。

■ デイ／ナイトモード

カメラレンズの周囲に赤外線 LED を配置し、夜間や暗い場所でも被写体をクリアに撮影できるナイトモードを搭載しています（0 ルクスでも IR 照射範囲であれば、撮影可能です）。デイ／ナイトモードは、周囲の明るさを感知して自動的に切り替わります（手動でのデイ／ナイトモードの固定も設定可能）。

■ 動体検知録画対応

常時録画のほかに、撮影映像に動きがあった場合に自動で録画を開始する動体検知録画に対応しています。

■ microSD カードスロット

本体に microSD カードスロットを搭載し、microSD/microSDHC/microSDXC カードを挿入することで録画映像を保存可能です。（補助的な録画先としてのみお使いいただけます。）
microSD カードは、エレコム製の MLC タイプ（書き換えに強い高耐久型）を使用することをお勧めします。

microSD カードの種類	microSD カード容量
microSDHC/microSDXC カード（クラス 10 以上）	最大 256GB

エレコム製の microSD カードは動作確認済です。詳しくは弊社 HP の D サポ！を確認してください。
別の機器でフォーマットされた microSD カードは、本製品では認識しない場合があります。その場合は下記の URL より SD メモリカードフォーマッターをダウンロードし、フォーマットをしてください。
https://www.sdcard.org/ja/downloads-2/formatter-2/

※ 1：F1.6 レンズは CNB4CDFW1/CNB4CBFW1 で採用しています。

●本書に記載されているイラスト、画面などは開発中のものであり、実際の製品とは異なる場合があります。

使用上のお願い

録画について

本製品の故障や誤動作などの原因によって、microSD カードに正常に録画できなかった内容の補償、録画した内容の損失、直接および間接的損害につきましては、弊社は責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

使用上のご注意

- 本製品の使用は、日本国内のみです。海外では使用できません。
- 本製品は、防犯を保証する機器ではありません。ご使用中に、人命・財産などに損害が生じても、当社は責任を負いかねます。
- カメラは軒下など、できるだけ雨、風や日光が直接当たらないところに設置してください。
- 停電などの外部要因によるデータの損失、その他の直接および間接的損害につきましては、弊社は責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本製品は、別売のネットワークレコーダーや microSD カードに映像を録画することができます。
- 本製品の周囲温度が急激に変化した場合や 0℃以下になった場合、レンズ部がくもったり、霜が付いたりすることがあります。
- カメラのレンズやセンサーには、直接手で触れないでください。故障の原因となります。汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- 本書で使用している画面は、CNB4CBZW1 をもとに作成しておりますので、ご使用になるカメラによっては画面が異なる場合があります。
- 本製品で録画したデータは、本製品がネットワークに接続した状態でのみ本製品から再生が可能です。microSD カードを PC などに接続して再生をすることはできません。

設置のご注意

- 本製品をセンサーライトの近くに設置しないでください。誤動作することがあります。
- 本製品は、被写体のプライバシーや肖像権に配慮して設置してください。
- 本製品の取扱方法や、設置方法については、付属の取扱説明書をご確認ください。

本書に表示される記号

下記の表記は、本製品の画面遷移を表しています。

〇〇〇〇〇 > 〇〇〇〇〇 >> 〇〇〇〇〇 >>> 〇〇〇〇〇

ホーム画面　　表示メニューの階層によって表示内容は異なります。

管理画面について

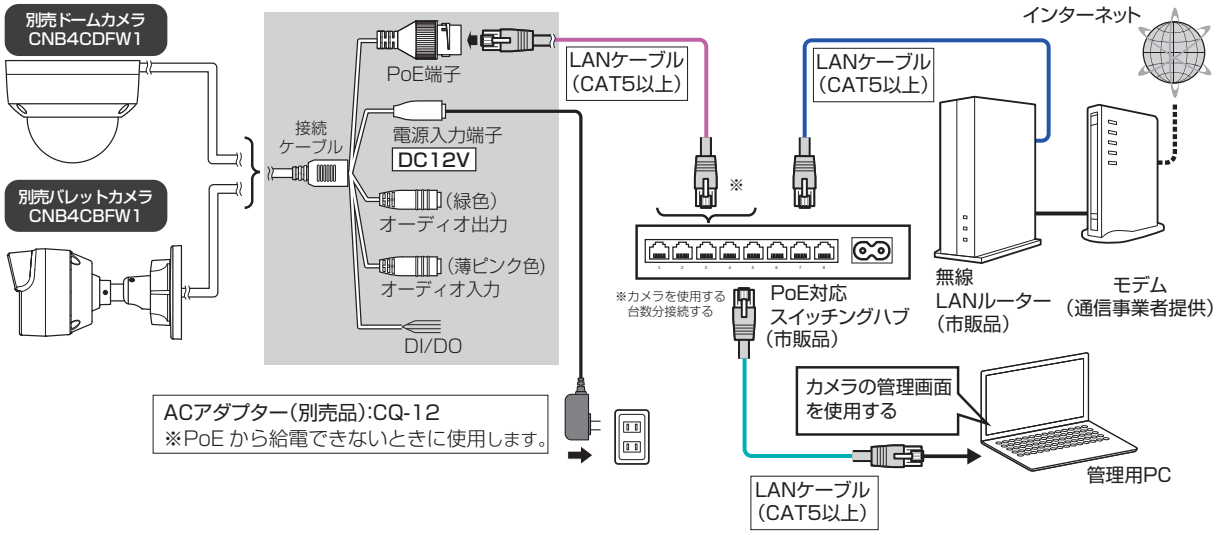
管理画面を開く

- 本製品を PoE ハブに接続し、電源を入れます。
  ※ PoE ハブから給電できない場合は、別売の AC アダプター（CQ-12）を使用してください。
- LAN ケーブルを接続して、管理用 PC 上のウェブブラウザからアクセスします。

工場出荷時のカメラを管理用 PC へ接続する例

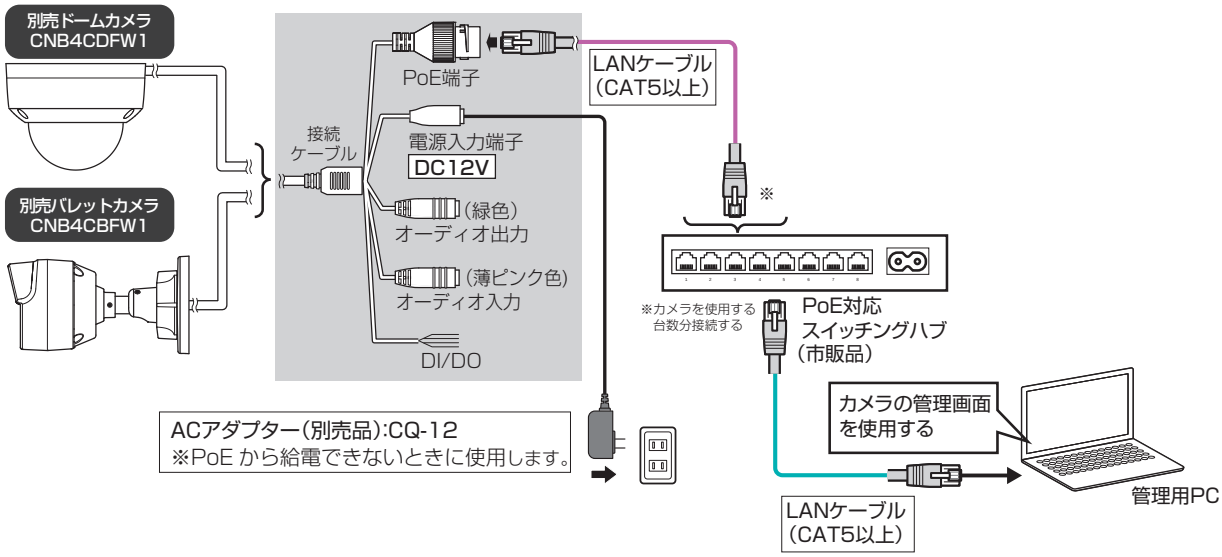
本製品をインターネット回線で接続する場合

- 本製品をインターネット回線を使って管理用 PC に接続することをお勧めします。



カメラをローカルネットワーク接続する場合

- 本製品をインターネット回線を使わないで、ローカルネットワークでも使用することができます。



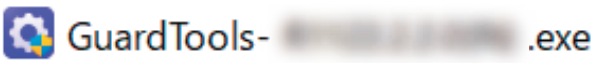
＜接続方法＞

1 「Guard Tools」をインストールする

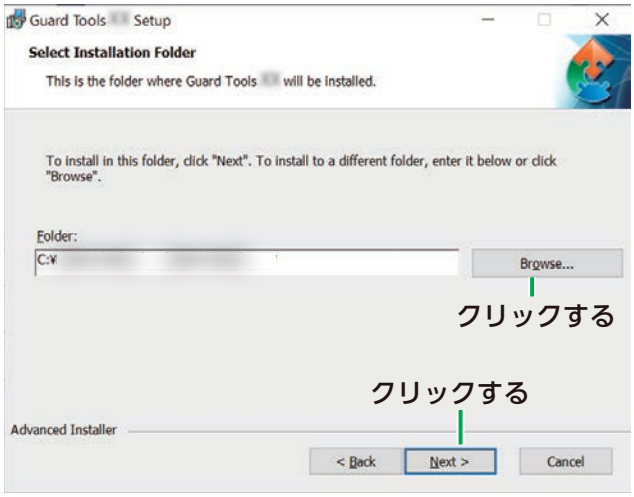
① 下記の弊社ホームページよりアプリをダウンロードします。

https://dxantenna-product.dga.jp/detail.html?id=2691&category=166

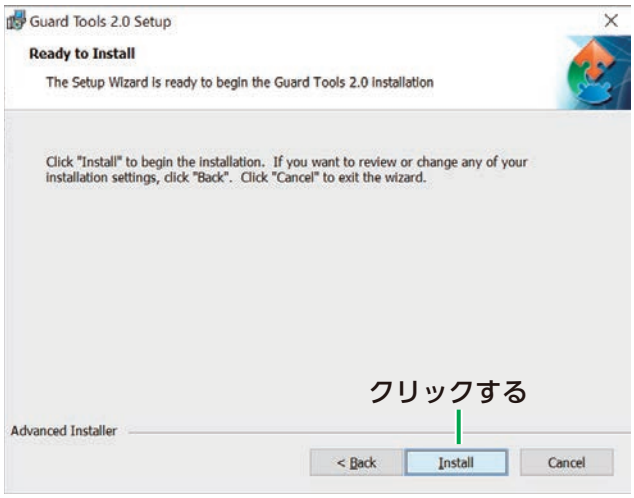
②フォルダ内にある「Guard Tools-xxxx.exe」をダブルクリックします。



③「Browse」をクリックして、保存する場所を選択し、「Next」をクリックします。



④「インストール」をクリックすると、インストールが始まります。



⑤「Finish」をクリックすると、「Guard Tools」が起動します。

⑥表示されている IP アドレスをメモします。

2 使用する PC の IP アドレスを変更する

管理用 PC の IP アドレスを前記の手順 1 の⑥で控えたネットワークに設定します。
（手順 1 の⑥で控えた IP アドレス以外の IP アドレスに設定してください）

例：169.254.11.50

- 手順1の⑥で控えたIPアドレスを除いた1～255までの任意の値を入力する
- 手順 1 の⑥で控えた IP アドレスと合わせる

管理用 PC の IP アドレスの変更方法については、ご使用になる PC の取扱説明書を確認する、または下記の URL をご確認ください。
https://qa.dxantenna.co.jp/faq_detail.html?id=2887

3 管理用 PC で Google chrome を開く

アドレスバーに手順 1 の⑥で控えた IP アドレスを入力します。

対応ブラウザ	Google chrome

4 ログインする

「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。
初期設定の場合
ユーザー名：root
パスワード：dx_123456

● 不正利用を防ぐために

1.パスワードについて

- パスワードは、他人に見られたり、教えたりしないでください。
- 第三者が設定を行った場合は、必ずパスワードを変更してください。
- 修理依頼をするときは、パスワードを初期化してください。
- 第三者に譲渡したり、廃棄する場合はパスワードを初期化してください。

2.弊社ではネットワークセキュリティに関する技術情報についてはお答えできません。

3.管理用 PC などを紛失したときは第三者による不正使用を避けるために、直ちに加入されている対応サービス提供者などへ連絡してください。

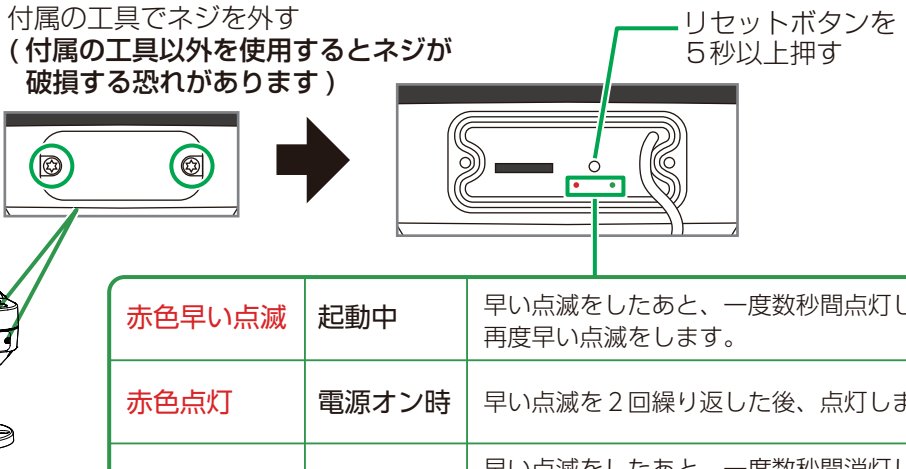
重要 **管理画面で設定を保存した後、1 分以内にカメラの電源をオフにしないでください。変更した設定値が正しく保存されない場合があります。**

5 ホーム画面が表示される

リセットボタンについて

本製品のカメラには、リセットボタンがあります。
リセットボタンを押すと工場出荷設定に戻すことができます。
リセットボタンを押すと、各カメラの LED インジケータが以下のように点滅 / 点灯します。

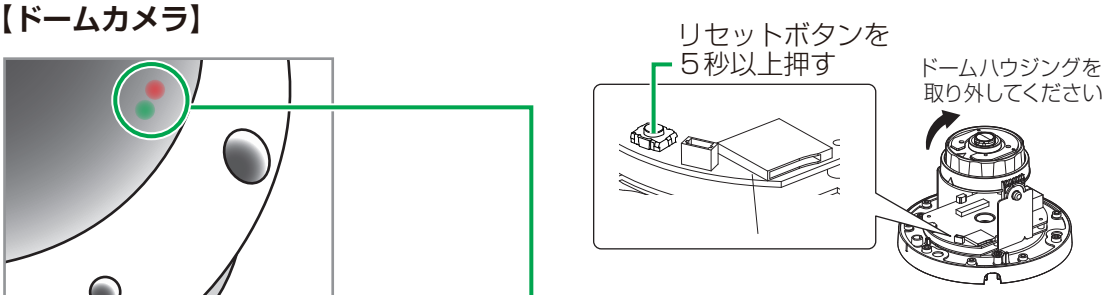
【バレットカメラ】



イラスト：
CNB4CBFW1

赤色早い点滅	起動中	早い点滅をしたあと、一度数秒間点灯し、再度早い点滅をします。
赤色点灯	電源オン時	早い点滅を２回繰り返した後、点灯します。
緑色早い点滅	起動中	早い点滅をしたあと、一度数秒間消灯し、再度早い点滅をします。
緑色遅い点滅	カメラの起動が完了	早い点滅を２回繰り返した後、点灯します。ライブビューを視聴することができます。

【ドームカメラ】

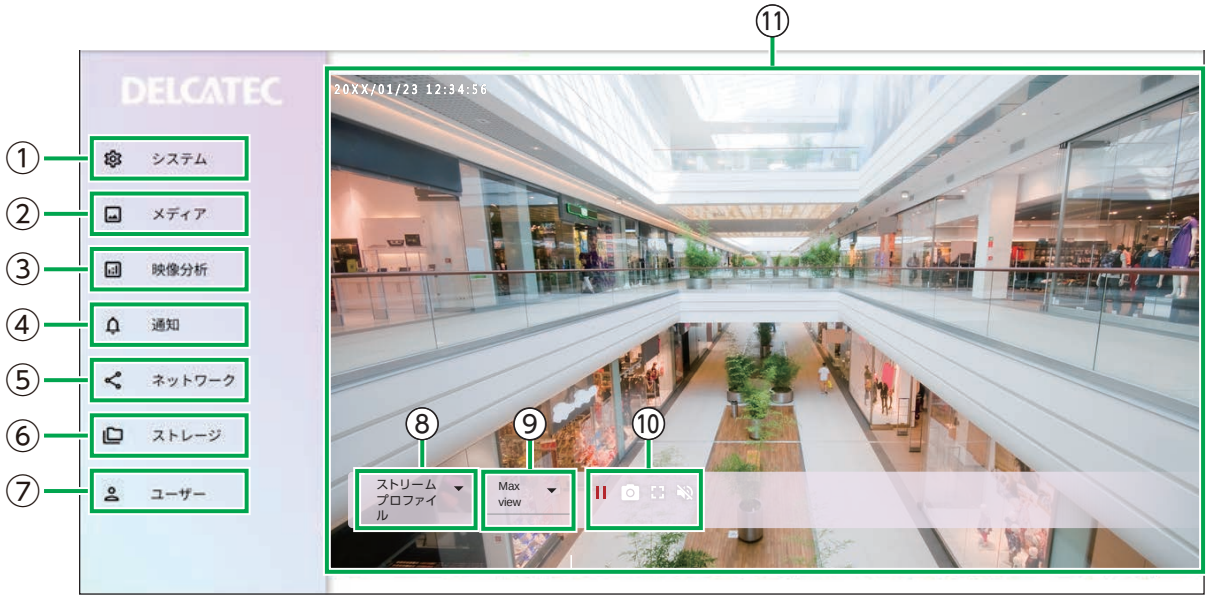


イラスト：
CNB4CDZW1

赤色早い点滅	起動中	早い点滅をしたあと、一度数秒間点灯し、再度早い点滅をします。
赤色点灯	電源オン時	早い点滅を２回繰り返した後、点灯します。
緑色早い点滅	起動中	早い点滅をしたあと、一度数秒間消灯し、再度早い点滅をします。
緑色遅い点滅	カメラの起動が完了	早い点滅を２回繰り返した後、点灯します。ライブビューを視聴することができます。

ホーム画面

管理画面に入るとホーム画面が起動します。



番号	項目	内容
①	**システム**	カメラに関する一般的な設定（時刻設定やファームウェアのアップデートなど）とアカウントの追加、パスワードの変更などをすることができます。
②	**メディア**	映像・音声に関する設定とプライバシーマスクや昼夜モードの設定などができます。
③	**映像分析**	検知機能の設定をすることができます。
④	**通知**	検知したときのイベントや録画の設定などをすることができます。
⑤	**ネットワーク**	IP アドレスの設定などができます。
⑥	**ストレージ**	SD カードのフォーマットなどができます。
⑦	**ユーザー**	言語を変更したり、カメラの情報を確認できます。
⑧	**ストリーム プロファイル**	ストリームを開始 / 停止することができます。 ・ストリームプロファイルに設定すると画面品質を変更することができます ・VI ：（有効）にすると、マニュアルトリガーを選択できます。 ・DO：（有効）にすると、デジタル出力を有効にします。
⑨	**表示切換**	ストリームプロファイルに設定しているとき、画面品質を以下に変更することができます。 ・Max view ：ストリーム 1 ・Recording：ストリーム 2 ・Live view ：ストリーム 3
⑩	**操作パネル**	一時停止 / 再開 スナップショット 全画面表示 ミュートボタン
⑪	**ライブビュー**	本製品のライブ映像を表示します。

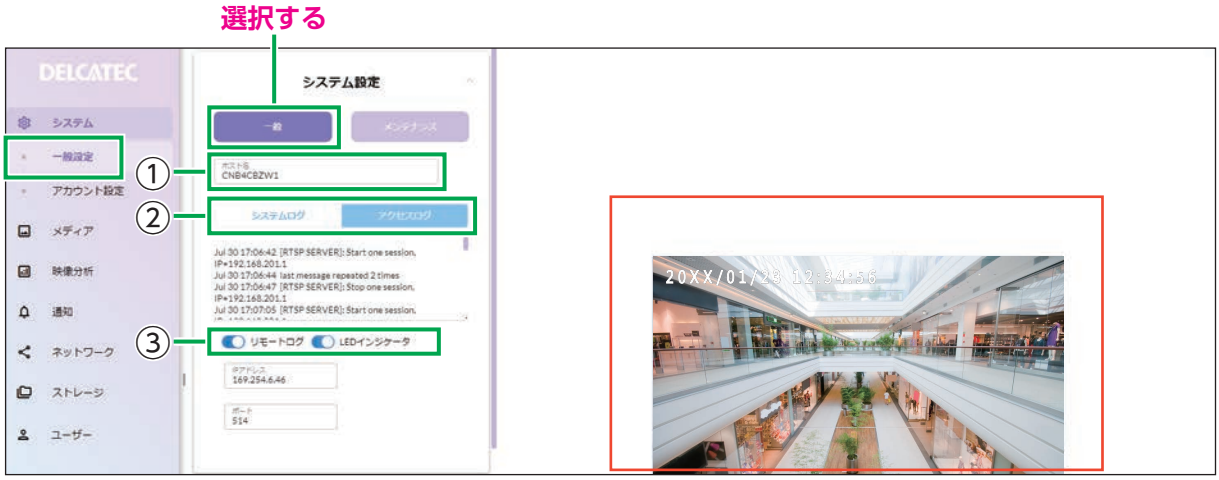
システム

システム設定

システム > 一般設定 >> システム設定

一般

カメラ名称の変更やログの確認を行います。



番号	項目	内容
①	**ホスト名**	カメラ名を変更できます。
②	**ログ**	この機能は使用しません。
③	**ログ設定**	**リモートログ** この機能は使用しません **LED インジケータ** （有効）にすると、本製品の LED インジケータが点灯・点滅します。 （無効）にすると、本製品の LED インジケータが消灯します。

メンテナンス

カメラのファームウェアのアップデート、初期設定（工場出荷状態）、カメラ再起動などを行います。

番号	項目	内容
①	**アップデート**	カメラのファームウェアをアップデートします。（➡ 13 ページ）
②	**インポート**	管理用 PC に保存されたカメラの設定ファイルを取り込みます。（➡ 13 ページ） ・ 設定ファイルはカメラの型番とファームウェアバージョンが一致していないと取り込みができません。
③	**エキスポート**	このカメラの設定ファイルを作成し、管理用 PC に保存することができます。（➡ 13 ページ） ・ 設定ファイルはカメラの型番とファームウェアバージョンが一致していないと取り込みができません。
④	**復元**	このカメラの設定を工場出荷状態に戻します。（➡ 14 ページ）
⑤	**再起動**	このカメラを再起動します。（➡ 14 ページ）

<アップデート方法 / インポート方法>

下記の説明はアップデート方法を元に作成しています。

インポート方法については、アップデート方法を参考に操作してください。

1 「アップデート」をクリックする

インポートする場合は、「インポート」をクリックします。

2 ⊞ をクリックして、対象ファイルを選択する

> ・ 設定ファイルはカメラの型番とファームウェアバージョンが一致していないと取り込みができません。

3 ☁ をクリックして、ファイルを実行する

☰ または ✕ をクリックすると、ファイルを削除することができます。

(画面：アップデート)

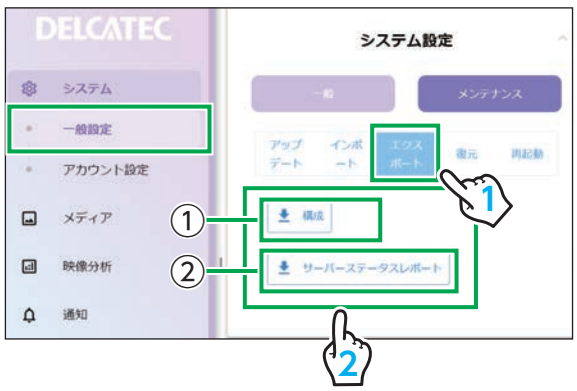
ファイルを削除します

<エキスポート方法>

1 「エクスポート」をクリックする

2 項目を選択してダウンロードする

番号	項目	内容
①	構成	構成ファイルを管理用 PC にダウンロードします。
②	サーバーステータスレポート	サーバーステータスレポートをダウンロードします。



＜工場出荷状態に戻す方法＞

1 「復元」をクリックする

2 項目を設定する

（無効）に設定した項目は、工場出荷状態に戻ります。

（有効）に設定した項目は、工場出荷状態に戻りません。

3 復元 をクリックする

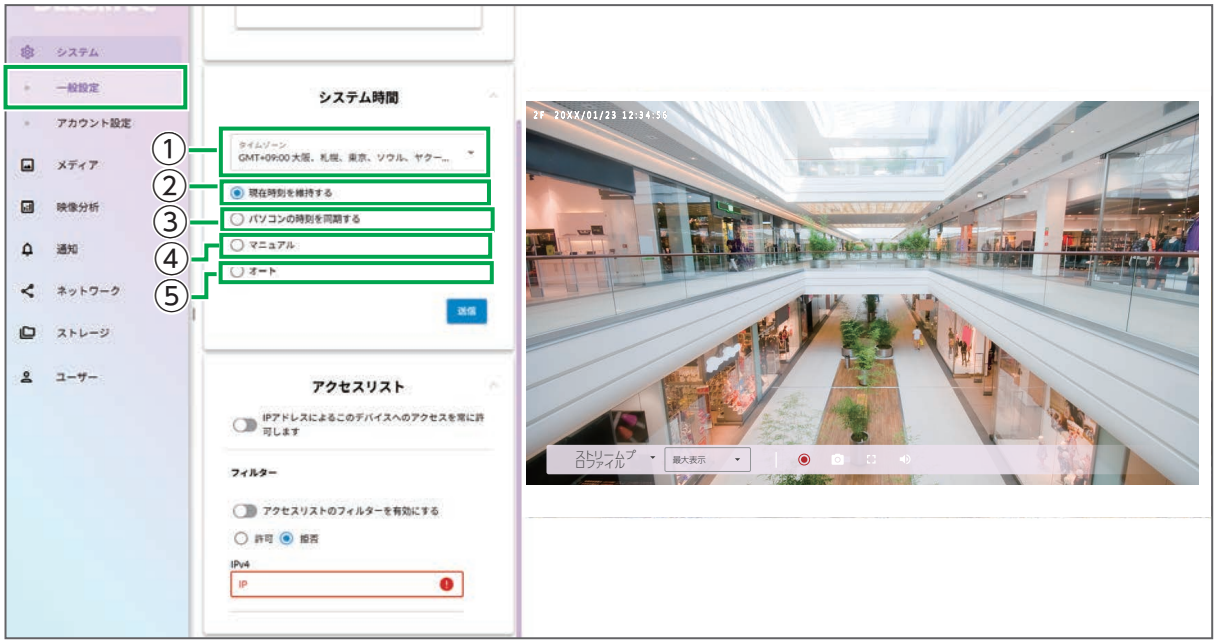
＜再起動の方法＞

1 再起動 をクリックすると、カメラが再起動します

システム時間

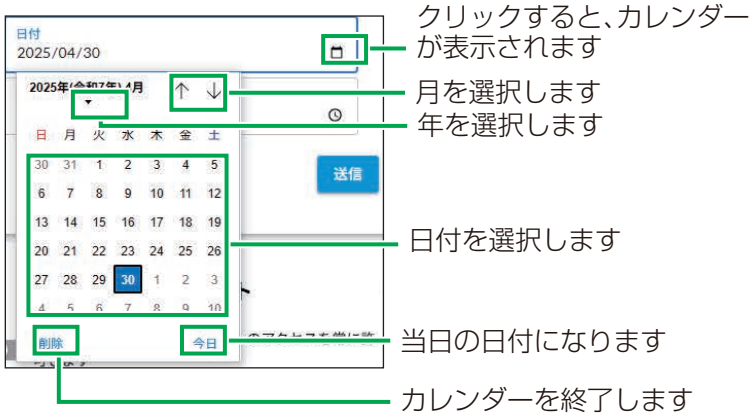
システム > 一般設定 >> システム時間

カメラの時間設定を行います。

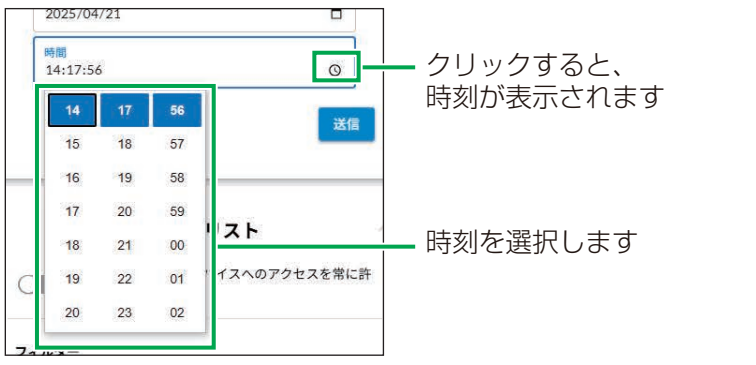


番号	項目	内容
①	**タイムゾーン**	タイムゾーンに設定する地域を選択することができます。
②	**現在時刻を維持する**	カメラの時刻は、現在の時刻から変更されません。
③	**パソコンの時刻を同期する**	カメラの時刻は、カメラを接続している管理用 PC の時刻に合わせます。
④	**マニュアル**	カメラの日付と時刻をマニュアルで設定します。

日付の設定



時間の設定



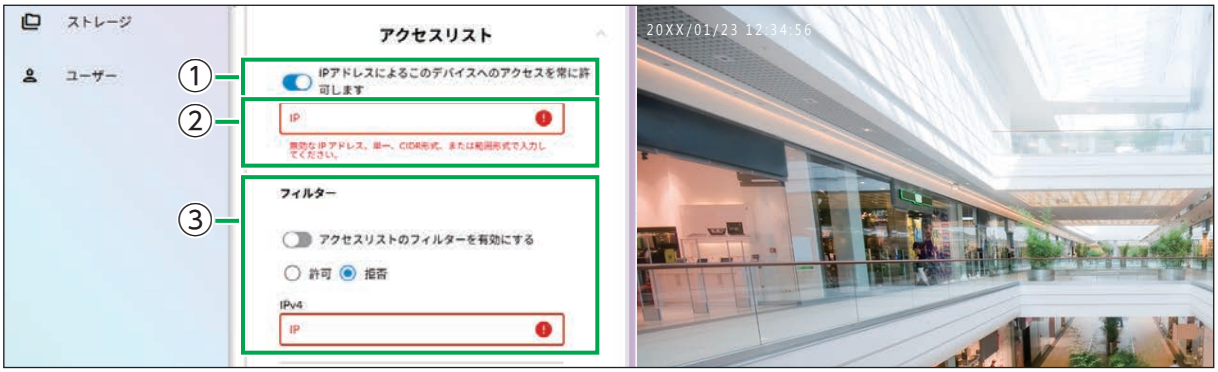
<table>
<tr><th>番号</th><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>⑤</td><td>オート</td><td>NTP（ネットワークタイムプロトコル）に同期して、日時が自動で設定されます。
「間隔を更新する」を設定することで、設定した間隔で自動で日時が更新されます。
<table><tr><td>NTP サーバー</td><td>NTP サーバーと時刻を同期するために使用する NTP サーバーのアドレスを設定します。</td></tr><tr><td>間隔を更新する</td><td>時刻の更新間隔を設定します。</td></tr></table></td></tr>
</table>

設定後、 送信 をクリックします。

アクセスリスト

システム > 一般設定 >> アクセスリスト

カメラへの不正アクセスを防ぐためのアクセス制御を行います。

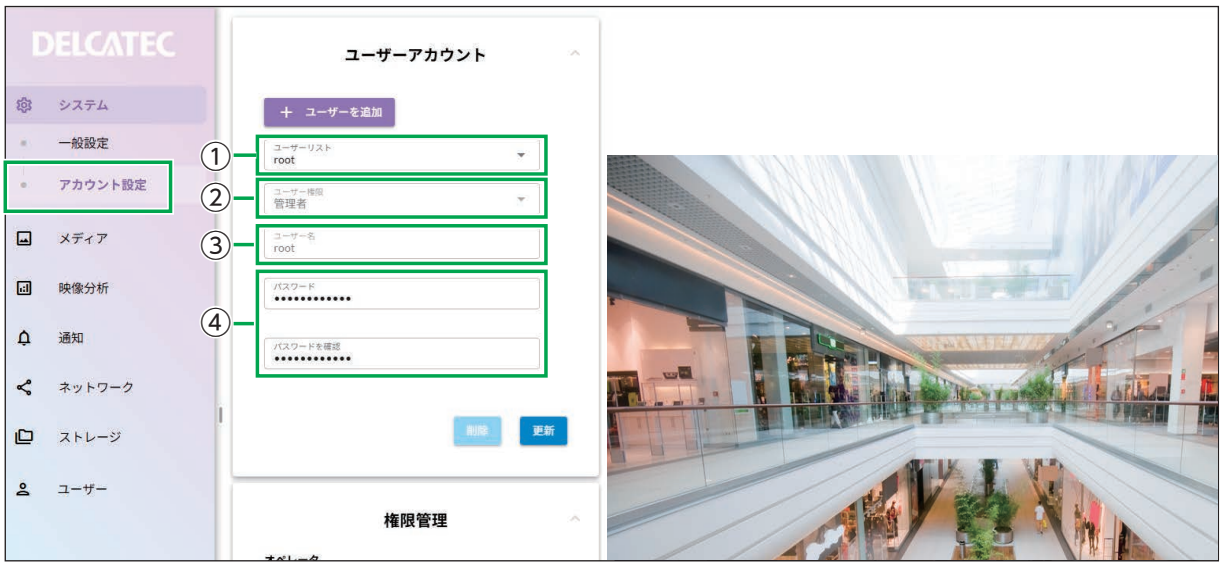


番号	項目	内容
①	**IP アドレスによるこのデバイスへのアクセスを常に許可します**	（有効）に切り換えると、指定した IP アドレスからのアクセスを常に許可します。 ・ 警告内容が表示されますので、表示された内容を読んでから「確認」をクリックします。
②	**IP アドレス**	IP アドレスを入力します。
③	**フィルター**	**アクセスリストのフィルターを有効にする**：特定の IP アドレスからのアクセスのフィルターを有効にします。 **許可／拒否**：特定の IP アドレスからのアクセスを許可または拒否に設定します。 **IPv4 の IP アドレス**：IP アドレスを入力します。 ・ 警告内容が表示されますので、表示された内容を読んでから「確認」をクリックします。

ユーザーアカウント

システム > アカウント設定 >> ユーザーアカウント

ユーザーアカウントの追加やユーザー権限の変更などができます。
設定したパスワードを変更することもできます。



番号	項目	内容
①	**ユーザーリスト**	登録しているユーザーリストを選択します（登録方法は（➡ 19 ページ）をご確認ください）。初期設定は「root」が表示されています。
②	**ユーザー権限**	ユーザー権限を設定します。 **管理者**・・・・・・・・・・すべての権限があります。 **オペレータ・ビューワ**・・・カメラの操作はできますが、設定を変更することはできません。
③	**ユーザー名**	ユーザー登録したときのユーザー名が表示されます。
④	**パスワード / パスワードを確認**	パスワードを変更するときは、パスワードを入力し、「パスワードを確認」に再度パスワードを入力します。

設定後、 更新 をクリックします。

＜ユーザー権限・パスワードの変更方法＞

1 **「ユーザーリスト」を選択する**

2 **「ユーザー権限」を選択する**
ユーザーリストが「root」のときは、ユーザー権限を変更することはできません。

3 **「パスワード」入力する**

4 **「パスワードを確認」に再度パスワードを入力する**
手順 3 と同じパスワードを入力する

5 **更新 をクリックする**

＜ユーザーの追加方法＞

1 ＋ ユーザーを追加 をクリックする

2 項目を設定する

3 追加 をクリックする

（項目の説明）

「ユーザー権限」を設定します。

管理者・・・すべての権限があります。

オペレータ・ビューワ

・・・カメラの操作はできますが、設定を変更することはできません。

「ユーザー名」を入力します。

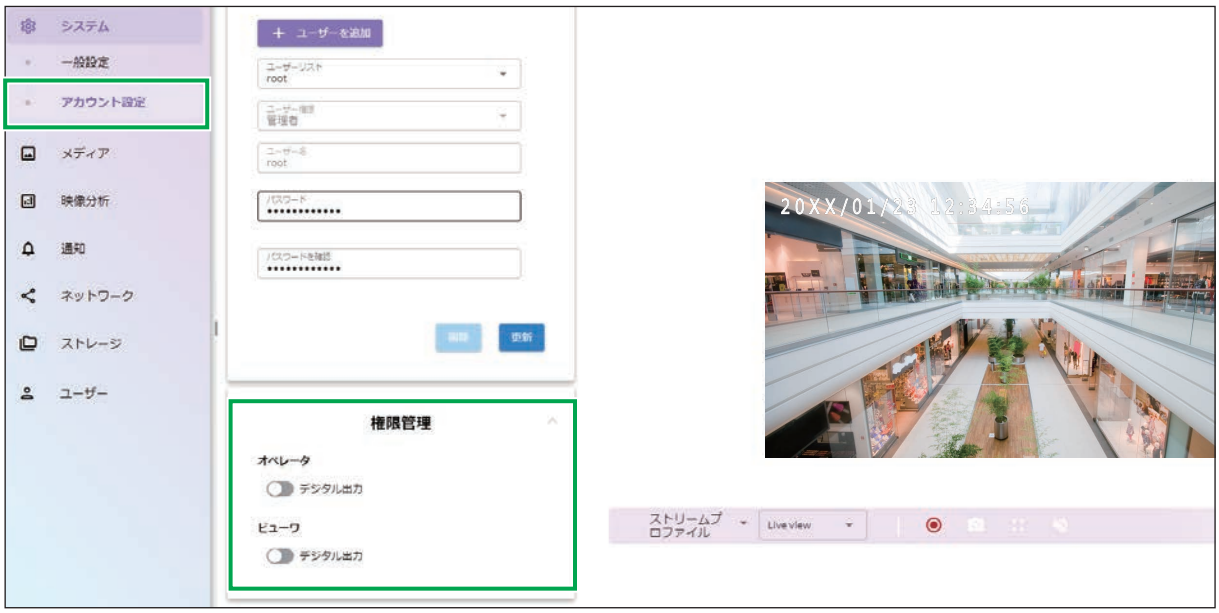
「パスワード」を設定します。

「パスワードを確認」に再度パスワードを入力します。
（「パスワード」で入力した同じパスワードを入力します）

権限管理

システム > アカウント設定 >> 権限管理

本機能はシステム構築・運用業者向けに用意した機能のため、弊社からのサポートは対象外です。



メディア

メディア設定

メディア > 一般設定 >> メディア設定

カメラの表示に関する設定の変更を行います。

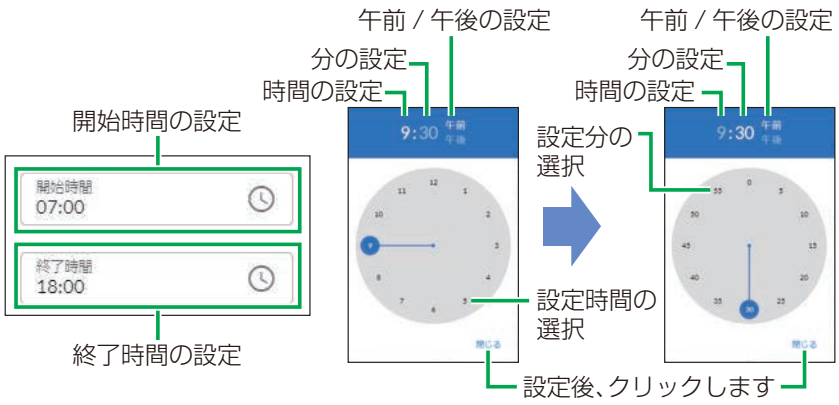
番号	項目	内容	
①	ビデオ	**映像タイトル**	映像のタイトルを表示します。 （有効）に切り換えると、録画映像の左上に設定した映像タイトルが表示されます。 映像タイトル
		ビデオタイトルの位置	映像のタイトルの表示位置を設定します。
		ビデオフォント	この機能は使用できません。
		フォントサイズ	フォント（文字）サイズを設定します。
②	その他	**電源周波数**	ご利用の地域に合わせて変更します。 （50Hz：東日本 /60Hz：西日本（初期設定））
		回転設定	0 度 /90 度 /270 度から角度を選択して映像を回転させます。
		カラー	（有効）に切り換えると、カラー映像になります。
		反転	（有効）に切り換えると、映像を上下反転させます。
		ミラー	（有効）に切り換えると、映像を左右反転させます。
			・ 警告内容が表示されたときは、表示された内容を読んでから「はい」をクリックします。

設定後、 送信 をクリックします。

昼間と夜間設定

メディア > 一般設定 >> 昼間と夜間設定

カメラの昼間や夜間撮影するときの設定を行います。

番号	項目	内容	
①	IR カットフィルター	**夜間モードで白黒**	（有効）に切り換えると、夜間モードのときに、映像を白黒に切り換えます。
		自動	自動で昼間モード / 夜間モードを切り換えます。
		昼間	昼間モードに固定されます。
		夜間	夜間モードに固定されます。
		スケジュール	設定したスケジュールで昼間モード / 夜間モードを切り換えます。 
		デジタル入力と同期する	本機能はシステム構築・運用業者向けに用意した機能のため、弊社からのサポートは対象外です。
		IR カットフィルターの感度	「自動」に設定しているときに、IR カットフィルターの感度を設定できます。

設定後、 送信 をクリックします。

ストリーム設定

メディア > ビデオ >> ストリーム設定

ストリームやビットレートの設定を行います。

番号	項目	内容
①	ビデオモード	本製品では設定できません
②	ビデオ	**ストリーム**：ストリームを選択します（初期設定：ストリーム 1）。 **コーデック**：コーデックを選択します（初期設定：H.264）。 **解像度**：解像度を選択します（初期設定：1920 × 1080）。 **フレームレート**：フレームレートを選択します（初期設定：15）。 **I フレーム間隔**：I フレーム間隔を選択します（初期設定：1S）。 **DIF**：チェックを入れると、品質とビットレートのバランスが取れた映像になります。 **スマート FPS**：チェックを入れると、映像に動きがないときに、フレームレートを自動で切り換えます。 **スマートコーデック**：チェックを入れると、映像全体または不要な領域の画質を下げてデータ量を削減します。 **モード**：**自動追跡**…設定した領域の映像が変化した部分が高画質になります。 **マニュアル**…設定した領域内の画像が高画質になります（領域は３つまで設定が可能です）。 **ハイブリッド**…設定した領域以外で画像が変化した部分と、設定した領域内の画像のみ高画質になります（領域は３つまで設定が可能です）。 **画質の優先度**：スライドバーが右にあるほど高画質になります。

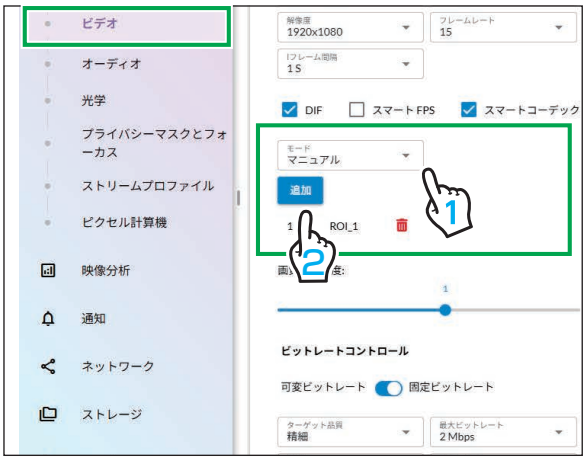
番号	項目	内容	
③	ビットレートコントロール	可変ビットレート / 固定ビットレート	に切り換えると、固定ビットレートに切り換わります。
		ターゲット品質	カメラが録画またはストリーミングするときの目標とする画質のレベルを設定します（初期設定：詳細）。
		最大ビットレート	カメラが映像を送信する際の 1 秒あたりのデータ量の最大値を設定します (初期設定：2Mbps)。
		ポリシー	「フレームレート優先」または「画質優先」を選択します (初期設定：フレームレート優先)。
		スマート Q	「オン」にするとカメラが撮影する映像の品質を自動的に調整し、最適な画質に設定します (初期設定：オン)。

設定後、 送信 をクリックします。

＜モードの設定方法＞

1 「マニュアル」または「ハイブリッド」を選択する

初期設定は、「自動追跡」に設定されています。

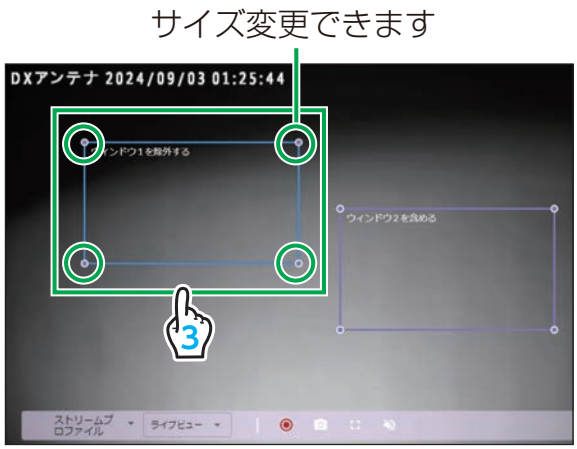


2 追加 をクリックする

領域を追加することができます。
🗑をクリックすると、領域を削除できます。

3 ◎ をドロップすることで領域を調整する

領域にカーソルを移動するとカーソルが✥に変わり、エリアを移動することができます。
4 隅にカーソルを移動し、⇗に変わると領域のサイズを変更することができます。



オーディオ設定

メディア > オーディオ >> オーディオ設定

マイクの設定を行います。

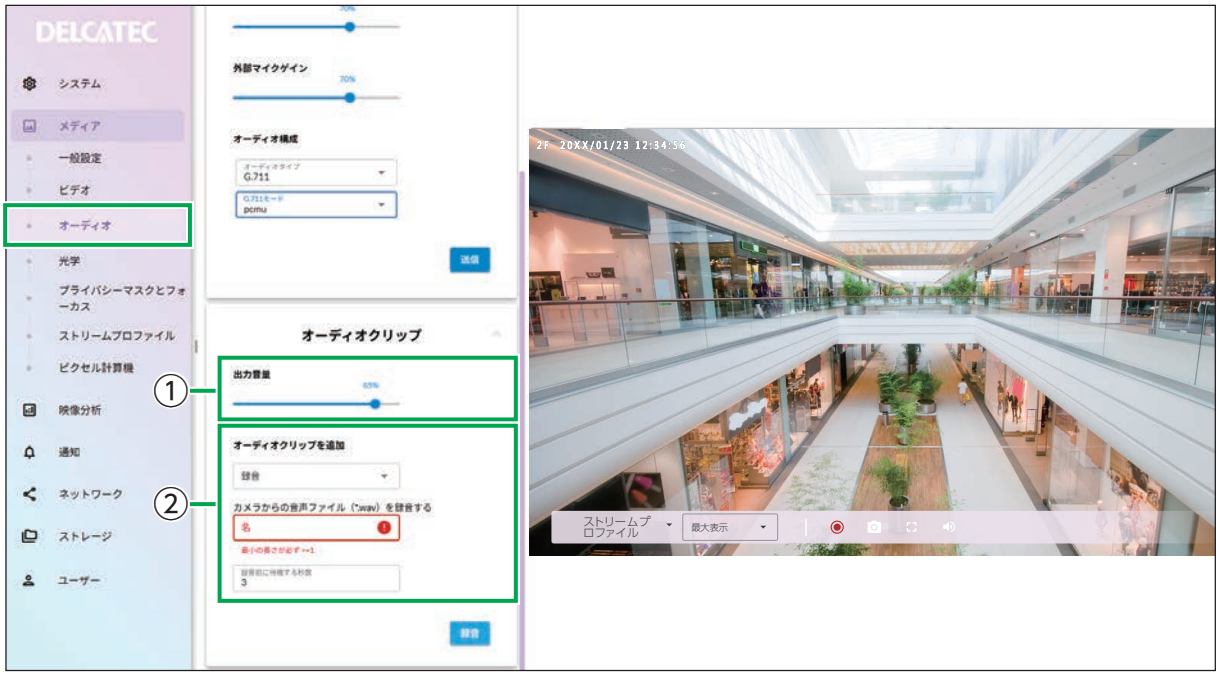
番号	項目	内容
①	**ミュート**	に切り換えると、マイクがミュート（消音）に切り換わります。 ストリームの音声が出力されません。
②	**マイクソース**	「内部」に設定すると、内蔵マイクの音声が切り換わります。 「外部」に設定して、カメラのオーディオ入力端子（薄ピンク色）に接続すると、市販のマイクの音声に切り換ります。
③	**内蔵マイクゲイン**	スライドバーが右にあるほど、増幅レベルが上がり、遠くの音を拾います。 また、雑音が気になる場合は、スライダーを左に動かします。
④	**外部マイクゲイン**	スライドバーが右にあるほど、増幅レベルが上がり、遠くの音を拾います。 また、雑音が気になる場合は、スライダーを左に動かします。
⑤	**オーディオ構成**	**オーディオタイプ**：「G.711」から変更できません。 **G.711 モード**：「pcmu」、「pcma」から選択できます。

設定後、 送信 をクリックします。

オーディオクリップ

メディア > オーディオ >> オーディオクリップ

オーディオクリップの設定を行います。



番号	項目	内容	
①	**出力音量**	スライダーが右にあるほど、音量が上がります。	
②	**オーディオクリップを追加**	**録音／アップロード**	録音：音声ファイルを wav 形式で保存します。 アップロード：音声ファイルをアップロードします。 ・ 録音データはダウンロードすると管理用 PC で再生できます。
		カメラからの音声ファイル (*.wav) を録音する	ファイル名を入力します。
		録音前に待機する秒数	録音開始するまでの待機時間を設定します。

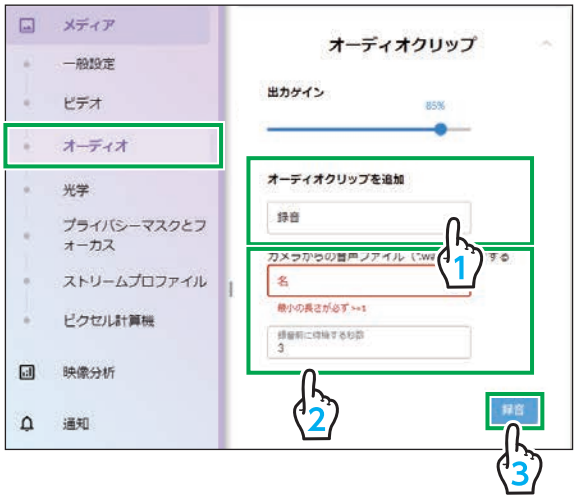
設定後、 録音 をクリックします。

＜オーディオクリップの設定方法＞

1 「録音」を選択する

2 項目を設定する

3 録音 をクリックする
録音を開始します。



＜アップロード方法＞

カメラへ音声ファイルのアップロードを行います。

1 「アップロード」を選択する

2 ⊞ をクリックして、対象ファイルを選択する

光学

メディア > 光学 >> 光学

照明

赤外線照明などに関する設定を行います。

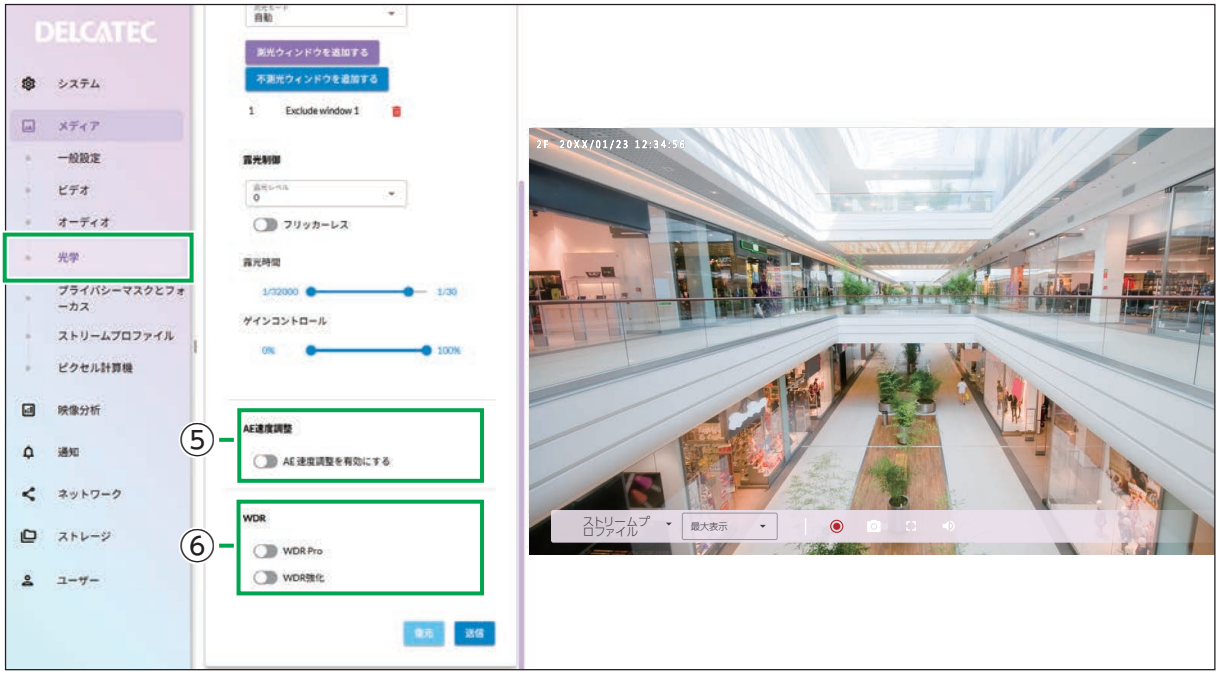
番号	項目	内容
①	**内蔵照明**	（有効）に切り換えると、暗い環境でも赤外線照明がカメラの視野を照らして、より明るく映像を撮影することができます。
②	**露光オーバー防止**	（有効）に切り換えると、赤外線照明を自動で調整します。
③	**復元**	最後に設定した内容（最後に「送信」ボタンを押したときの設定内容）に戻します。 ・ 警告内容が表示されますので、表示された内容を読んでから「復元」をクリックします。

設定後、 送信 をクリックします。

露光

露光設定を行います。

番号	項目	内容
①	**自然光モード**	通常の自然光を利用した撮影モードです。
②	**夜間モードとスケジュールモード**	夜間モードやスケジュールモードを有効にできます。（➡ 30 ページ）
③	**露光戦略**	カメラの露光設定を最適化し、重要なエリアの映像を適切に撮影することができます。測光モードでは、逆光補正やハイライト補正を設定し、それぞれの露光ウィンドウの設定をすることができます。 **露光ウィンドウ**：エリアを基準にして適切な露光を自動調整したり、露光を自動調整しないエリアを設定したりできます。 「自動」：最適な設定を行います。 「カスタム」：カメラが露光を調整する際に使用するエリアを指定します。露光ウィンドウ設定方法（➡ 31 ページ） 「中央」：エリアが中央に配置されます。 **測光モード**：自動：測光モードを自動で設定します。 BLC：逆光補正の設定をします。（レンズに強い光が入ったときに被写体が暗くならないようにします。） HLC：ハイライト補正の設定をします。（夜間などの暗い環境でレンズに強い光が入ったときに被写体が白飛びしないようにします。）
④	**露光制御**	**露光レベル**：露光レベルを調整できます。 **フリッカーレス**：に切り換えると、フリッカーレス撮影を行います。 **露光時間**：スライドバーが右にあるほど、露光時間は長くなります。 **ゲインコントロール**：スライドバーが右にあるほど、ゲインは高くなり、暗い環境でも明るい画像を撮影できます。



番号	項目	内容
⑤	**AE 速度調整**	「AE 速度調整を有効にする」を（有効）に切り換えると、カメラが自動的に露光を調整する速度を下表で設定できます。 **AE 速度レベル**：スライダーが右にあるほど、光の変化に対してカメラが早く反応して露光を調整します。 **感度**：スライダーが右にあるほど、光の変化に対する感度が上がります。
⑥	**WDR**	逆光や高コントラストの環境でも、鮮明な映像で撮影できます。 **WDR プロ**：（有効）に切り換えると、「WDR プロ」が有効になり、明暗差の強い環境でも、鮮明な映像で撮影ができます。 **WDR 強化**：（有効）に切り換えると、WDR 効果の強度を設定することができます。 （設定例） 「WDR 強化」を「高」に設定すると、逆光で明るい窓の前に対象物がある場合、対象物と背景を鮮明に撮影できます。

設定後、送信をクリックします。

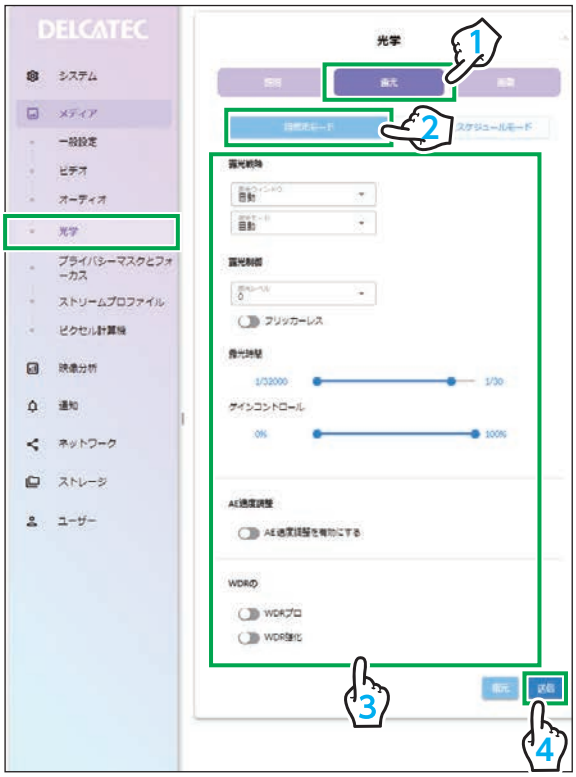
＜自然光モードの設定方法＞

1 「露光」をクリックする

2 「自然光モード」をクリックする

3 **項目を設定する**
（「露光ウィンドウ」を「カスタム」に設定すると「露光ウィンドウ」（➡ 31 ページ）、「不測光ウィンドウ」（➡ 32 ページ）の設定ができます）

4 送信 をクリックする



＜夜間モードとスケジュールモードの設定方法＞

1 「露光」をクリックする

2 「夜間モードとスケジュールモード」をクリックする

3 「プロファイルモードを有効にする」を にする

4 「夜間」または「スケジュール」を選択する
スケジュールは、「開始時間」および「終了時間」を設定します。時刻の設定方法は、「昼間と夜間設定」（➡ 21 ページ）を参照してください。

開始時間: 終了時間:

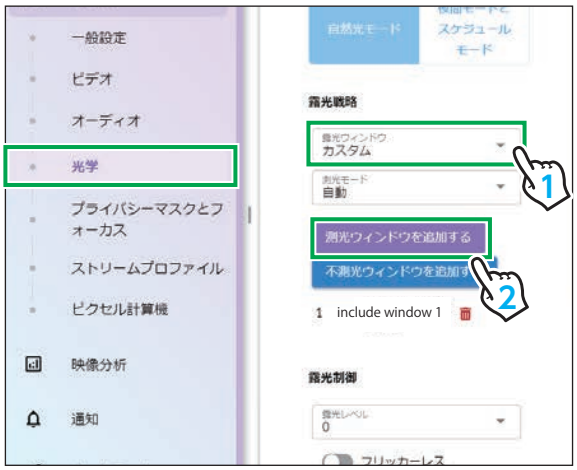
5 **項目を設定する**
「露光戦略」以降の設定方法は＜自然光モードの設定方法＞（上記）と同じです。

6 送信 をクリックする

＜露光ウィンドウ設定方法＞

●測光ウィンドウを追加する

エリアを基準にして適切な露光を自動調整します。



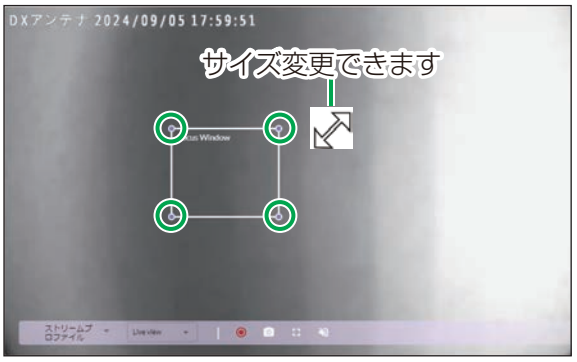
1 「露光ウィンドウ」をカスタムに設定する

2 測光ウィンドウを追加する をクリックする

（「不測光ウィンドウ」と合わせて最大 10 個まで追加できます）

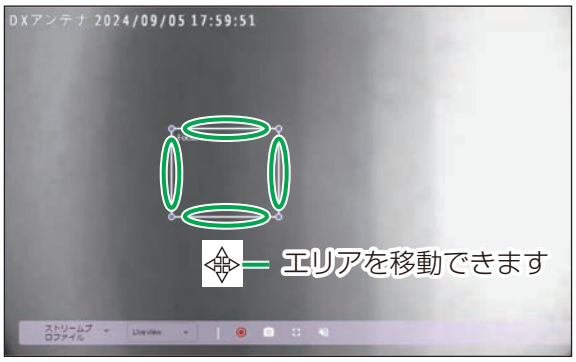
3 領域を設定する

・4 隅にカーソルを移動し、⇗に変わると領域の範囲を変更することができます。



・枠にカーソルを移動するとカーソルが✥に変わり、エリアを移動することができます。

・ 🗑 をクリックすると、エリアを削除できます。



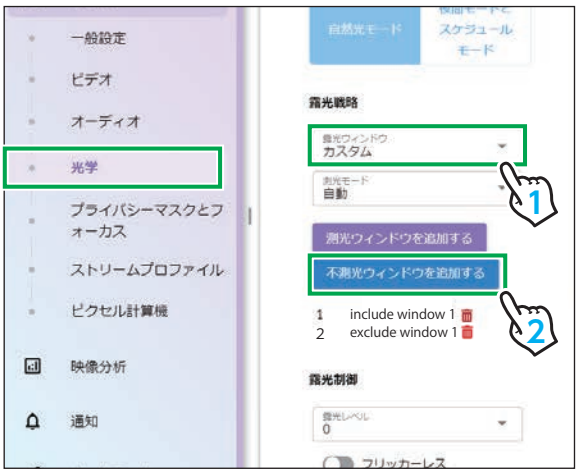
＜不測光ウィンドウ設定方法＞

●不測光ウィンドウを追加する

露光を自動調整しないエリアを設定します。

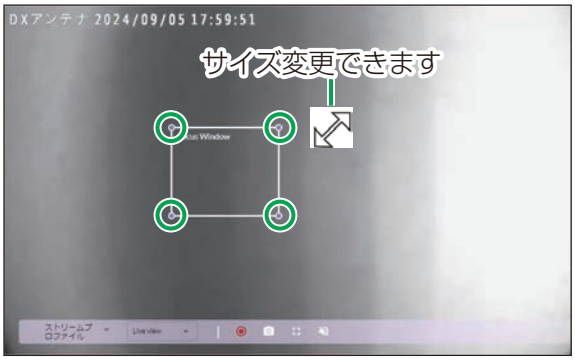
1 **「露光ウィンドウ」をカスタムに設定する**

2 不測光ウィンドウを追加する **をクリックする**
（「測光ウィンドウ」と合わせて、最大 10 個まで追加できます）



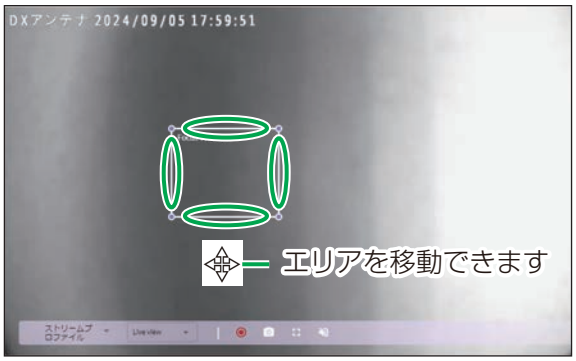
3 **領域を設定する**

・４隅にカーソルを移動し、⇗に変わると領域の範囲を変更することができます。



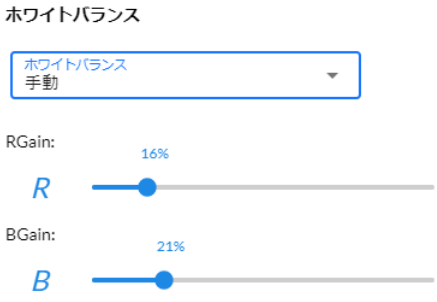
・枠にカーソルを移動するとカーソルが✥に変わり、エリアを移動することができます。

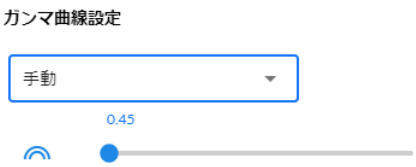
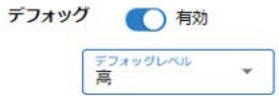
・ 🗑 をクリックすると、エリアを削除できます。



画像

画像の設定を行います。

番号	項目	内容	
①	**自然光モード**	通常の自然光を利用した撮影モードです（➡ 28 ページ）。	
②	**夜間モードとスケジュールモード**	夜間モードやスケジュールモードを有効にできます。（➡ 30 ページ）	
③	**画像調整**	**ホワイトバランス**	撮影環境での光の色の影響を補正します。「手動」を選択すると、赤色（R）と青色（B）の設定ができ、それぞれの色の設定が可能です。  スライドバーが右にあるほど、それぞれの色が強くなります。
		明るさ	スライドバーが右にあるほど、明るくなります。
		コントラスト	スライドバーが右にあるほど、コントラストが強くなります。
		彩度	スライドバーが右にあるほど、鮮やかになります。
		シャープネス	スライドバーが右にあるほど、はっきりとした映像になります。

番号	項目	内容
④	ガンマ曲線設定	ガンマ補正をすることで、映像の明暗部分をはっきりと撮影します。 「手動」に設定すると、ガンマ曲線の設定ができます。スライドバーが、右にあるほど映像の明暗が、はっきりと撮影されます。 
⑤	デフォッグ	（有効）に切り換えると、映像の視認性を向上させます。 デフォッグレベルを設定します。 
⑥	3D ノイズリダクション	暗い環境での映像品質を向上させます。「高」に設定すると、ノイズは大幅に減少します。

設定後、 送信 をクリックします。

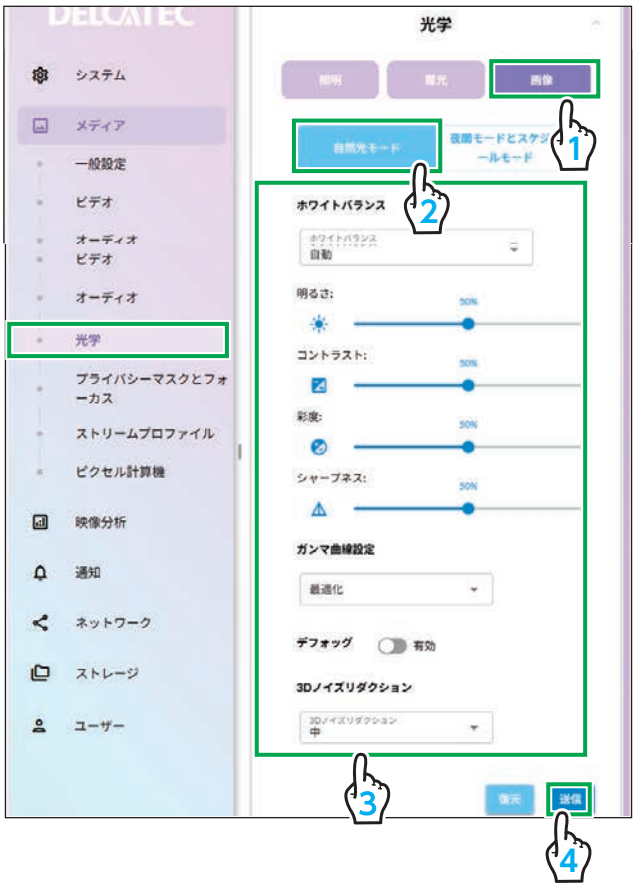
＜自然光モードの設定方法＞

1 「画像」をクリックする

2 「自然光モード」をクリックする

3 項目を設定する

4 送信 をクリックする



＜夜間モードとスケジュールモードの設定方法＞

1 「画像」をクリックする

2 「夜間モードとスケジュールモード」をクリックする

3 「プロファイルモードを有効にする」を （有効）にする

4 「夜間」または「スケジュール」を選択する

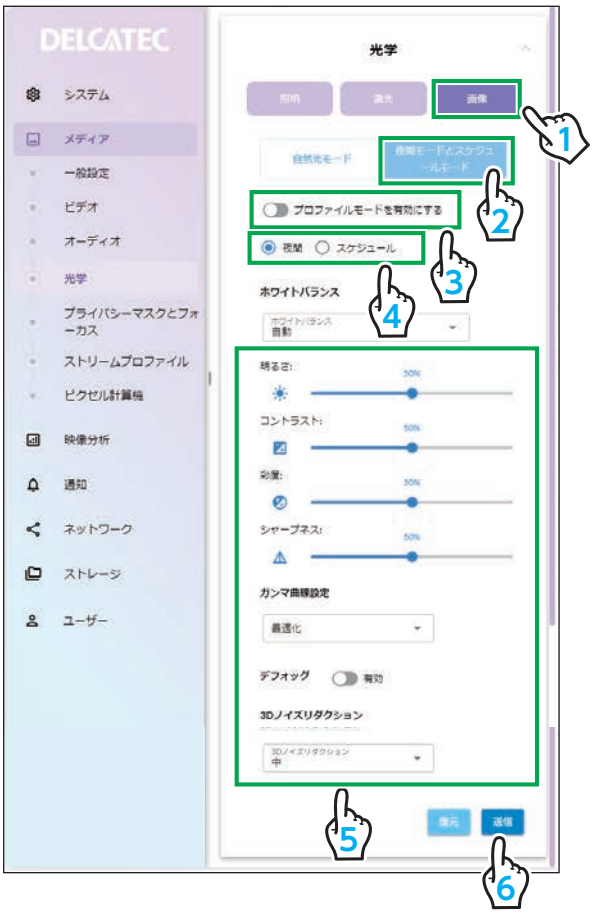
スケジュールは、「開始時間」および「終了時間」を設定します。時刻の設定方法は、「昼間と夜間設定」（➡ 21 ページ）を参照してください。

開始時間: 終了時間:

5 項目を設定する

「ホワイトバランス」以降の設定方法は＜自然光モードの設定方法＞（➡ 35 ページ）と同じです。

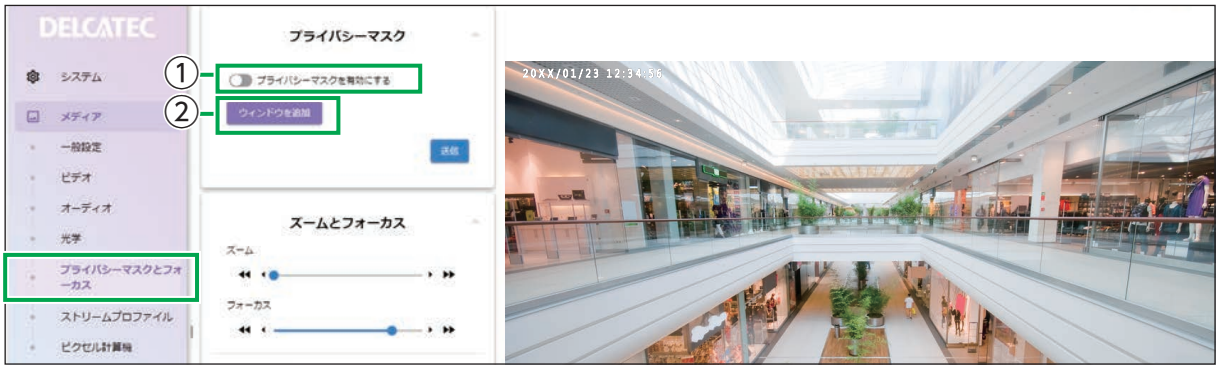
6 送信 をクリックする



プライバシーマスク

メディア > プライバシーマスクとフォーカス >> プライバシーマスク

プライバシーマスクの設定を行います。



番号	項目	内容
①	**プライバシーマスクを有効にする**	（有効）に切り換えると、プライバシーマスクが有効になります。指定した部分は黒色になり、映像を隠すことができます。
②	**ウィンドウを追加**	クリックすると、プライバシーマスク名の入力画面を表示します。画面をクリックしてプライバシーマスクを追加します。

設定後、 送信 をクリックします。

＜プライバシーマスクの設定方法＞

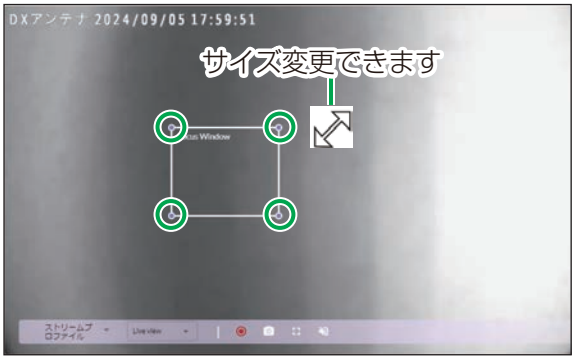
1 （有効）に切り換える

2 ウィンドウを追加 をクリックする

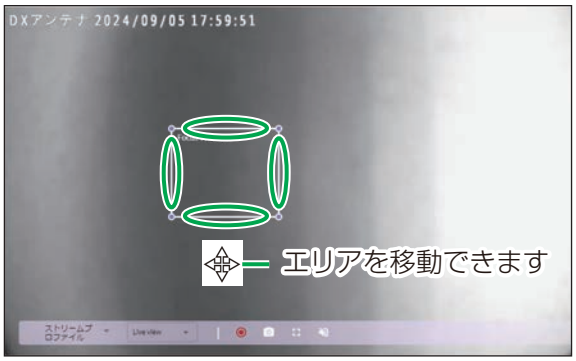
3 **名前を入力する**
（×をクリックすると、削除できます）

4 **映像をクリックして、プライバシーマスクを追加する**
（最大４個まで追加できます）

5 **領域を設定する**
・４隅にカーソルを移動し、に変わると領域の範囲を変更することができます。

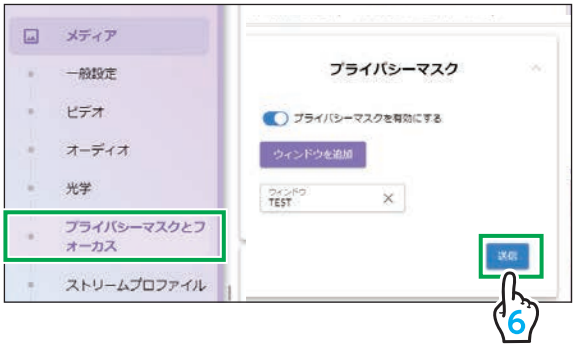


・枠にカーソルを移動するとカーソルが✥に変わり、エリアを移動することができます。



6 送信 をクリックする

プライバシーマスクのエリアが確定します。



ズームとフォーカス

メディア > プライバシーマスクとフォーカス >> ズームとフォーカス

ズームとフォーカスの設定を行います（CNB4CBZW1/CNB4CDZW1 のみ）。

番号	項目	内容	
①	**ズーム**	スライドバーを右側にすると、ズームインします。	
②	**フォーカス**	スライドバーを使って、フォーカス調整をします。	
③	**オートフォーカス**	**フルレンジスキャン**	カメラがフォーカス範囲全体をスキャンして最適なフォーカスにします。
		絞り開放	もっとも広い絞り値でフォーカスを行います。（背景がぼけて対象物が強調されます）
④	**フォーカスウィンドウ**	**全画面**	フォーカスは全画面に対して行われます。
		カスタム	設定したエリア内を中心にフォーカスを行います。

＜オートフォーカスの設定方法＞

1 オートフォーカスを開始 をクリックする

「フルレンジスキャン」および「絞り開放」でチェックを入れた項目で、オートフォーカスが開始されます。

＜フォーカスウィンドウの設定方法＞

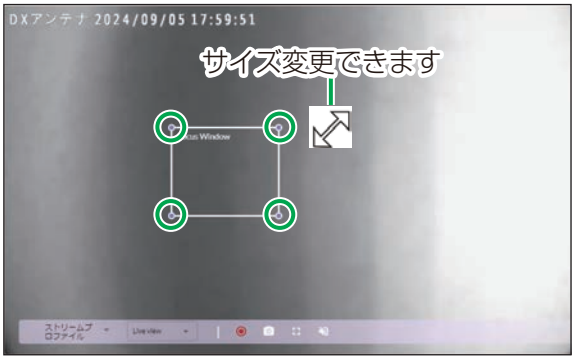
1 「フォーカスウィンドウ」を設定する

（フォーカスウィンドウを「カスタム」に設定したとき）

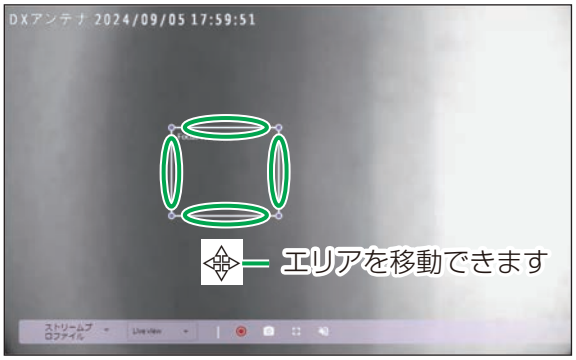
2 領域を設定する

フォーカスウィンドウを設定することができます。

・４隅にカーソルを移動し、に変わると領域の範囲を変更することができます。



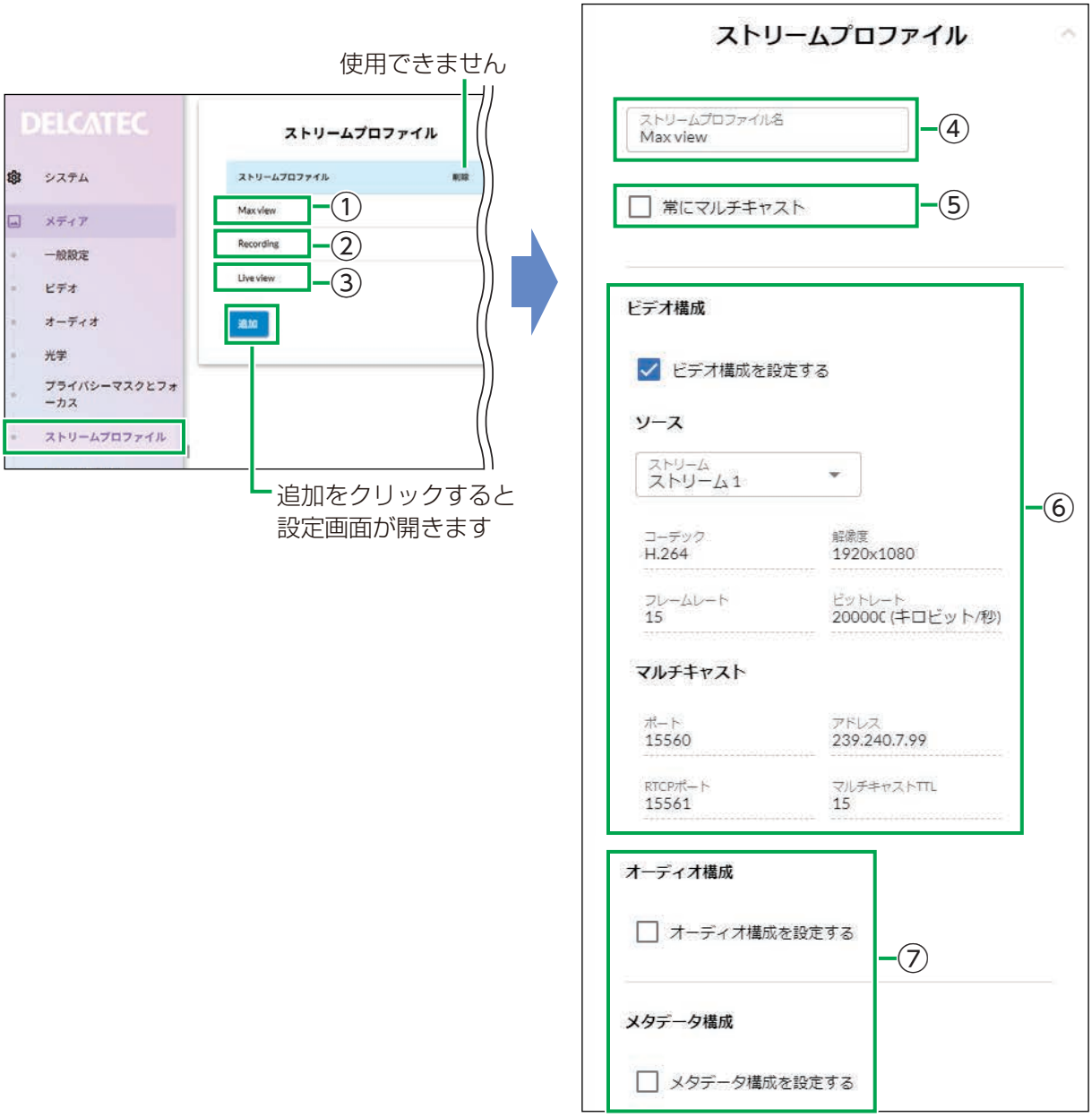
・枠にカーソルを移動するとカーソルがに変わり、エリアを移動することができます。



ストリームプロファイル

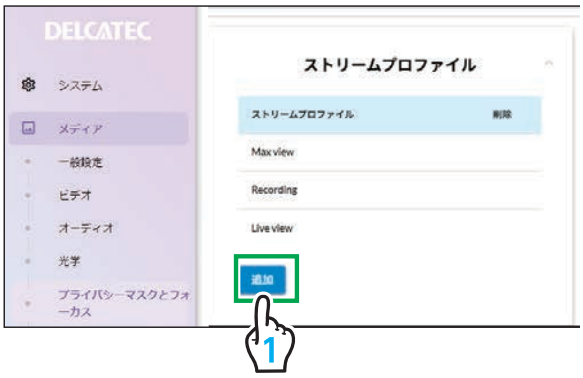
メディア > ストリームプロファイル >> ストリームプロファイル

映像品質や解像度、ビットレートなどの一括管理を行います。



番号	項目	内容
①	**Max view**	最大表示の設定を表示します。
②	**Recording**	録画用の設定を表示します。
③	**Live view**	ライブ映像用の設定を表示します。
④	**ストリーム プロファイル名**	名前を変更できます。
⑤	**常に マルチキャスト**	チェックを入れると、ストリームが常にマルチキャストで配信されます。
⑥	**ビデオ構成**	ストリームを選択し、ストリームの構成内容を確認します。（構成内容は変更できません）。
⑦	**オーディオ構成／ メタデータ構成**	オーディオ構成およびメタデータ構成内容を確認するときにチェックを入れます。（構成内容は変更できません）

＜新しいプロファイルを追加する方法＞



1 **追加** をクリックする

最大４個まで追加できます。

> ・ Max view を元に記載していますが、Recording や Live view の設定方法は同じです。
> ・「常にマルチキャスト」にチェックを入れると、その他の項目の設定はできません。

2 項目を設定する

3 **送信** をクリックする

4 新しいプロファイルが追加される

※プロファイルを削除するときは、 をクリックします。

プロファイルを削除します

ピクセル計算機

メディア > ピクセル計算機 >> ピクセル計算機

映像内の確認したい特定エリアでのピクセル数表示を行います。

番号	項目	内容
①	**ウィンドウ**	エリアを追加して、ピクセル数を確認することができます。

＜ピクセル計算機を追加する＞

1 追加 **をクリックする**

映像にエリアが追加されます。

2 **で領域を設定する**

設定方法は、＜露光ウィンドウ設定方法＞（➡ 31 ページ）を確認してください。

エリアのサイズ変更ができます

映像分析

スマート VCA 検知について

VCA 検知をご使用になるときは以下の内容にご注意ください。

段差、坂、障害物の無いフラットな面を撮影してください。

・カメラの設置高は 10m までにしてください。

・人物は直立状態で、人物の体全体が映るように設置してください。

・人物が座っている、しゃがんでいる、横たわっていると検知しない場合があります。

・対象物を正面から撮影したときは、人と自転車、バイクを誤認する場合があります。

・対象物が遠く、小さく映っていると検知しない場合があります。

・対象物が長時間静止している場合、背景と一体化（人物ボックス / 車両ボックスが表示されなくなる）することによって、検知しなくなることがあります。

・移動する人物の頭や肩が隠れると検知できない場合があります。

・混雑した場所では検知できない場合があります。

・カウンターや机などに体が隠れて人物の形状が変化すると、検知しない場合があります。

・長い車両は視野内に部分的にしか表示されずに検知しない場合があります。

・走っている人や速い車両を検知する場合は撮影時間を長くするために、視野を広くしてください。

・ガラスや反射面に映った対象物は、誤検知やイベントの重複の可能性があります。

・ドア、揺れるカーテン、エスカレーターなどの動く物体が視野内にあると誤検知の可能性があります。

・大雨や霧などの悪天候では視認性が低下し正しく検知しない場合があります。

・過度の振動は正しく検知しない場合があります。

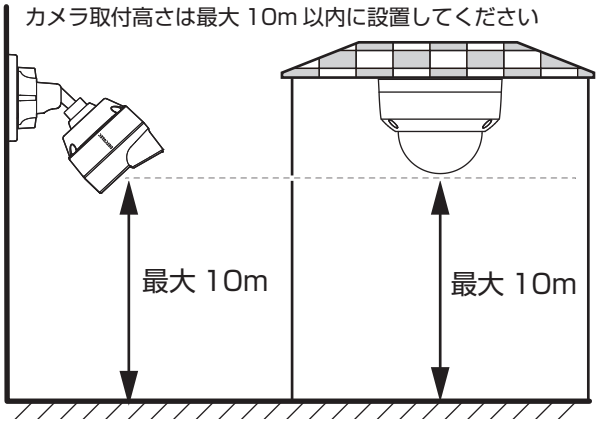
・物体と背景のコントラストが低すぎる (暗い場所に黒い車など) と検知できない場合があります。

スマート VCA 利用時の注意

本製品の取り付け時の設定を行うときは、下記を参考にして設定を行ってください。

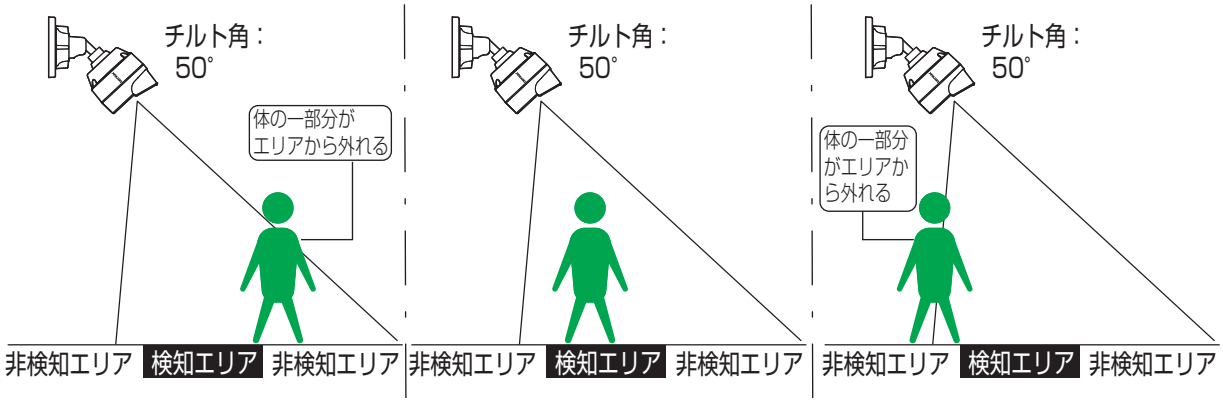
重要 **カメラの取り付け設定を行うときは、必ずズームとフォーカスの設定を行ってください。VCA の設定を行ったあとで、ズームとフォーカスの設定を行うと検知エリアが変更されしまい、VCA の設定を初めからやり直す可能性があります。**

●カメラ取付高さ



●人検知範囲とカメラのチルト角

・人の検知は画面内に立っている人（直立）の体全体が画面全体に入っていることを想定しています。
・段差や坂などのない平らな地面を想定しています。



イラストは参考イメージですので、実際の検知範囲とは異なります。

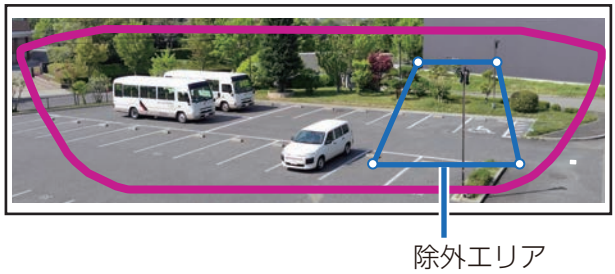
●人の検知区域または車両検知エリアの確認

人の検知区域（緑色）または車両検知エリア（紫色）のエリア範囲を確認し、必要があればマニュアルで高さやチルト角の設定を行ってください。

・除外エリアの設定方法は、<除外エリアを設定する>（➡ 46 ページ）をご確認ください。

人の検知エリア

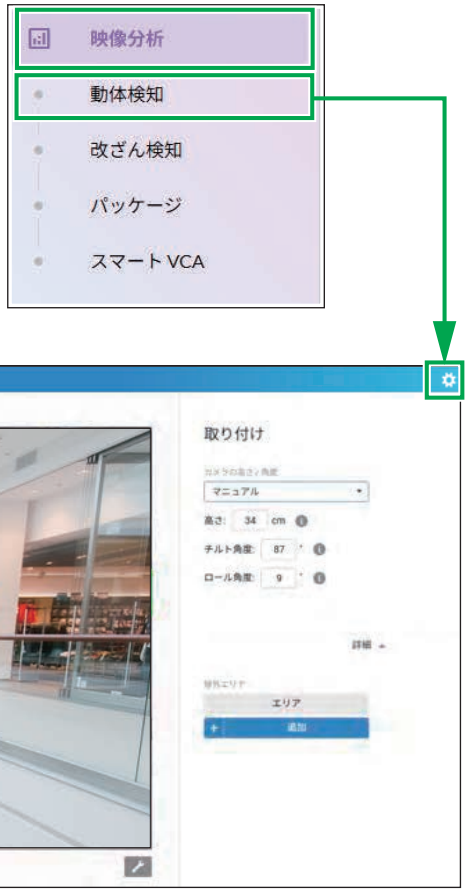
四輪の検知エリア



動体検知設定画面について

設定画面は、ホーム画面から「動体検知」をクリックすると、下記画面になります。

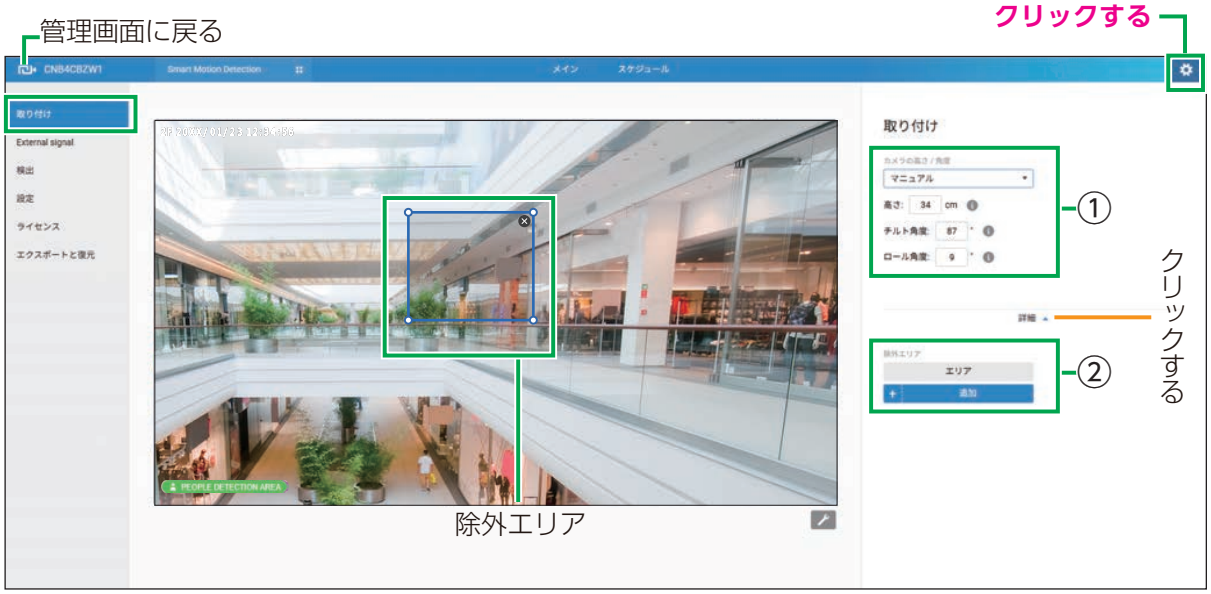
をクリックすると設定画面になります。



取り付け

映像分析 > 動体検知 >> 設定 >>> 取り付け

カメラの取り付けに関する設定を行います。



番号	項目	内容
①	**カメラの高さ / 角度**	**自動**：カメラの取り付け位置を自動的に検出し、カメラ検知に必要な設定を行います。 **マニュアル**：「自動」で設定した後、微細な調整が必要なときにカメラの取り付け高さ、傾斜角度、ロール角度を入力して調整します。 「自動」に設定すると、カメラが検知エリアを検出するまでにしばらく時間がかかります。 自動に設定後、しばらくしてカメラが設置状態を認識すると検知エリアが自動で設定されます。
②	**除外エリア**	検知しないエリアを追加することができます。

設定後、 保存 をクリックします。

＜取り付け設定をする＞

カメラの高さ / 角度は「自動」で設定してください。
個別に設定する場合は、下記の手順に従って設定をしてください。

1 をクリックする

2 項目を設定する

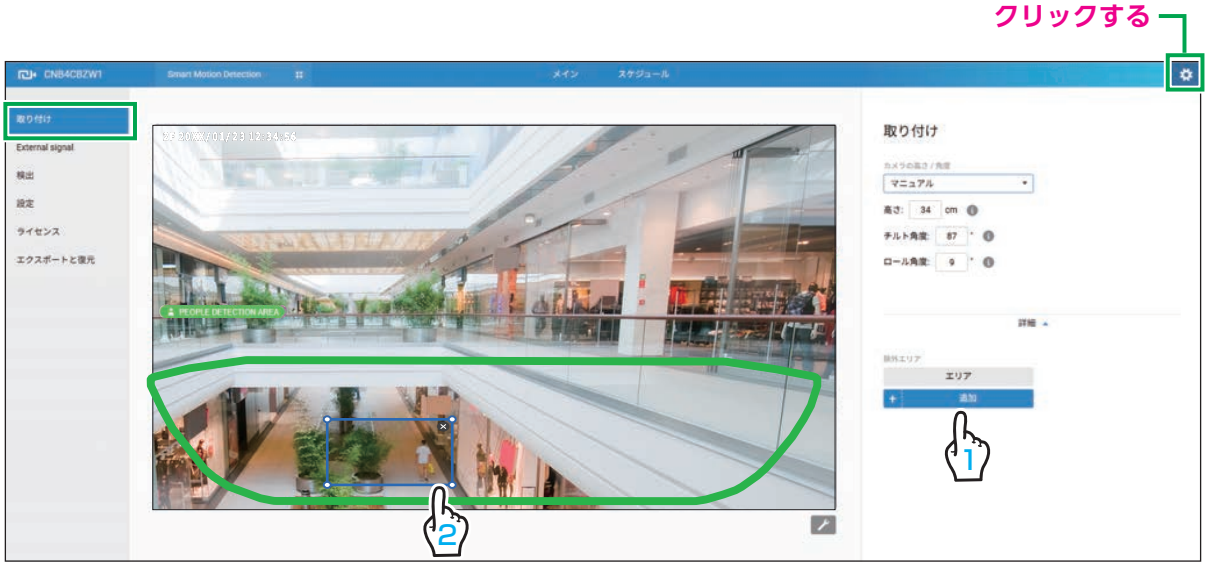
カメラ高さ / 角度	「マニュアル」に設定します。
高さ	カメラの取り付け高さを入力します。 ※ 1cm以上の値を入力してください。
チルト角度	カメラの上下の角度を入力します。
ロール角度	カメラのレンズの向きを入力します。

3 保存 をクリックする

＜除外エリアを設定する＞

1 「追加」をクリックする

2 エリアを描く
映像に除外エリアを描きます。



（イラスト：人の区域内で設定する場合）

3 設定後、保存 をクリックします。

＜除外エリアのサイズを変更する＞

エリアサイズを変更できます。

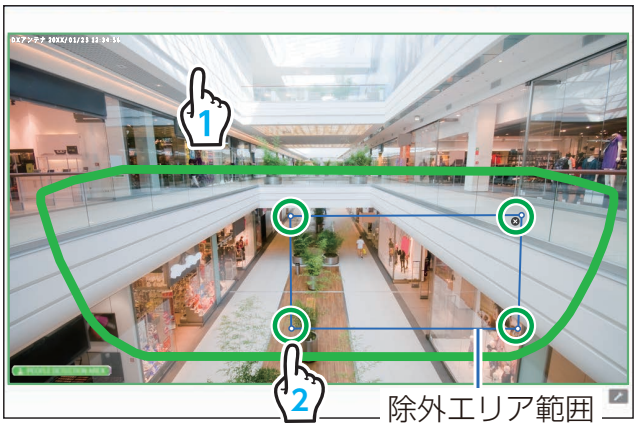
1 **エリアをクリックする**

2 **エリアサイズを変更する**

四角の にカーソルを移動すると

カーソルが に変わります。

をクリックすると削除できます。



External signal

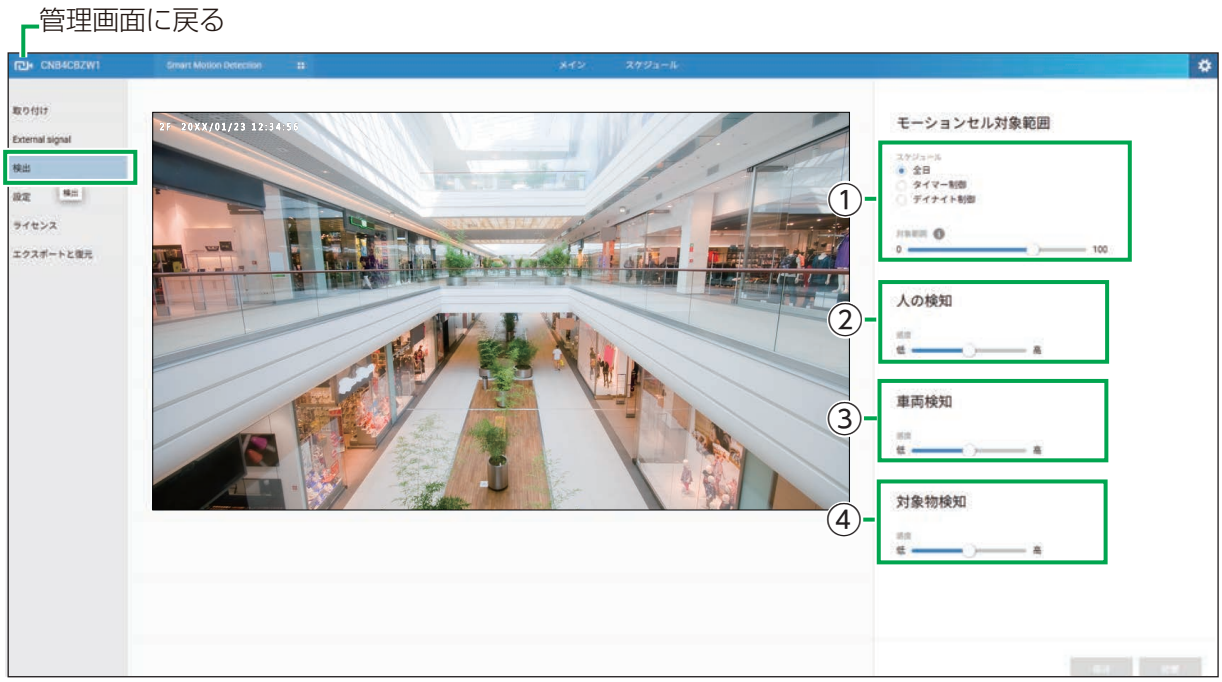
映像分析 > 設定 >>External signal

この機能は使用できません。

モーションセル対象範囲

映像分析 > 動体検知 >> 設定 >>> 検出 >>>> モーションセル対象範囲

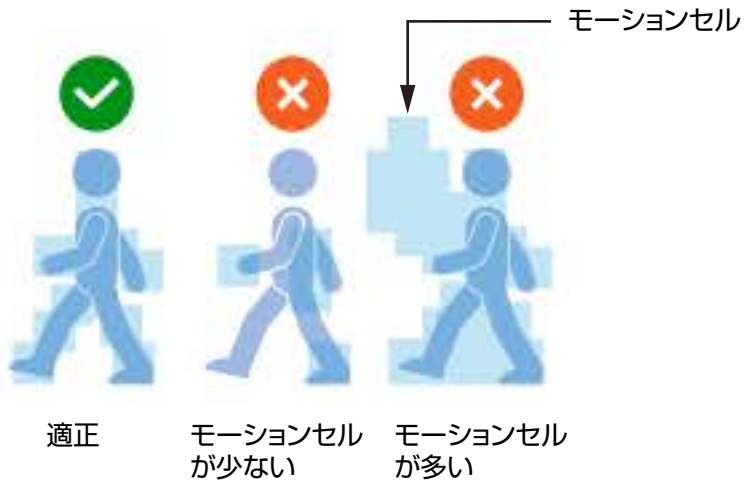
モーション検知の精度を高めて誤検知を減らすための設定を行います。



<table>
<tr><th>番号</th><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>①</td><td>モーションセル対象範囲</td><td>モーションセル検出感度を設定します（下記参照）。
<table>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td>全日</td><td>一日を通して同じ感度設定ができます。
「対象範囲」（初期値：70）のスライドバーが右にあるほど、モーションセルが多くなります。
✎ 「全日」で使用することを推奨しています。</td></tr>
<tr><td>タイマー制御</td><td>時間帯により異なる設定ができます。制御時間の開始時間と終了時間を入力し、制御時間内 / 制御時間外の感度設定ができます。
<table>
<tr><td>制御時間</td><td>制御する開始時間と終了時間を設定します。</td></tr>
<tr><td>制御時間外
制御時間内</td><td>スライドバーが右にあるほど、モーションセルが多くなります。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>デイナイト制御</td><td>昼間モードと夜間モードで異なる設定ができます。
<table>
<tr><td>デイモード
ナイトモード</td><td>スライドバーが右にあるほど、モーションセルが多くなります。</td></tr>
</table></td></tr>
</table></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>②</td><td>人の検知</td><td>人の動きを検知する感度を設定します。
スライドバーが右にあるほど、検知感度が高くなります（初期値：5）。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>車両検知</td><td>四輪の動きを検知する感度を設定します。
スライドバーが右にあるほど、検知感度が高くなります（初期値：5）。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>対象物検知</td><td>遺失物または放置物の対象となる物体を検知する感度を設定します。
スライドバーが右にあるほど、検知感度が高くなります（初期値：5）。</td></tr>
</table>

設定後、 保存 をクリックします。

＜モーションセルの感度を設定する＞



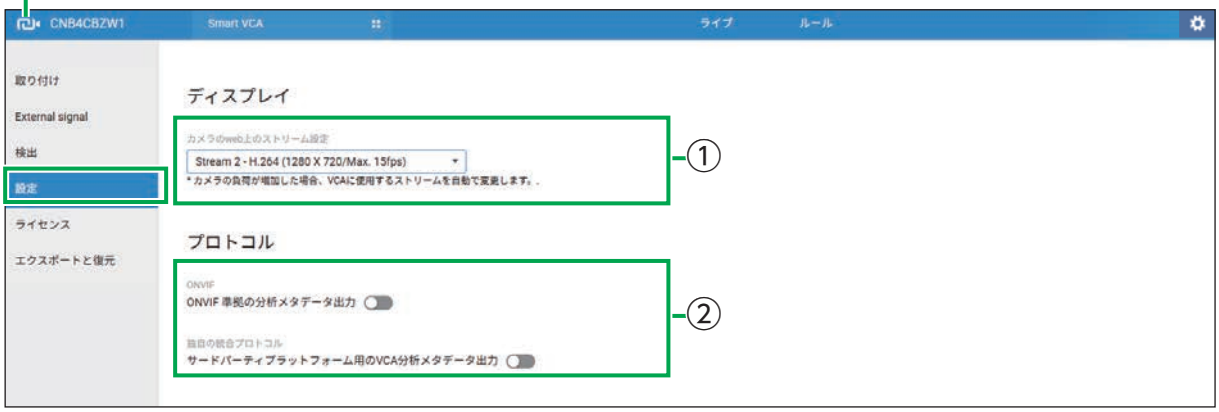
モーションセルが少ない時は感度を高くする
（スライドバーを右に移動する）

モーションセルが多い時は感度を低くする
（スライドバーを左に移動する）

映像分析 > 動体検知 >> 設定 >>> 設定

互換性のある他システムへ連携するため、カメラ映像の最適化や ONVIF 準拠対応の設定を行います。

管理画面に戻る

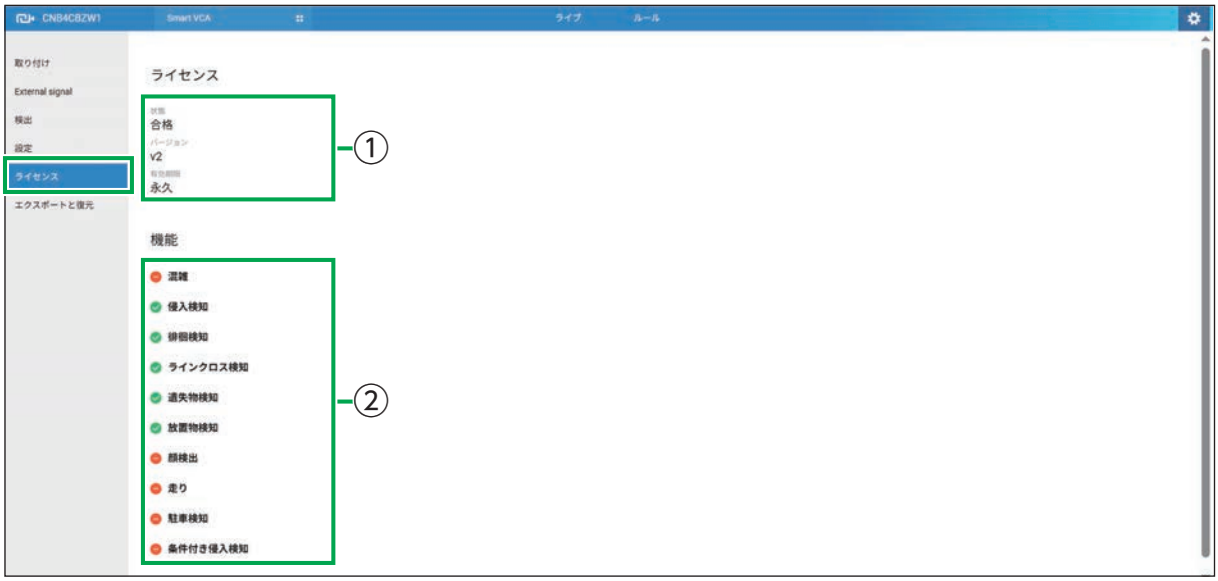


番号	項目	内容
①	**ディスプレイ**	ストリームの設定をします。 カメラの負荷が増加した場合、VCA に使用するストリームを自動で変更します。
②	**プロトコル**	「ONVIF 準拠の分析メタデータ出力」を に切り換えると、ONVIF に準拠した形式でデータを送信します。 「サードパーティプラットフォームの VCA 分析データ出力」は使用できません。

ライセンス

映像分析 > 動体検知 >> 設定 >>> ライセンス

現在使用できる検知内容の確認を行います。

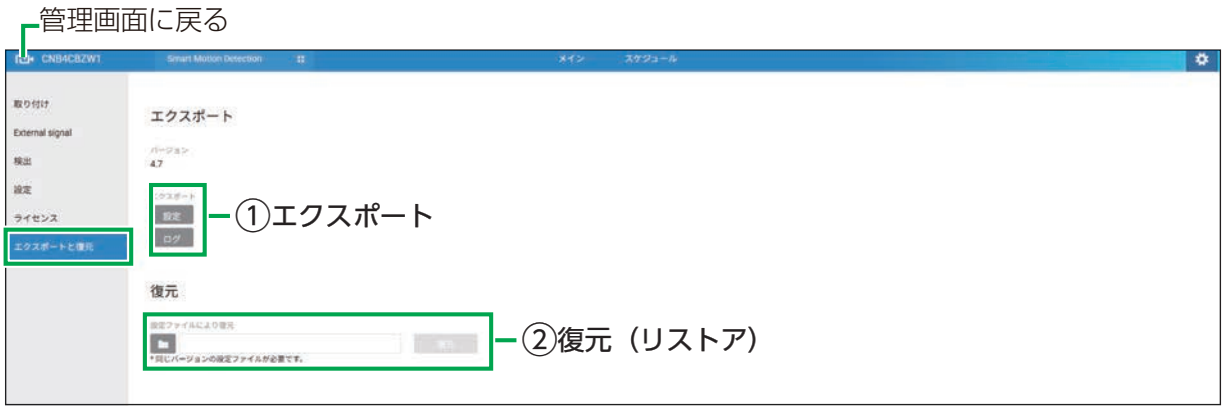


番号	項目	内容
①	**ライセンス**	ライセンス情報です。
②	**機能**	現在使用できる検知内容です。 このカメラでは使用できません。

エクスポートと復元

映像分析 > 動体検知 >> 設定 >>> エクスポートと復元

現在の設定内容をエクスポートしたり、エクスポートした設定内容を別のカメラに復元（リストア）したりできます。



番号	項目	内容	
①	**エクスポート**	**設定**	クリックすると、設定内容をパソコンにエクスポートします。
		ログ	クリックすると、ログデータをパソコンにエクスポートします。
②	**復元（リストア）**		クリックすると、パソコンに保存した設定内容を選択できます。
		復元	クリックして、パソコンに保存した設定内容をカメラに復元（リストア）することができます。

スマートモーション検出

映像分析 > 動体検知 >> スマートモーション検出

メイン

人の検知区域または車両検知エリアを表示することができます。また、人または四輪を検出したときに、それぞれ検出したことを示すための枠を表示することができます。

初期設定では、すべての表示は（有効）に設定されています。

＜人の検知区域または車両検知エリアを（有効）にする＞

スライドバーで感度を調整することができます。（➡ 55 ページ）

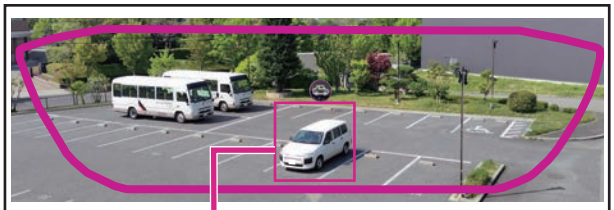
人の検知区域

検知枠が表示されます（正常に検知しています）

検知枠が表示されない
感度を高く設定します
（スライドバーを右に移動する）

検知枠だけが表示される
感度を低く設定します
（スライドバーを左に移動する）
木の揺れなど誤検知しやすい部分を除外エリアに設定します

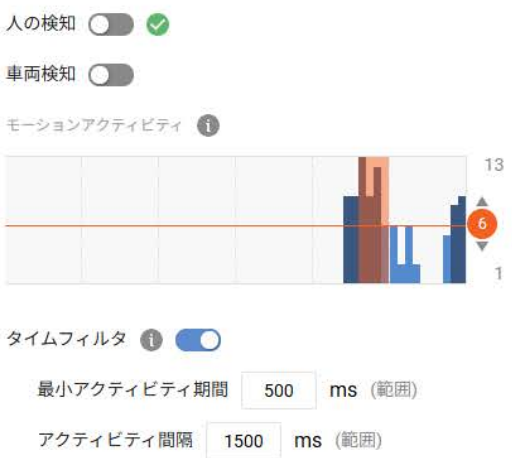
車両検知エリア



検知枠が表示されます（正常に検知しています）

検知枠が表示されない
感度を高く設定します
（スライドバーを右に移動する）

検知枠だけが表示される
感度を低く設定します
（スライドバーを左に移動する）
木の揺れなど誤検知しやすい部分を除外エリアに設定します

<table>
<tr><th>番号</th><th>項目</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">カスタム
プロパティ</td><td>情報</td><td>（有効）に切り換えると、下記の情報が表示されます。
<table><tr><td>モーションセル</td><td>モーションを検知したときに、 のセルが表示されます。</td></tr><tr><td>人物ボックス</td><td>人を検知したときに、 が表示されます。</td></tr><tr><td>車両ボックス</td><td>四輪を検知したときに、 が表示されます。</td></tr></table>※ 2 輪車などは検知しない場合があります。</td></tr>
<tr><td>場面</td><td>（有効）に切り換えると、検知エリアを表示します（➡ 43 ページ）。
<table><tr><td>人の検知区域</td><td>人の検知区域を緑色で表示します。</td></tr><tr><td>車両検知エリア</td><td>四輪の検知エリアを紫色で表示します。</td></tr><tr><td>除外エリア</td><td>設定した検知しないエリアを表示します。
（➡ 45 ページ）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>②</td><td>人の検出</td><td colspan="2">（有効）に切り換えると、設定した検知エリア内で人物を検出したことを表す枠が検知した人物の周りに表示されます（➡ 43 ページ）。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>車両の検出</td><td colspan="2">（有効）に切り換えると、設定した検知エリア内で四輪を検出したことを表す枠が検知した四輪の周りに表示されます（➡ 43 ページ）。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>モーション
アクティビ
ティ</td><td colspan="2">「人の検知」および「車両検知」を （無効）に切り換えると、検知レベルの設定ができます。「人の検知」および「車両検知」を （有効）（モーションアクテビティが有効になります）にすると、画像の変化があったときに検知をします。
それぞれの検知感度を設定することができます（➡ 55 ページ）。
  </td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>タイム
フィルタ</td><td colspan="2">設定すると、検出期間と検出間隔の設定をします。
（有効）に切り換えると、人物または四輪の検出がモーションアクティビティの対象になります。
最小アクティビティ期間：
検知をしない最小継続期間を設定し、設定した時間によって のグラフの連続した本数が変わります。この表示の間は、しきい値を超えているが検知をしません。
アクティビティ間隔：
最初の検知通知を行ったあと、以降の通知は のグラフが表示されている間は、通知を行いません。設定した時間によって のグラフの連続した本数が変わります。</td></tr>
</table>

設定後、 保存 をクリックします。

＜モーションアクティビティの設定方法＞

「人の検知」および「車両検知」を無効にします

マウスで上下にスライドすると検知レベルのしきい値を設定することができます。

保存ボタンをクリックすると、設定が有効になります。

⑤タイムフィルタを有効にし、「最小アクティビティ期間」および「アクティビティ間隔」を設定します。

- 検知をしない最小継続期間を設定し、設定した時間によってグラフの連続した本数が変わります。この表示の間は、しきい値を超えているが検知をしません。
- 最初の検知通知を行ったあと、グラフが表示されている間は、通知を行いません。設定した時間によってグラフの連続した本数が変わります。
- しきい値以下のため、検知していません。

＜検知マークの設定方法＞

1 Smart Motion Detection をクリックする

2 をクリックする

3 検知対象を設定する

4 保存 をクリックする

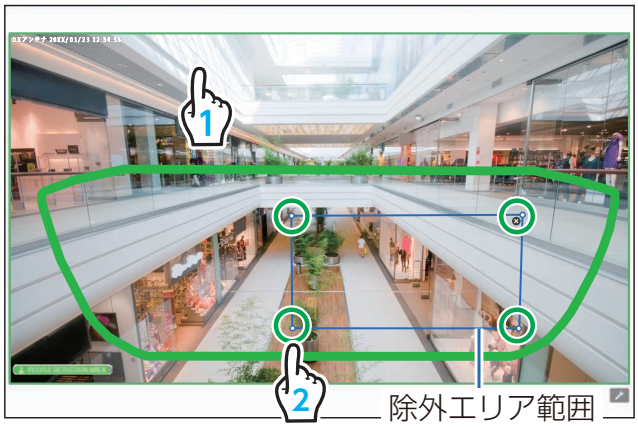
＜検知範囲の設定方法＞

設定した検知範囲で人、または四輪を検知すると検知範囲が赤色で表示されます。
設定した [人の検知区域] または「車両検知エリア」のエリア内で設定してください。

1 **映像をクリックする**
検知範囲が表示されます。

2 **にカーソルを移動するとカーソルが に変わります**
ドロップすることで、検知範囲のサイズを変更することができます。
をクリックすると削除できます。

3 保存 をクリックする

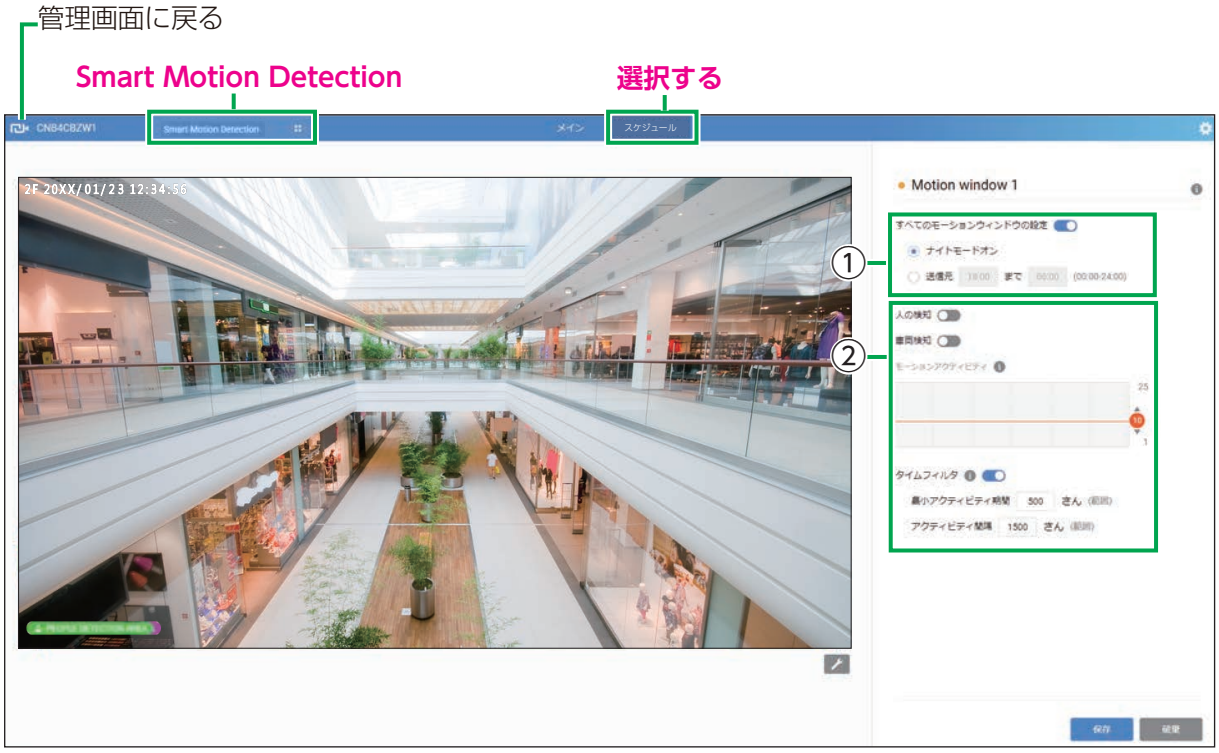


スケジュール

モーション検知のスケジュールを設定することができます。

スケジュールを設定するときは、検知マークおよび検知範囲の設定が必要です。

設定については、＜検知マークの設定方法＞（➡ 56 ページ）と検知範囲の設定方法（➡ 56 ページ）をご確認ください。



番号	項目	内容
①	**すべてのモーションウィンドウの設定**	（有効）に切り換えると、すべてのモーション検知のウィンドウに設定が適用されます。 **ナイトモードオン**：チェックを入れると、夜間のみモーション検知を有効にできます。 **送信元**：モーション検知する時間を入力します。
②	**人の検知／車両検知／モーションアクティビティ／タイムフィルタ**	設定方法は、＜モーションアクテビティの設定方法＞（➡ 55 ページ）を参照してください。

設定後、保存をクリックします。

改ざん検知

映像分析 > 改ざん検知 >> 改ざん検知

カメラが正常に作動しなくなったことを検知します。

番号	項目	内容	
①	**改ざん**	☐ 改ざん にチェックを入れると、カメラが移動されたり、視野が遮られたりしたときに検知します。	**トリガー持続時間** 検知を開始する時間を設定します。 スライダーが右にあるほど、時間は長くなります。 **トリガー閾値** 検知感度を設定します。 スライダーが右にあるほど、感度が高くなります。
②	**画像が暗すぎる**	☐ 画像が暗すぎる にチェックを入れると、レンズが覆われるなどの場合に検知します。	
③	**画像が明るすぎる**	☐ 画像が明るすぎる にチェックを入れると、ライトなどが当たり画像が明るすぎるなどの場合に検知します。	
④	**画像がぼやけすぎる**	☐ 画像がぼやけすぎる にチェックを入れると、ピントが合っていないなどで映像がぼやけているときに検知します。	

設定後、 送信 をクリックします。

パッケージの管理

映像分析 > パッケージ >> パッケージの管理

ネットワークカメラの拡張機能や動作の最適化が可能になります。

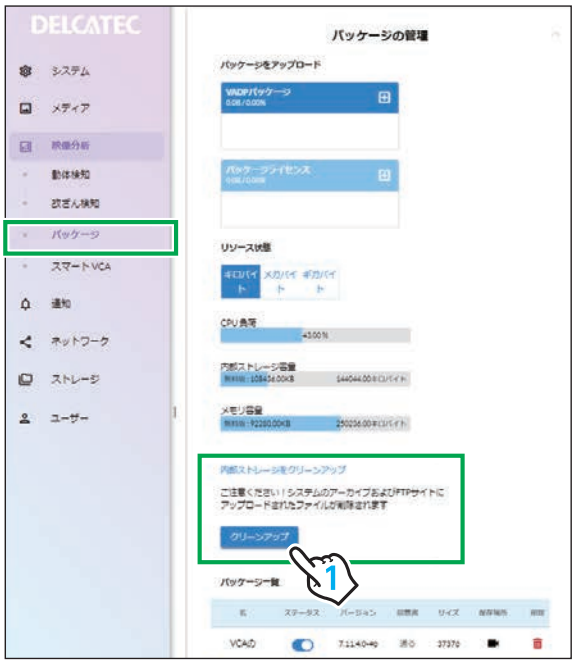
番号	項目	内容
①	**パッケージをアップロード**	この機能は使用できません。
②	**リソース状態**	KB　MB　GB　表示単位を設定します。 **CPU 負荷**：CPU の使用率をパーセントで表示します。 **内部ストレージ容量**：カメラの内部ストレージ状況を表示します。 **メモリ容量**：カメラのメモリ使用状況を表示します。 内部ストレージのクリーンアップの方法（➡ 60 ページ）
③	**パッケージ一覧**	カメラにインストール済のパッケージ情報が表示されます。 はクリックしないでください。 VCA などのインストール済の機能が削除されます。

＜内部ストレージのクリーンアップの方法＞

システムのアーカイブおよび FTP サイトにアップロードされたファイルが削除されます。

1 項目を設定する

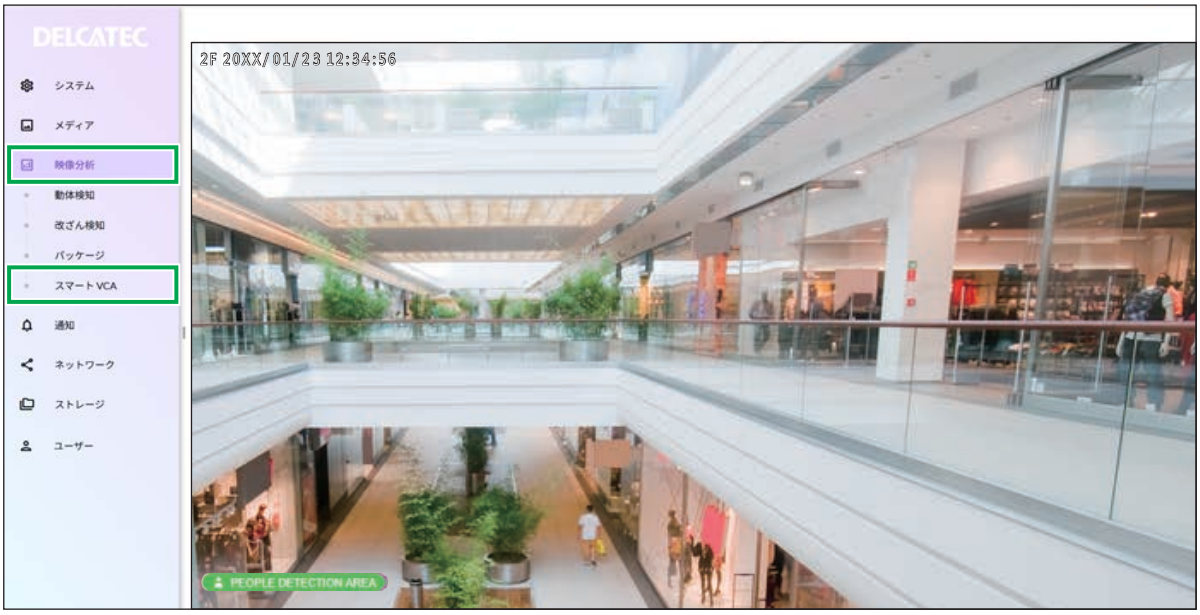
クリーンアップ をクリックすると、クリーンアップが始まります。



- 警告内容が表示されたときは、表示された内容を読んでから「クリーンアップ」をクリックします。

スマート VCA 設定画面について

設定画面は、ホーム画面から「映像分析」＞「スマート VCA」をクリックします。

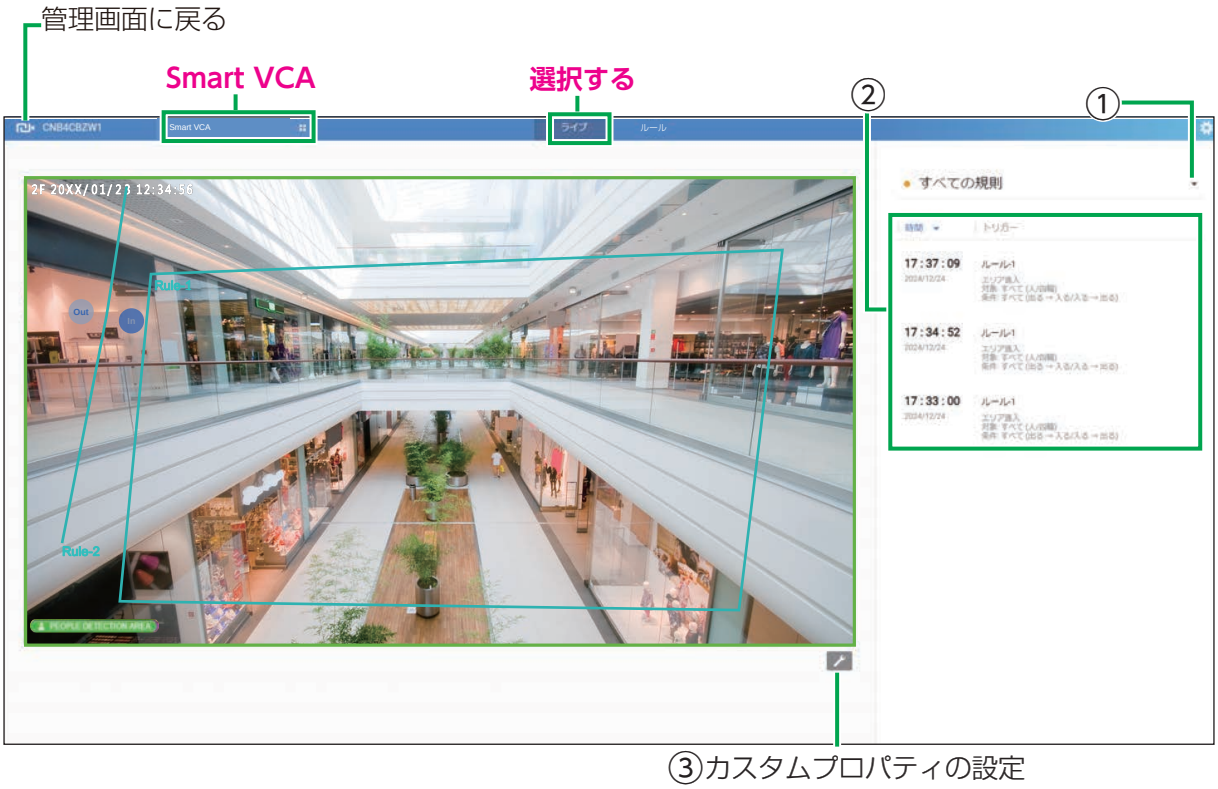


スマート VCA

「スマート VCA」メニューは、「映像分析」＞「動他検知」>>「スマートモーション検出」（➡ 52 ページ）から「Smart VCA」に切り換えることもできます。

ライブ

ルール（➡ 63 ページ）で設定した検知状態を確認することができます。



<table>
<tr><th>番号</th><th colspan="2">項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>①</td><td colspan="2">すべてのルール</td><td>設定したルールに切り換えることができます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td rowspan="2">検知結果</td><td>時間</td><td>検知した時間を表示します。</td></tr>
<tr><td>トリガー</td><td>検知したルールの内容を表示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td rowspan="2">カスタムプロパティ</td><td>情報</td><td>（有効）に切り換えると、下記の情報が表示されます。
<table><tr><td>人物ボックス</td><td>人を検知したときに、 が表示されます。</td></tr><tr><td>車両ボックス</td><td>四輪を検知したときに、 が表示されます。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>場面</td><td>（有効）に切り換えると、検知エリアを表示します。
<table><tr><td>人の検知区域</td><td>人の検知区域を緑色で表示します。</td></tr><tr><td>車両検知エリア</td><td>四輪の検知エリアを紫色で表示します。</td></tr><tr><td>除外エリア</td><td>設定した検知しないエリアを表示します。
（➡ 45 ページ）</td></tr></table></td></tr>
</table>

＜カスタムプロパティの設定方法＞

1 Smart VCA をクリックする

2 をクリックする

3 **検知対象を設定する**

初期設定では、すべての表示は（有効）に設定されています。

ルール

検知するルールを設定します。
設定した [人の検知区域] または「車両検知エリア」のエリア内で設定してください。
検知範囲の設定方法は、＜検知範囲の設定方法＞（➡ 56 ページ）をご確認ください。

番号	項目		内容
①	**ルール追加 / ルール名変更**		＋ 最大で５つのルールを追加することができます。 ルール名を変更することができます。 ・ ルール名はルールを作成するときのみ変更が可能です。ルールを作成中はルール名を変更することはできません。
②	**検知タイプ**	**侵入検知** **（➡ 64 ページ）**	設定したエリアに人物や四輪が侵入したことを検知します。
		徘徊検知 **（➡ 67 ページ）**	設定したエリア内に人物が設定した時間以上にとどまっていることを検知します。
		遺失物検知 **（➡ 70 ページ）**	設定したエリア内の対象物が持ち去られたことを検知します。
		放置物検知 **（➡ 73 ページ）**	指定したエリア内に対象物が指定した時間以上に存在していること（放置されていること）を検知します。
		ラインクロス検知 **（➡ 76 ページ）**	指定したラインを人物や四輪が通過すると検知します。

設定後、 保存 をクリックします。

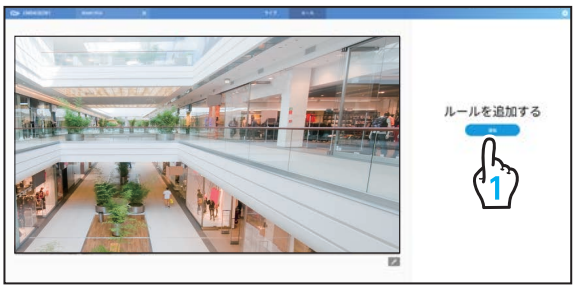
■侵入検知を設定する

設定したエリアで人や四輪が侵入および退出したことを検知します。

＜新しく検知エリアを設定する＞

1 「追加」をクリックする

右記の画面が表示されているときは、「追加」をクリックします。



2 検知タイプを選択する

「侵入検知」を選択します。

・ ルールを新しく追加するときは「+」をクリックします。

ルールを新しく追加するときにクリックする

3 映像をクリックしてエリアを作成する

クリックして追加されるポイントで多角形を描きます（20 角形まで作成できます）。

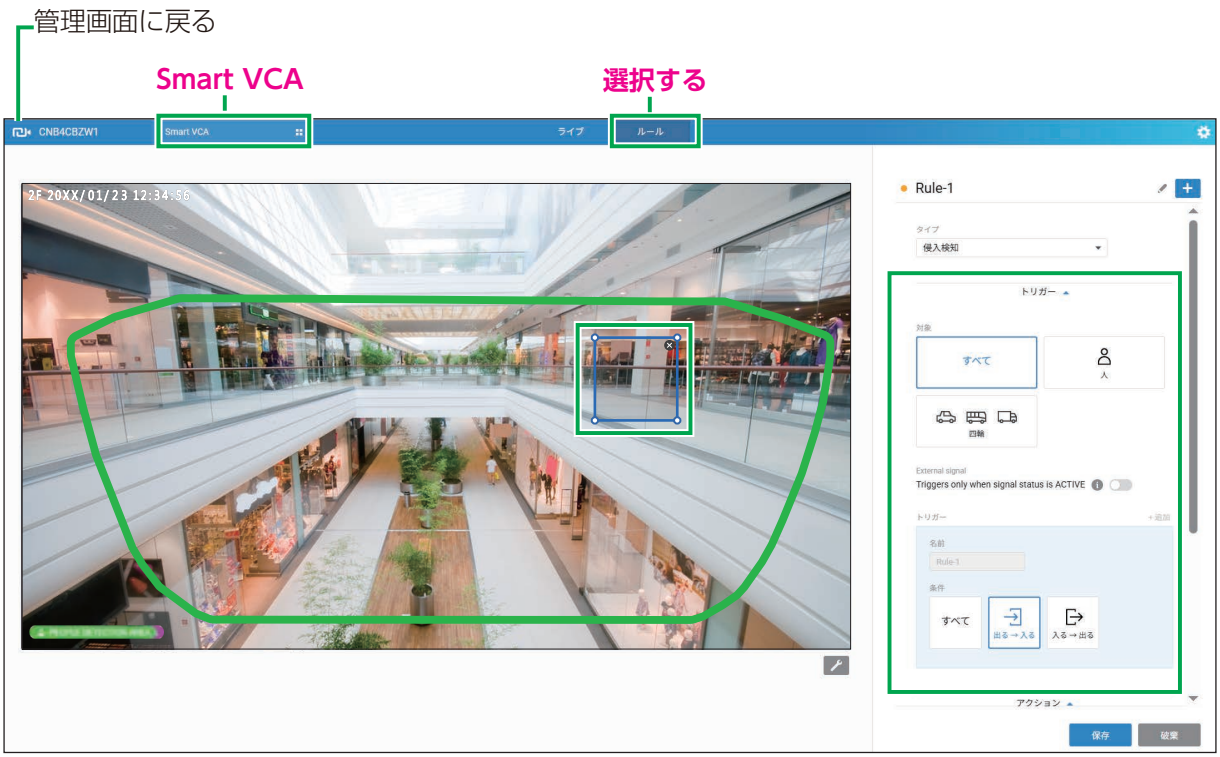
（エリアサイズを変更するとき）

にカーソルを移動するとカーソルが に変わり、をドラッグするとエリア形状を変更することができます。

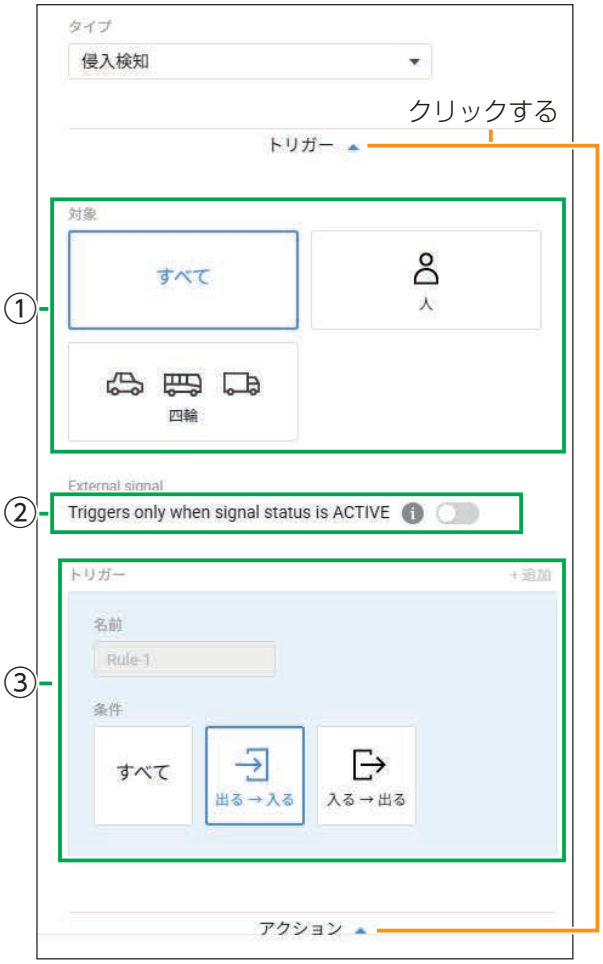
をクリックすると削除できます。

＜検知項目を設定する＞

侵入検知の必要な項目を設定します。



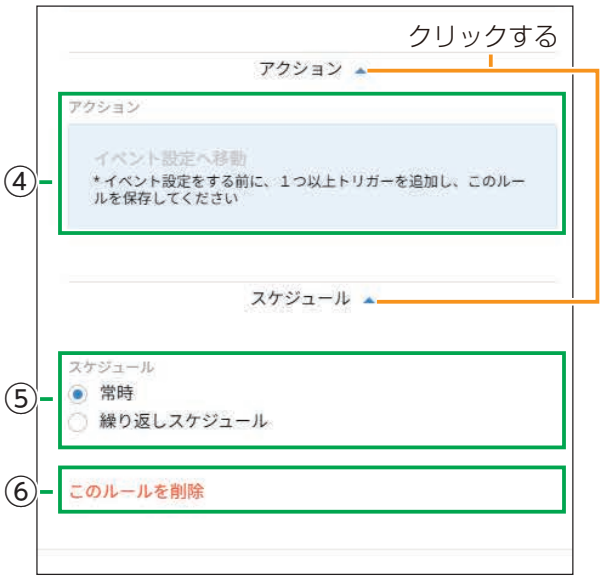
番号	項目	内容
①	**対象**	検知する対象を選択します。 ※２輪車などは検知しない場合があります。
②	**外部信号**	この機能は使用しません。
③	**トリガー**	検知する侵入経路を選択します。 **すべて**：対象物が侵入および退出したことを検知します。 **出る→入る**：対象物が侵入したことを検知します。 **入る→出る**：対象物が退出したことを検知します。



＜検知項目を設定する（つづき）＞

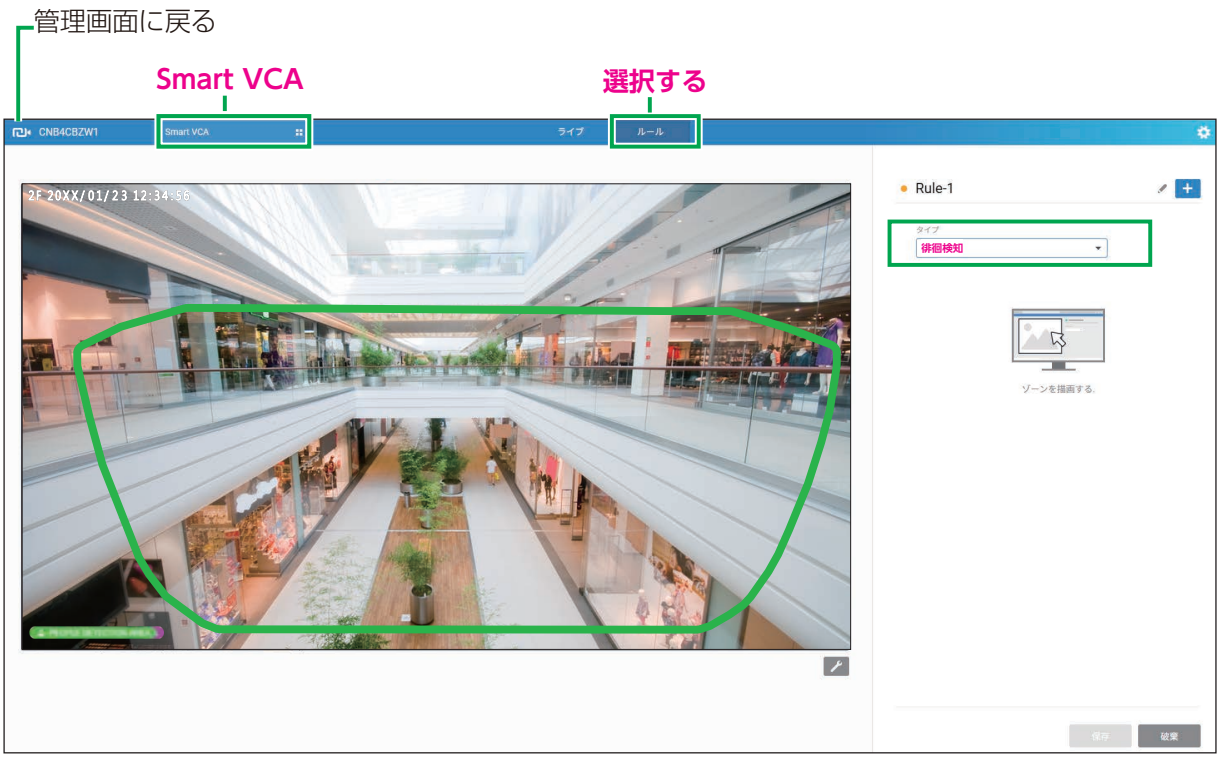
番号	項目	内容
④	アクション	ルールを保存するとイベント設定に移動することができます。 （➡ 79 ページ）
⑤	スケジュール	スケジュールの設定ができます。
⑥	ルールを削除します。	

設定後、 保存 をクリックします。



■徘徊検知を設定する

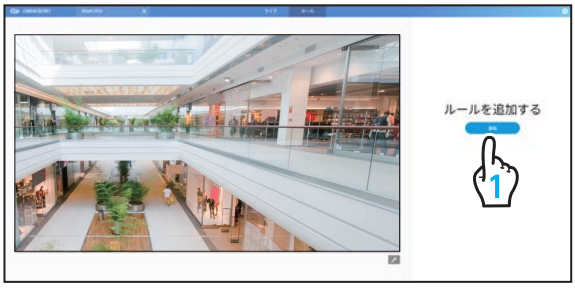
設定したエリアに人が設定した時間以上にとどまっていることを検知します。



＜新しく検知エリアを設定する＞

1 「追加」をクリックする

右記の画面が表示されているときは、「追加」をクリックします。



2 検知タイプを選択する

「徘徊検知」を選択します。

・ ルールを新しく追加するときは「+」をクリックします。

ルールを新しく追加するときにクリックする

3 映像をクリックしてエリアを作成する

クリックして追加されるポイントで多角形を描きます（20 角形まで作成できます）。

（エリアサイズを変更するとき）

にカーソルを移動するとカーソルが に変わり、 をドラッグするとエリア形状を変更することができます。

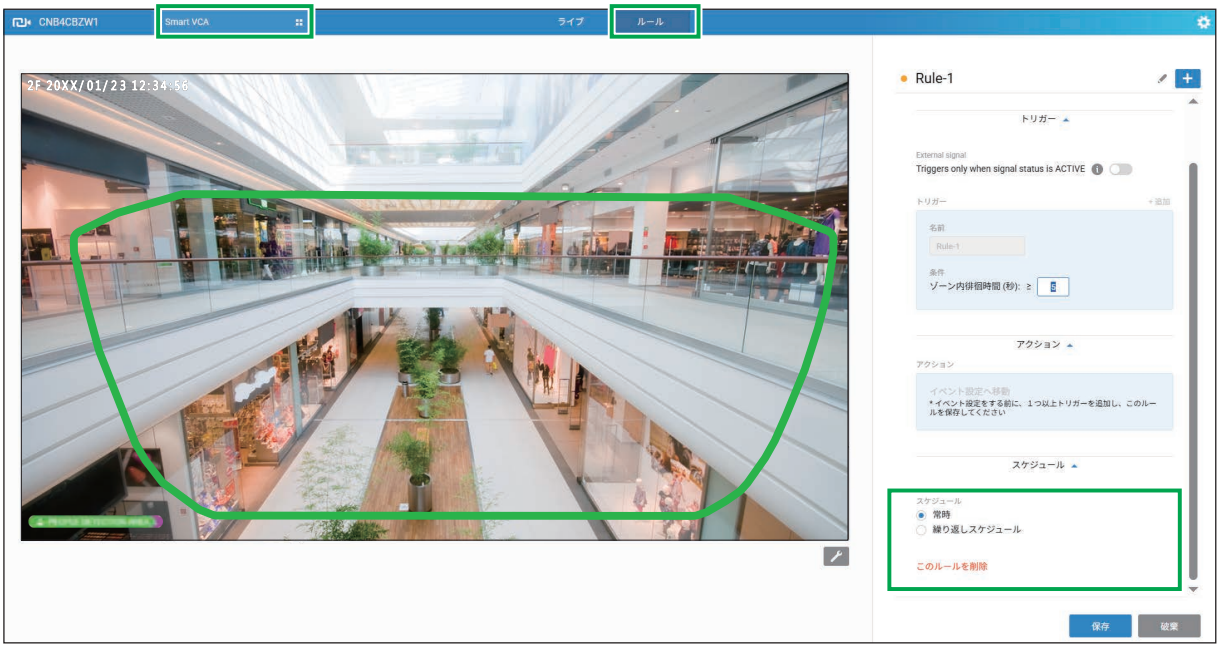
をクリックすると削除できます。

＜検知項目を設定する＞

徘徊検知の必要な項目を設定します。

番号	項目	内容
①	**外部信号**	この機能は使用しません。
②	**トリガー**	対象物が侵入してから、検知を開始する時間を設定します。（初期値：5 秒）
③	**アクション**	ルールを保存するとイベント設定に移動することができます。（➡ 79 ページ）

＜検知項目を設定する（つづき）＞

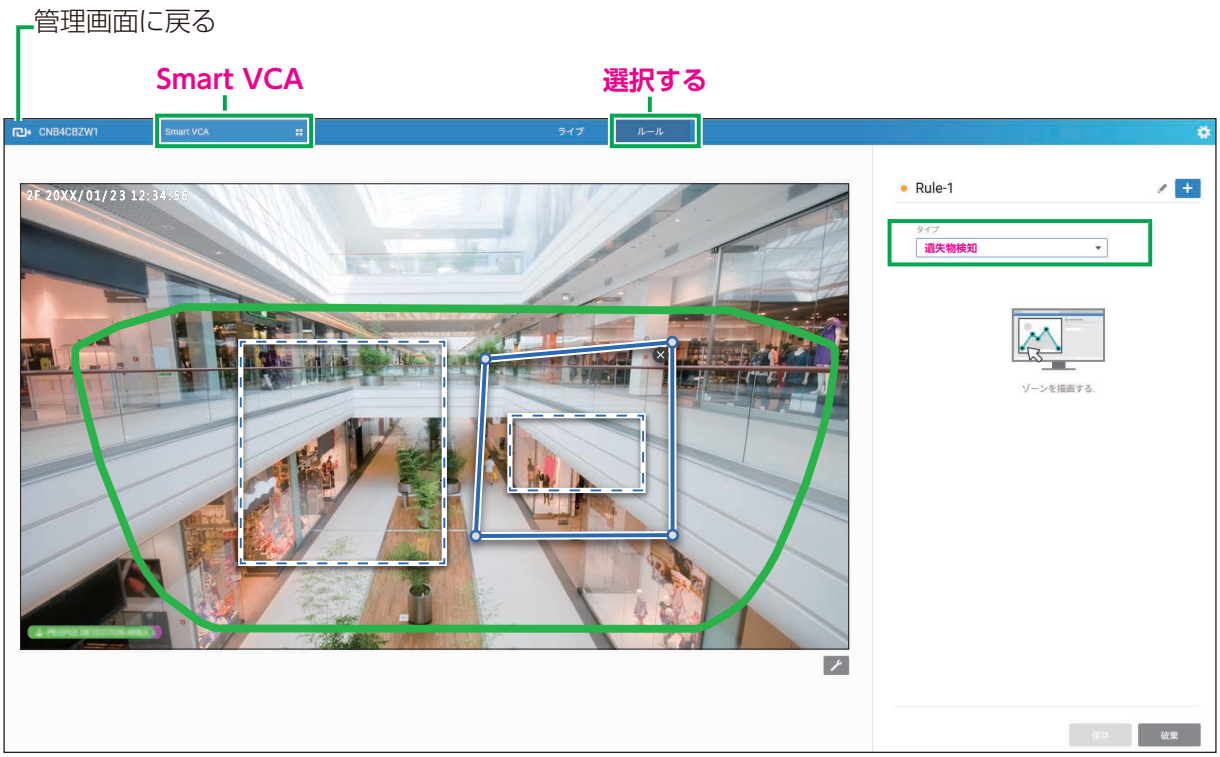


番号	項目	内容
④	**スケジュール**	スケジュールの設定ができます。
⑤	ルールを削除します。	

設定後、 保存 をクリックします。

■遺失物検知を設定する

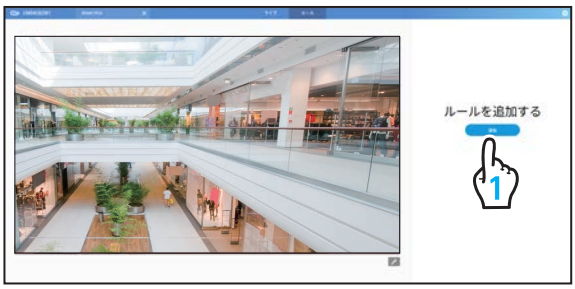
設定したエリア内の対象物が持ち去られたことを検知します。



＜新しく検知エリアを設定する＞

1 「追加」をクリックする

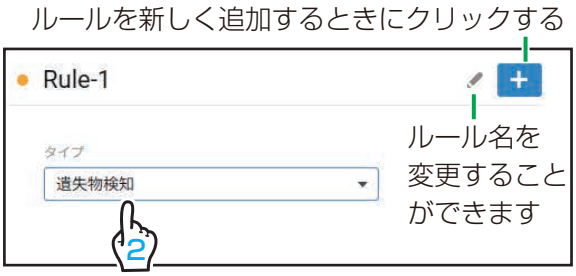
右記の画面が表示されているときは、「追加」をクリックします。



2 検知タイプを選択する

「遺失物検知」を選択します。

・ルールを新しく追加するときは「+」をクリックします。

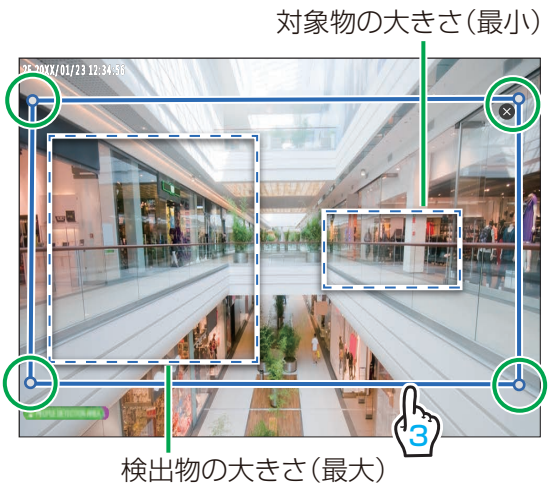


3 映像をクリックしてエリアを作成する

・クリックして追加されるポイントで多角形を描きます（20 角形まで作成できます）。
（エリアを描くと、「検出物の大きさ(最大)」と対象物の大きさ(最小)」の検知エリアが表示されます。）

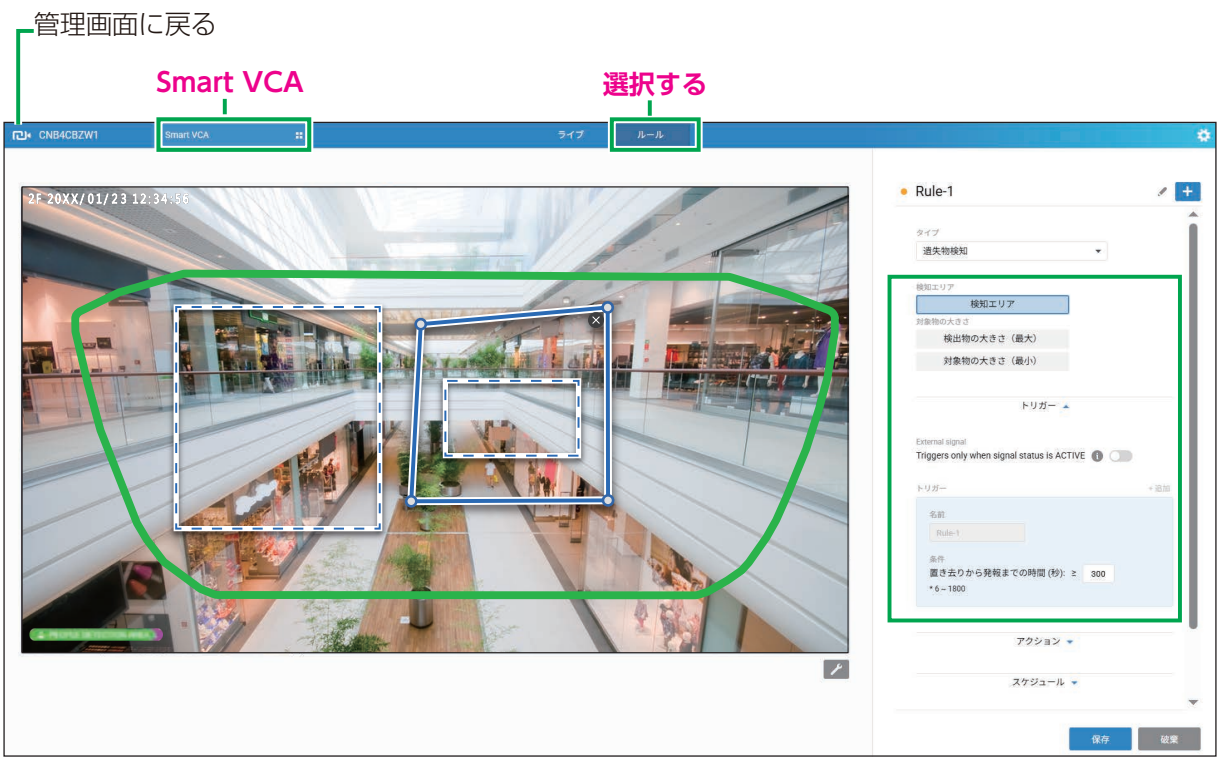
（エリアサイズを変更するとき）

にカーソルを移動するとカーソルが に変わり、ドラッグするとエリアサイズを変更することができます。 をクリックすると削除できます。

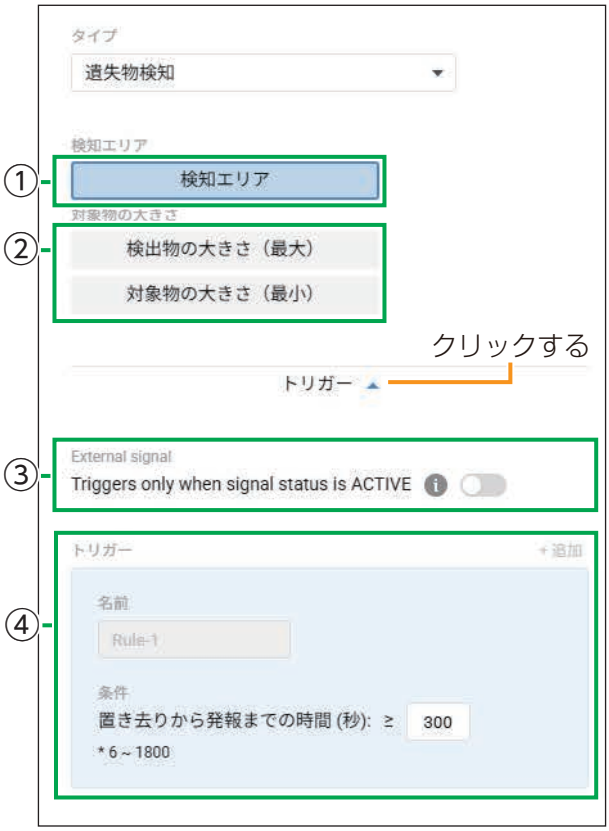


＜検知項目を設定する＞

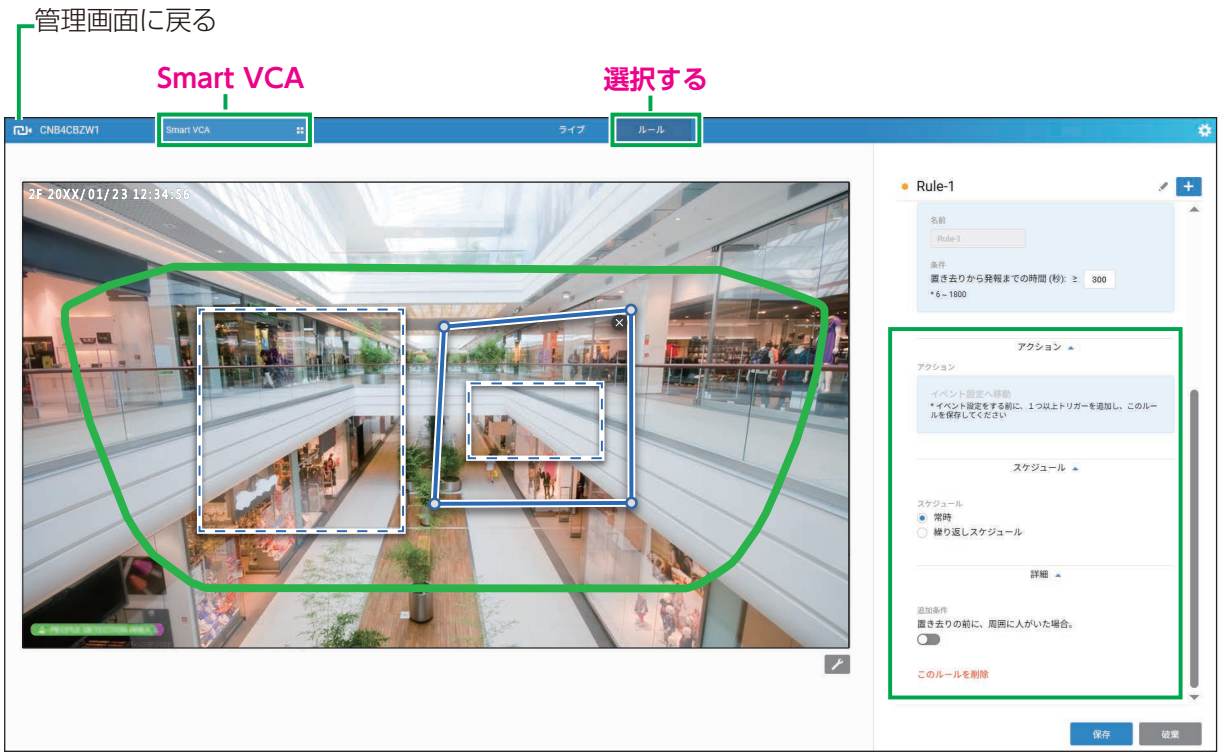
遺失物検知の必要な項目を設定します。



番号	項目	内容
①	**検知エリア**	検知するエリアを設定します。
②	**対象物の大きさ（➡ 72 ページ）**	検知エリア内で検知する「検出物の大きさ（最大）」と「対象物の大きさ（最小）」を設定します。 検知エリア内に設定した最大 / 最小のサイズ内で検知します。 **検出物の大きさ（最大）**：オブジェクトの最大サイズを設定します。 **対象物の大きさ（最小）**：オブジェクトの最小サイズを設定します。
③	**外部信号**	この機能は使用しません。
④	**トリガー**	対象物が移動または消失してから検知を開始する時間を設定します（初期値：300 秒）。

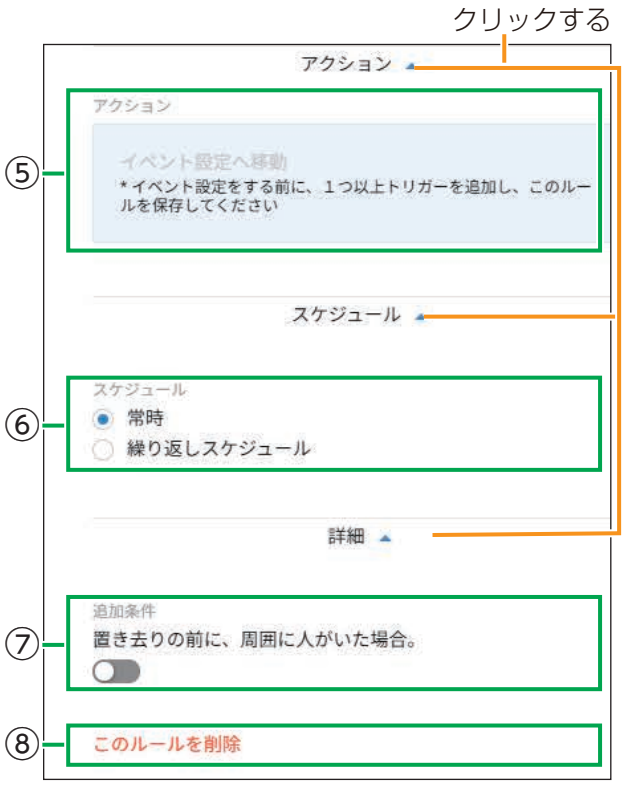


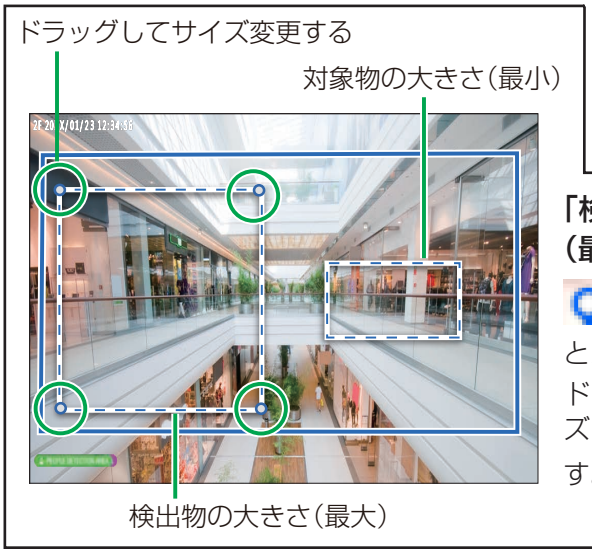
＜検知項目を設定する（つづき）＞



番号	項目	内容
⑤	**アクション**	ルールを保存するとイベント設定に移動することができます。 （➡ 79 ページ）
⑥	**スケジュール**	スケジュールの設定ができます。
⑦	**追加条件**	（有効）に切り換えると、人が対象物の近くをとおり、その後対象物が移動または消失したときに検知します。
⑧	ルールを削除します。	

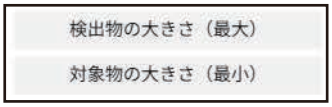
設定後、 保存 をクリックします。





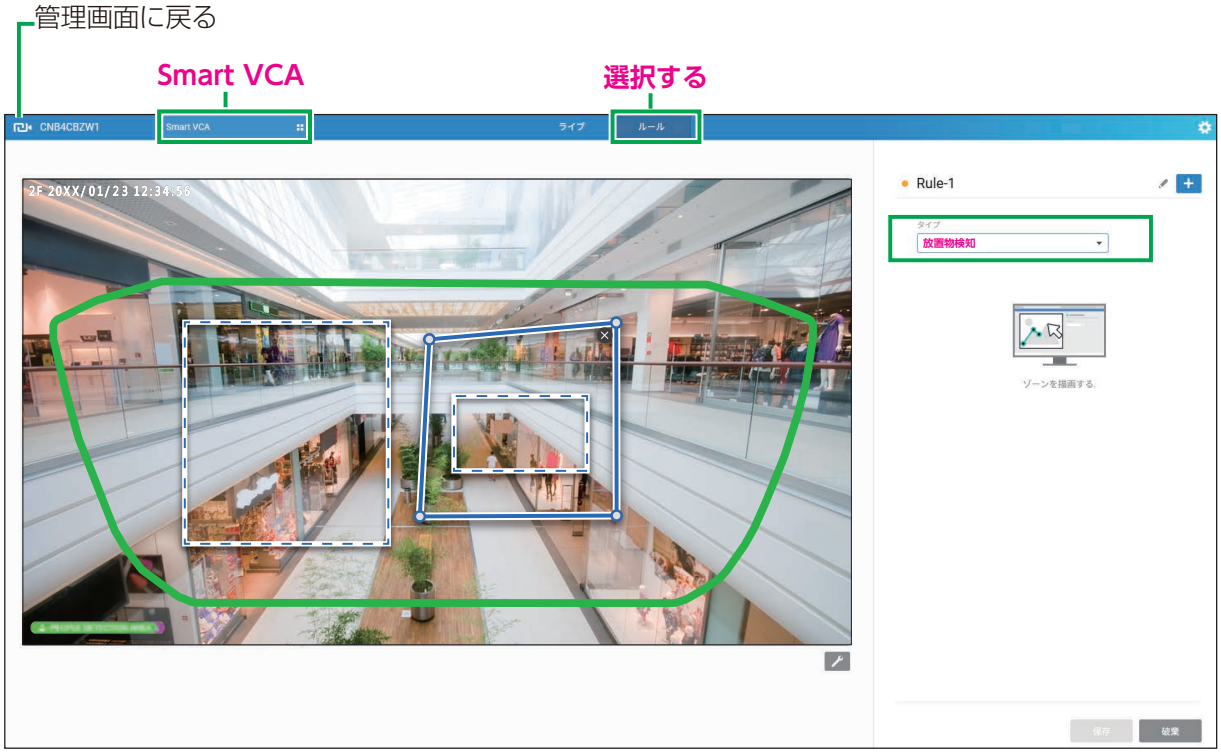
「検出物の大きさ（最大）」または「対象物の大きさ（最小）」を選択する

にカーソルを移動するとカーソルが に変わり、ドラッグするとエリアサイズを変更することができます。

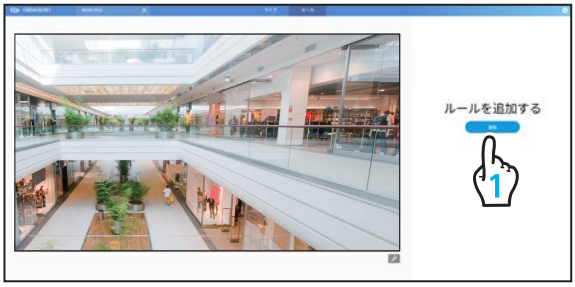


■放置物検知を設定する

指定したエリア内に対象物を指定時間以上あるときに検知します。
表示中の車両ボックス（➡ 53 ページ）が消えると通知します。



＜新しく検知エリアを設定する＞



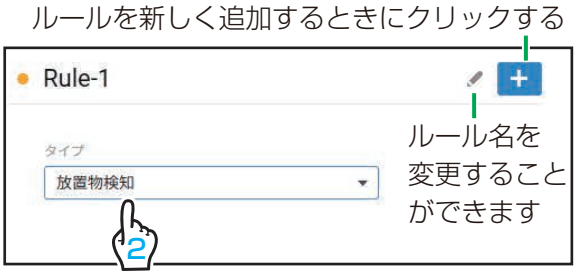
1 「追加」をクリックする

右記の画面が表示されているときは、「追加」をクリックします。

2 検知タイプを選択する

「放置物検知」を選択します。

・ ルールを新しく追加するときは「+」をクリックします。

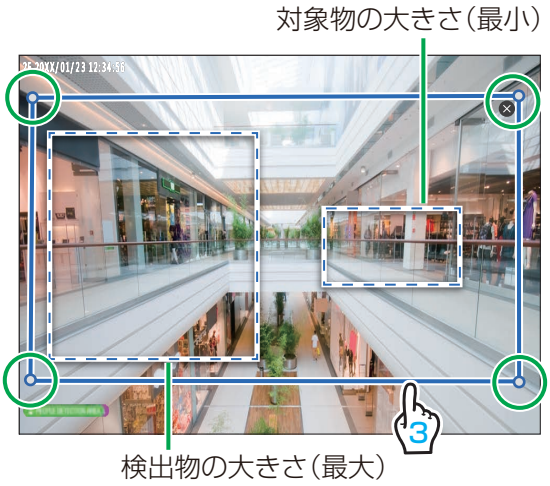


3 映像をクリックしてエリアを作成する

・クリックして追加されるポイントで多角形を描きます（20 角形まで作成できます）。
（エリアを描くと、「検出物の大きさ(最大)」と対象物の大きさ(最小)」の検知エリアが表示されます。）

（エリアサイズを変更するとき）

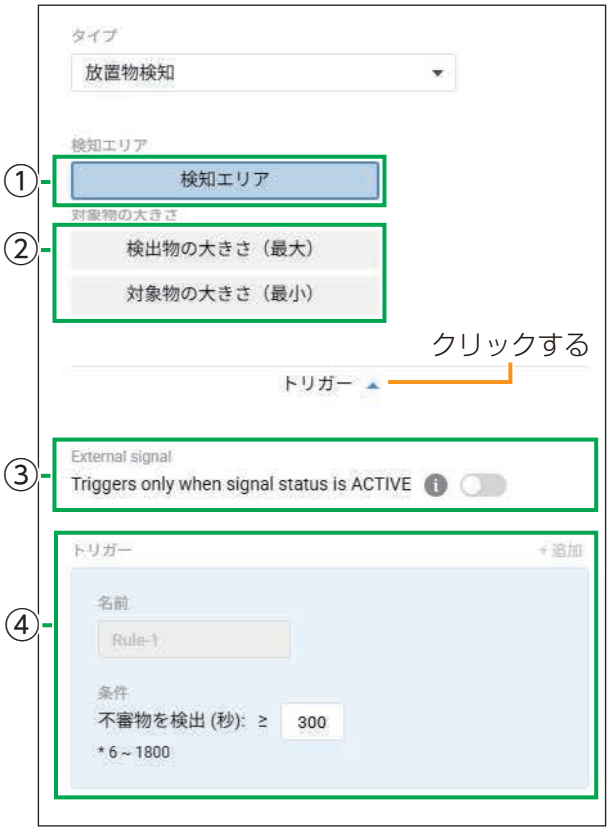
にカーソルを移動するとカーソルが に変わり、ドラッグするとエリアサイズを変更することができます。 をクリックすると削除できます。



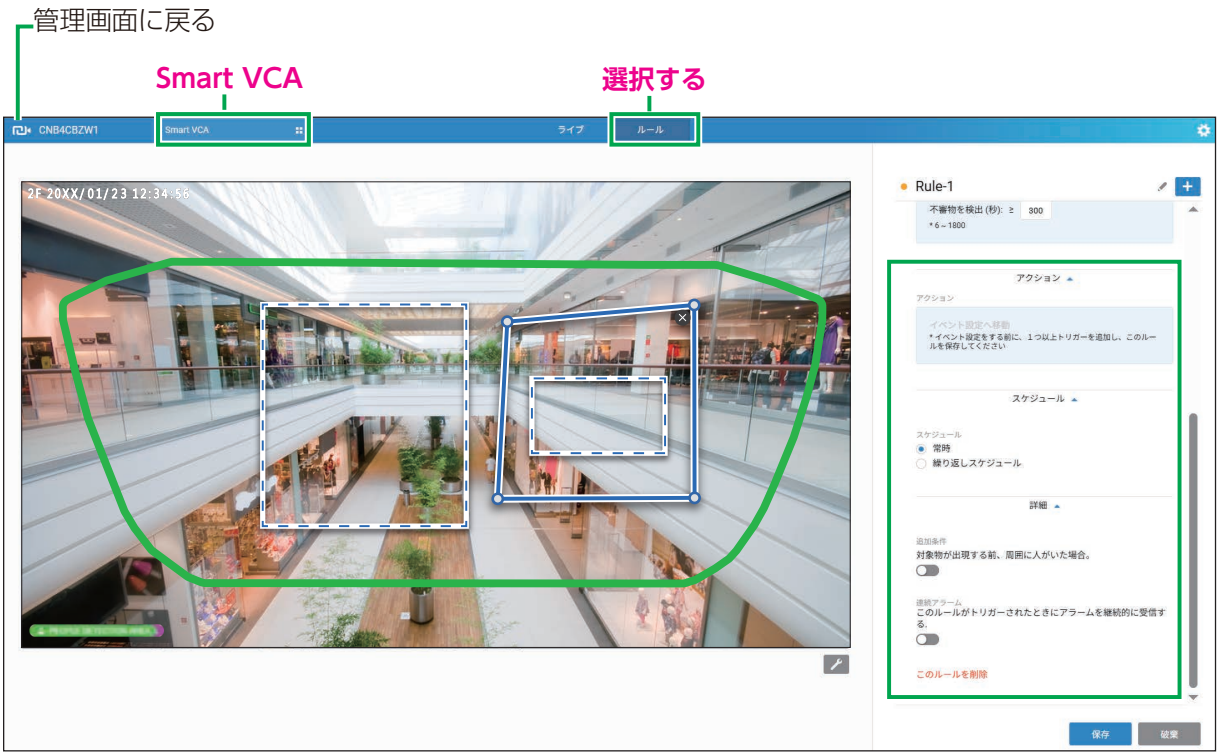
＜検知項目を設定する＞

放置物検知の必要な項目を設定します。

番号	項目	内容
①	**検知エリア**	検知するエリアを設定します。
②	**対象物の大きさ**（➡ 72 ページ）	検知エリア内で検知する「検出物の大きさ（最大）」と「対象物の大きさ（最小）」を設定します。 検知エリア内に設定した最大 / 最小のサイズ内で検知します。 **検出物の大きさ（最大）**：オブジェクトの最大サイズを設定します。 **対象物の大きさ（最小）**：オブジェクトの最小サイズを設定します。
③	**外部信号**	この機能は使用しません。
④	**トリガー**	対象物が放置されてから検知を開始する時間を設定します（初期値：300 秒）。

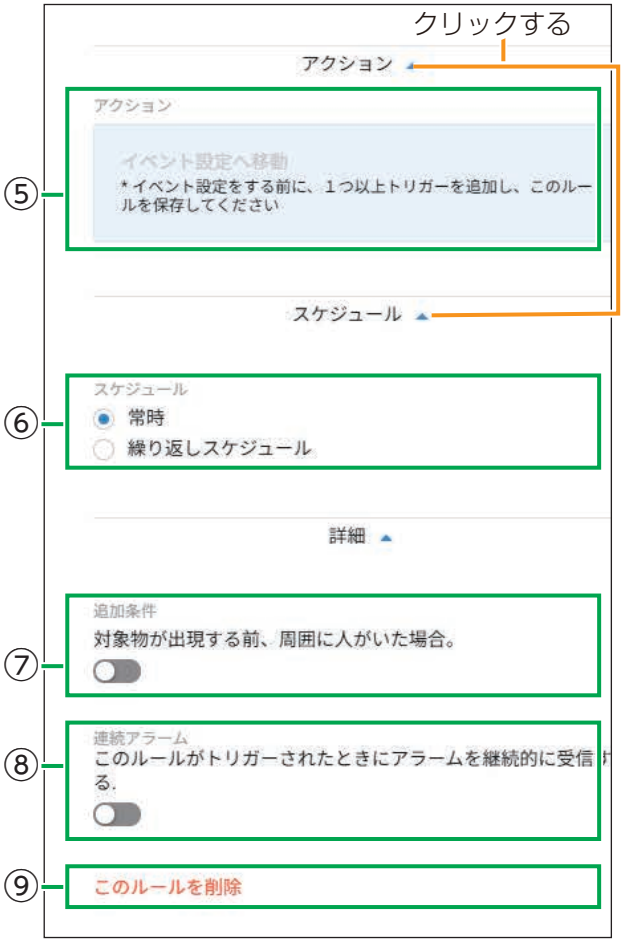


＜検知項目を設定する（つづき）＞



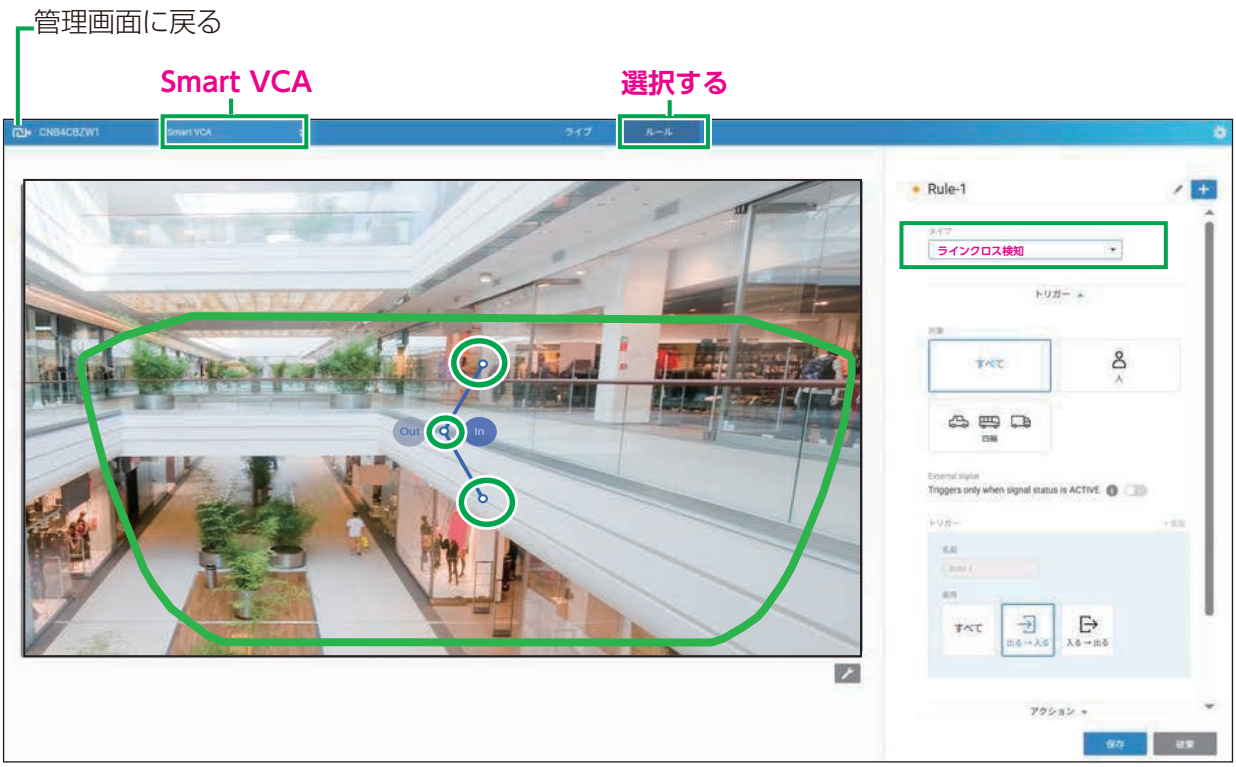
番号	項目	内容
⑤	**アクション**	ルールを保存するとイベント設定に移動することができます。 （➡ 79 ページ）
⑥	**スケジュール**	スケジュールの設定ができます。
⑦	**追加条件**	（有効）に切り換えると、周囲に人がいて、対象物がないときに検知します。
⑧	**連続アラーム**	（有効）に切り換えると、アラームが連続で出力されるように設定できます。
⑨	ルールを削除します。	

設定後、 保存 をクリックします。



■ラインクロス検知を設定する

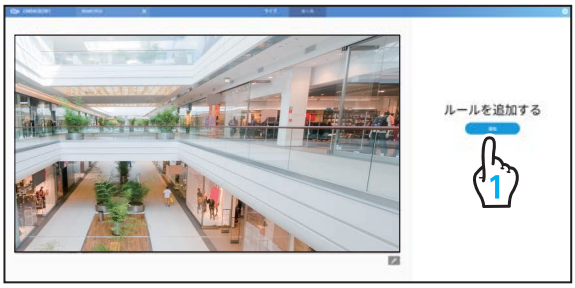
指定したラインを人や四輪が通過すると検知します。



＜新しく検知ラインを設定する＞

1 「追加」をクリックする

右記の画面が表示されているときは、「追加」をクリックします。



2 検知タイプを選択する

「ラインクロス検知」を選択します。

・ ルールを新しく追加するときは「+」をクリックします。

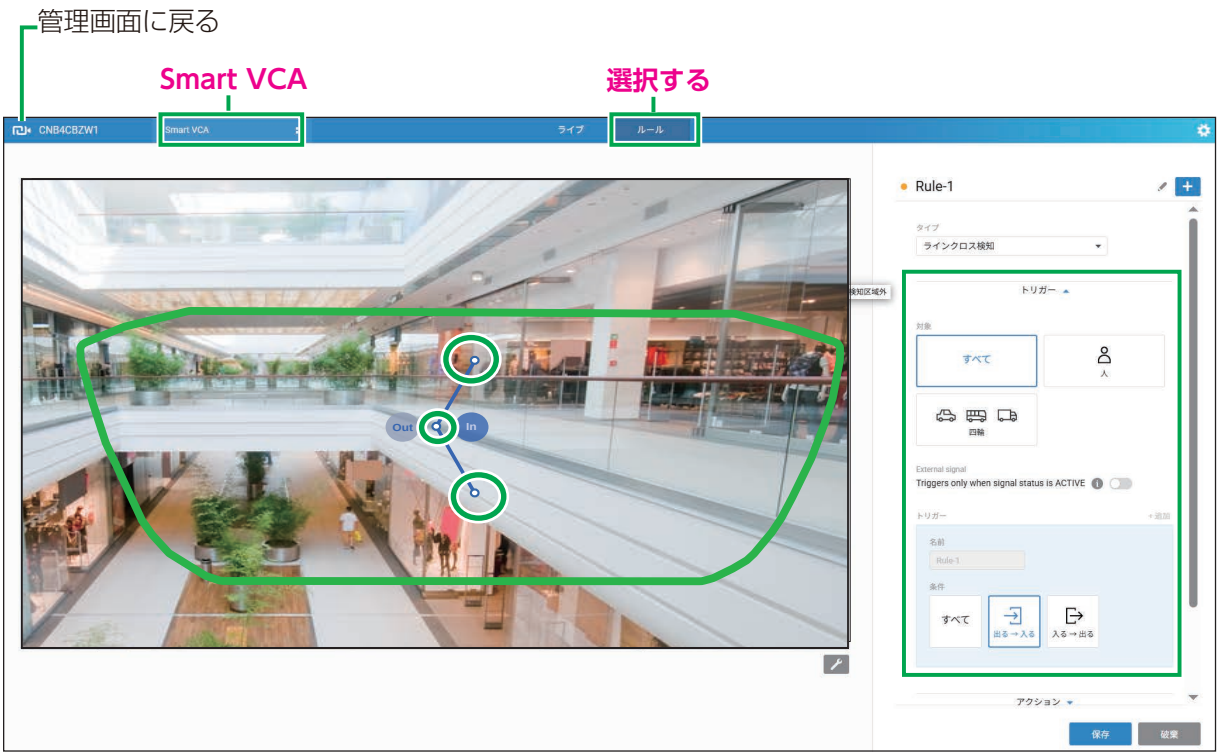
ルールを新しく追加するときにクリックする

（エリアサイズを変更するとき）

ライン上の にカーソルを移動するとカーソルが に変わり、ドラッグすると検知ラインを変更することができます。

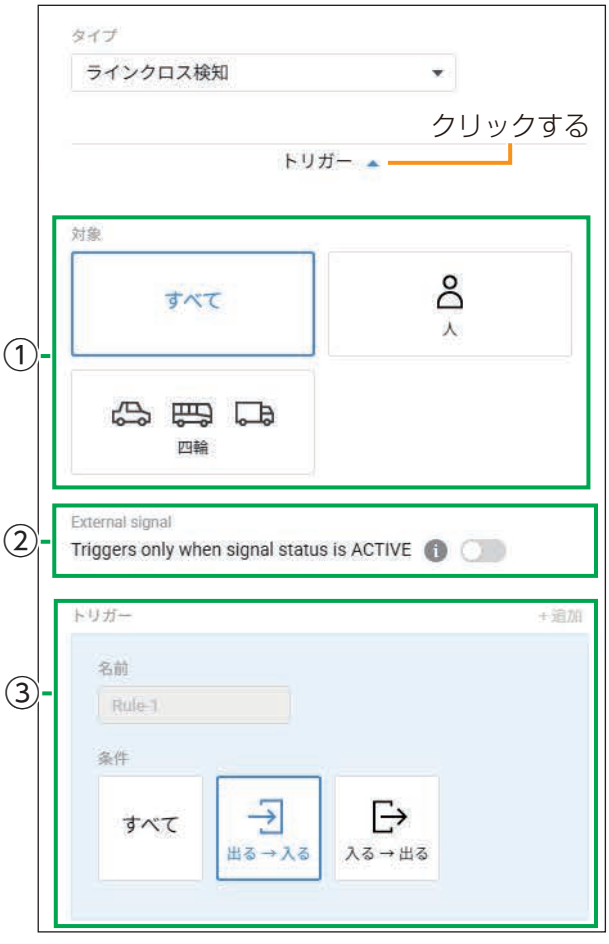
＜検知項目を設定する＞

ラインクロス検知の必要な項目を設定します。

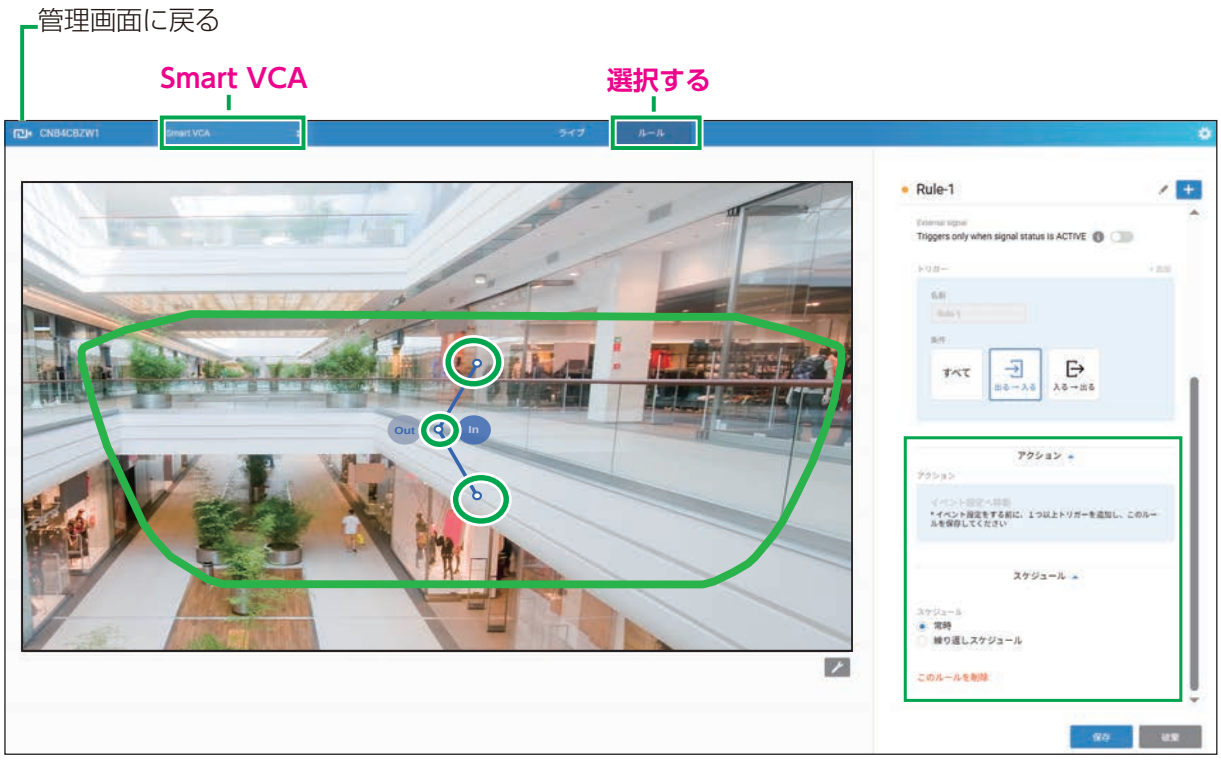


（イラスト：人の検知区域の場合）

番号	項目	内容
①	**対象**	検知対象の設定をします。
②	**外部信号**	この機能は使用しません。
③	**トリガー**	検知する侵入経路を選択します。 **すべて**：対象物が内側（IN）および外側（OUT）からの通過を検知します。 **出る→入る**：対象物が外側（OUT）からの通過を検知します。 **入る→出る**：対象物が内側（IN）からの通過を検知します。



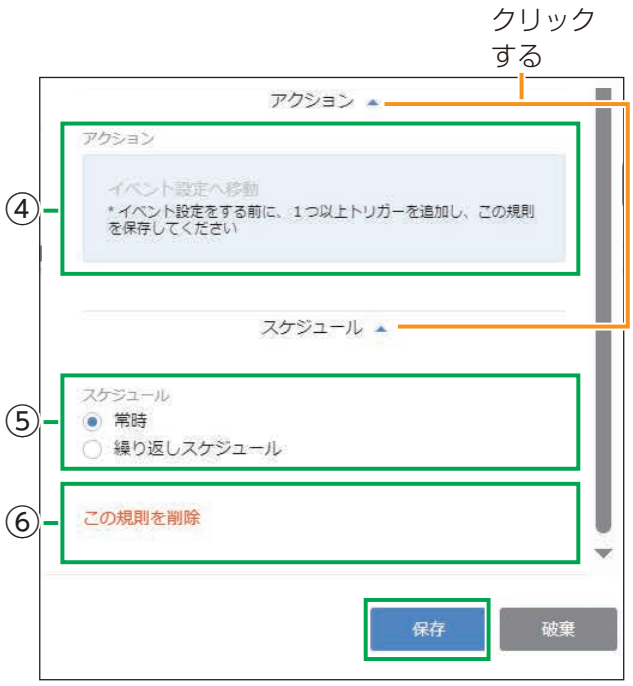
＜検知項目を設定する（つづき）＞



（イラスト：人の検知区域の場合）

番号	項目	内容
④	**アクション**	ルールを保存するとイベント設定に移動することができます。 （➡ 79 ページ）
⑤	**スケジュール**	スケジュールの設定ができます。
⑥	ルールを削除します。	

設定後、 保存 をクリックします。



通知

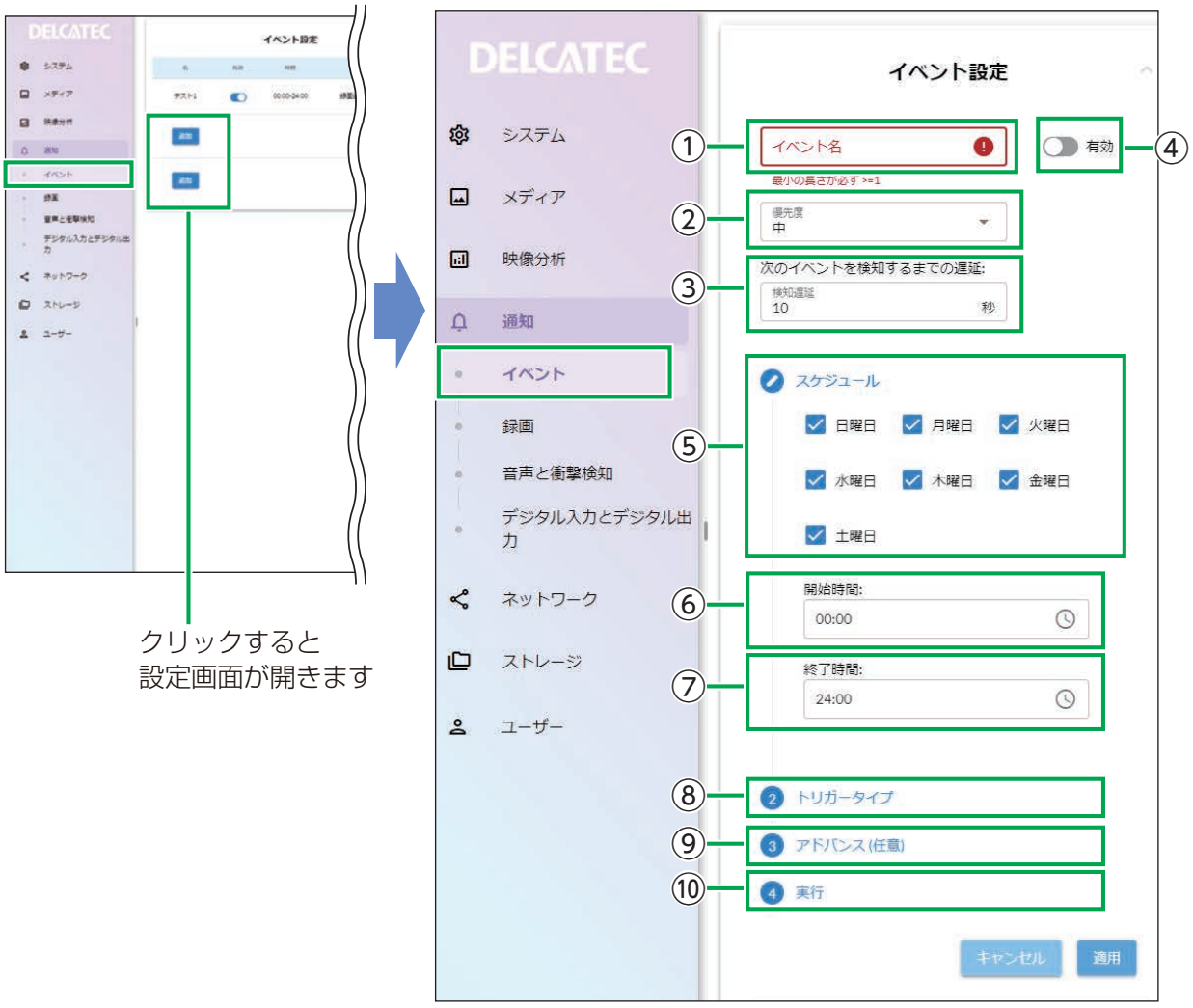
イベント設定

通知 > イベント >> イベント設定

イベント録画するためのスケジュールおよび検知を開始するイベントタイプを設定します。

イベント録画を microSD カードに保存するとき

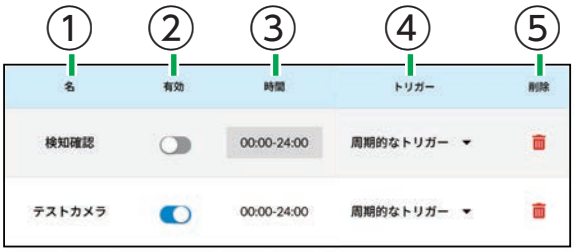
イベント録画を SD カードに記録する場合は、事前に SD カードを挿入し、フォーマットしておく必要があります。



<table>
<tr><th>番号</th><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>①</td><td>イベント名</td><td>「イベント名」を入力します。
検知したイベントを識別しやすくなります。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>優先度</td><td>設定するイベントの優先度を変更できます。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>検知遅延</td><td>次のイベントを検知するまでの待機時間を設定します。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>有効</td><td>（有効）に切り換えると、イベント設定が有効になります。</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>スケジュール</td><td>イベントを有効にしたい曜日にチェックを入れます。</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>開始時間</td><td>開始時間を設定します（➡ 21 ページ）。</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>終了時間</td><td>終了時間を設定します（➡ 21 ページ）。</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>トリガータイプ</td><td>トリガータイプを選択します。
<table>
<tr><td>周期的なトリガー</td><td>設定した時間間隔で定期的に通知します。</td></tr>
<tr><td>システム再起動</td><td>カメラが再起動したときに通知します。</td></tr>
<tr><td>モーション</td><td>モーション検知をしたときに通知します。
Smart Motion Detection（➡ 48 ページ）で設定した内容で検知します。</td></tr>
<tr><td>録画通知</td><td>録画を開始または停止したときに通知します。</td></tr>
<tr><td>カメラ改ざん検知</td><td>改ざん検知をしたときに通知します。
改ざん検知（➡ 58 ページ）で設定した内容で検知します。</td></tr>
<tr><td>マニュアルトリガー</td><td>手動で通知をします。</td></tr>
<tr><td>VADP</td><td>検知する VCA タイプを選択します（➡ 61 ページ）。
・ 侵入検知、徘徊検知、遺失物検知、放置物検知、ラインクロス検知以外を選択しても通知は行いません。</td></tr>
<tr><td>音声検知
デジタル入力</td><td>本機能はシステム構築・運用業者向けに用意した機能のため、弊社からサポートは対象外です。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>⑨</td><td>アドバンス（任意）</td><td>ネットワークが切断したときのメディアのバックアップを実行するようにできます。</td></tr>
<tr><td>⑩</td><td>実行</td><td>microSD カードに保存したり、サーバーに保存したりすることができます。
サーバーや microSD カードに保存するときは、事前に下記の設定行ってください。
「サーバーを追加」（➡ 83 ページ）
「メディアを追加」（➡ 84 ページ）</td></tr>
</table>

設定後、 適用 をクリックします。

＜設定したイベントを変更＞



番号	項目	内容
①	**名**	設定したイベント名が表示されます。
②	**有効**	に切り換えると、設定したイベントが有効になります。 にすると無効になります。
③	**時間**	クリックすると、スライダーで設定したスケジュールの時間を変更することができます。
④	**トリガー**	設定したイベントのトリガータイプを変更することができます。（➡ 80 ページ）
⑤	**削除**	イベントを削除できます。

＜イベントの設定方法＞

1 項目を設定する

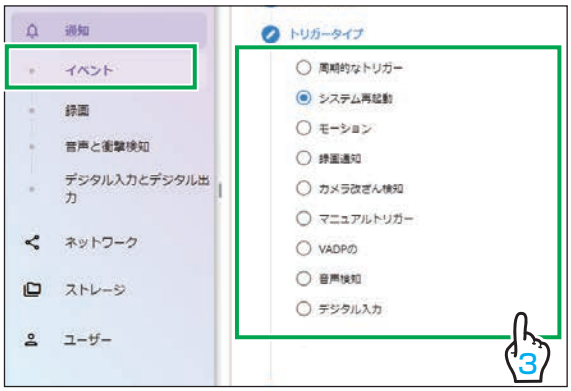
「イベント名」、「優先度」、「検知遅延」を設定します。

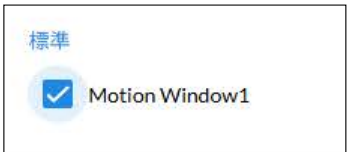
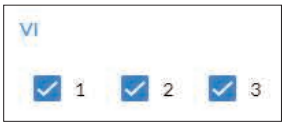
2 「スケジュール」を設定する

検知する曜日を選択し、「開始時間」と「終了時間」を設定します（➡ 21 ページ）。

3 「トリガータイプ」を設定する

下記のトリガータイプを選択したときは、詳細設定が必要です。



周期的なトリガー	モーション
通知する間隔を入力します。 	Smart Motion Detection（➡ 48 ページ）で設定した内容で検知します。 
カメラ改ざん検知	**マニュアルトリガー**
改ざん検知（➡ 58 ページ）で設定した内容で検知します。 	カメラを選択して、手動で通知します。 

4 「アドバンス（任意）」を設定する

ネットワークが切断された場合、メディアのバックアップを実行する
・チェックを入れると、カメラに挿入している microSD カードに録画データを保存します。
microSD カードの挿入方法については、付属の取扱説明書をご確認ください。
（「デジタル出力をトリガー」はシステム構築･運用業者向けに用意した機能のため､弊社からのサポートは対象外です。）

5 「実行」を設定する

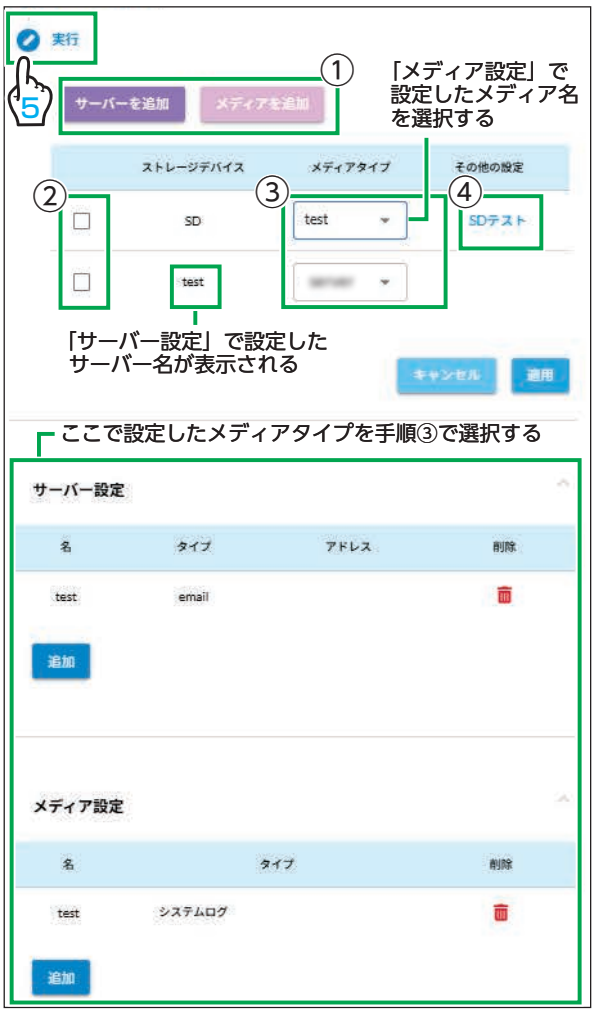
① サーバーを追加 （➡ 83 ページ）」を参照し、各項目の設定を行ってください。
メディアを追加 （➡ 84 ページ）」を参照し、各項目の設定を行ってください。

② 保存する「ストレージデバイス」にチェックを入れます。

③「メディアタイプ」を選択します。
「メディアタイプ」は手順①で設定したサーバー設定」または「メディア設定」を選択します。

重要 「メディアタイプ」で「none」を選択すると、録画データは保存されません。

④「ストレージデバイス」で「SD」を選択するときに、microSD カードに正常に書き込みができるかどうかをテストを行います。



＜サーバーを追加＞

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>サーバー名</td><td>サーバー名を入力します。</td></tr>
<tr><td>Email</td><td>メールサーバーを経由して通知を送信します。
<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>送信者のメールアドレス /
受信者のメールアドレス</td><td>送信者および受信者のメールアドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>サーバーのアドレス</td><td>使用するメールサーバのアドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>ユーザー名</td><td>使用するメールサーバーのユーザー名を入力します。</td></tr>
<tr><td>ユーザーパスワード</td><td>メールサーバーの認証に必要なパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td>サーバーポート</td><td>通信に使用するポート番号を入力します。</td></tr>
<tr><td>安全な接続</td><td>チェックを入れると、通信が暗号化され、セキュリティが強化されます。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>FTP</td><td>FTP サーバーを使用して、ファイルをアップロードします。
<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>FTP サーバーアドレス</td><td>接続する FTP のサーバーアドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>リモートフォルダ名</td><td>接続後にアクセスするフォルダ名を指定します。</td></tr>
<tr><td>ユーザー名</td><td>ＦＴＰサーバーにログインするためのユーザー名を入力します。</td></tr>
<tr><td>ユーザーパスワード</td><td>ＦＴＰサーバーへの認証に必要なパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td>サーバーポート</td><td>ＦＴＰ接続に使用するサーバーポート番号を指定します。</td></tr>
<tr><td>パッシブモード</td><td>チェックを入れると、ファイアウォールを通しての接続が可能になります。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>HTTP</td><td>HTTP サーバーを使用して HTTP リクエストを送信します。
<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>URL</td><td>データを送信する URL を入力します。</td></tr>
<tr><td>ユーザー名</td><td>認証に必要なユーザー名を入力します。</td></tr>
<tr><td>ユーザーパスワード</td><td>認証に必要なパスワードを入力します。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

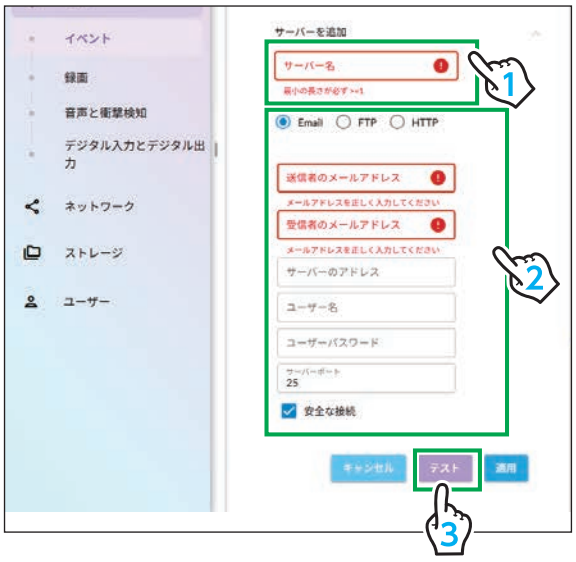
設定後、 適用 をクリックします。

＜サーバーの追加方法＞

1 **サーバー名を入力する**

2 **サーバータイプを選択し、項目を選択する**
※イラスト：Email を選択した場合

3 テスト **をクリックする**
接続テストを行います。



＜メディアを追加＞

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>メディア名</td><td>メディア名を入力します。</td></tr>
<tr><td>スナップショット</td><td>静止画を撮影する設定をします。
■ スナップショットを選択した場合
<table>
<tr><td>ソース</td><td>使用するストリームを選択します。</td></tr>
<tr><td>プリイベントイメージ</td><td>イベント前にキャプチャをする画像の枚数を設定します。</td></tr>
<tr><td>ポストイベントイメージ</td><td>イベント後にキャプチャをする画像の枚数を設定します。</td></tr>
<tr><td>ファイル名の接頭辞</td><td>保存するファイルの名前に付ける接頭辞を入力します。</td></tr>
<tr><td>ファイル名の最後に日付と時間を追加する</td><td>チェックを入れるとファイル名に保存した日付と時間が自動で追加されます。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>ビデオクリップ</td><td>ビデオクリップを作成する設定をします。
■ ビデオクリップを選択した場合
<table>
<tr><td>ソース</td><td>
<table>
<tr><td>Max view</td><td>高解像度でビデオクリップを作成します。</td></tr>
<tr><td>Recording</td><td>音声付きでビデオクリップを作成します。</td></tr>
<tr><td>Live view</td><td>リアルタイムでのカメラ映像のビデオクリップを作成します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>イベント前録画の期間</td><td>イベント前に録画する秒数を設定します。</td></tr>
<tr><td>最大録画期間</td><td>イベント後に録画する秒数を設定します。</td></tr>
<tr><td>最大サイズ</td><td>ビデオクリップの最大長さを設定します（単位：秒）。</td></tr>
<tr><td>ファイル名の接頭辞</td><td>保存するファイルの名前に付ける接頭辞を入力します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>システムログ</td><td>ログデータを記録する設定をします。</td></tr>
</table>

設定後、 適用 をクリックします。

＜メディアの追加方法＞

1 **メディア名を入力する**

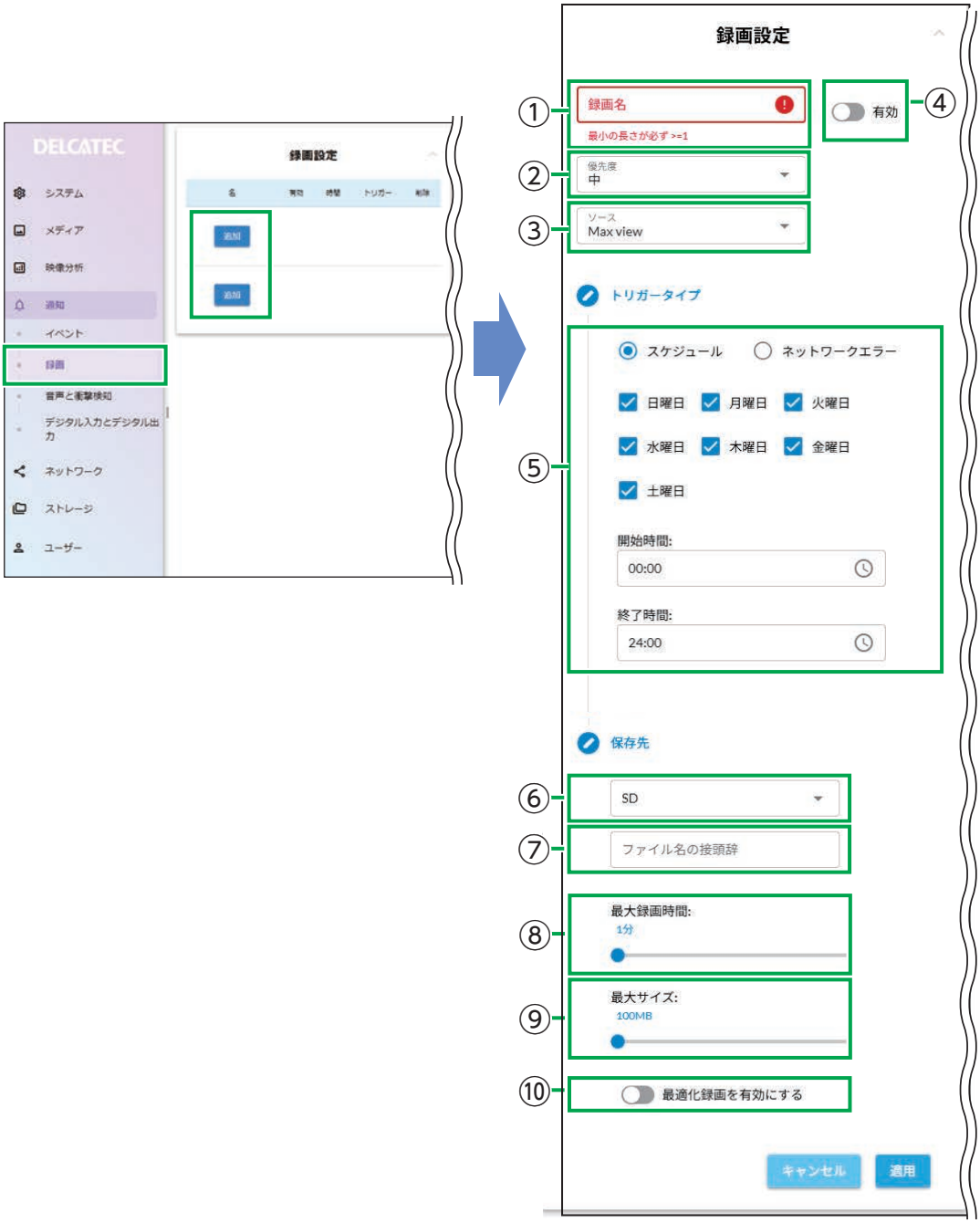
2 **記録タイプを選択し、項目を選択する**
※イラスト：ビデオクリップを選択した場合

3 **適用 をクリックする**

録画設定

通知 > 録画 >> 録画設定

録画するためのスケジュールを設定します。



<table>
<tr><th>番号</th><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>①</td><td>録画名</td><td>録画名を入力します。
録画設定を識別しやすくなります。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>優先度</td><td>「高」に設定すると、優先度が高くなります。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>ソース</td><td>録画するソースを選択します。（➡ 84 ページ）</td></tr>
<tr><td>④</td><td>有効</td><td>（有効）に切り換えると、録画設定が有効になります。</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>トリガータイプ</td><td>
<table>
<tr><td>スケジュール</td><td>録画を有効にしたい曜日にチェックを入れます。開始時間と終了時間を設定します（➡ 21 ページ）。</td></tr>
<tr><td>ネットワークエラー</td><td>ネットワークエラーが起こったときに microSD カードに録画をします。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>SD</td><td>SD カードに保存します。</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>ファイル名の接頭辞</td><td>保存するファイルの名前に付ける接頭辞を入力します。</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>最大録画時間</td><td>最大録画時間を設定します。</td></tr>
<tr><td>⑨</td><td>最大サイズ</td><td>録画データの最大ファイルサイズを設定します。</td></tr>
<tr><td>⑩</td><td>最適化録画を有効化</td><td>チェックを入れると、「イベント前録画の時間」と「イベント後録画の時間」を設定できます。

イベント前録画の期間
イベント前に録画する時間を設定します。
イベント後録画の期間
イベント後に録画する時間を設定します。

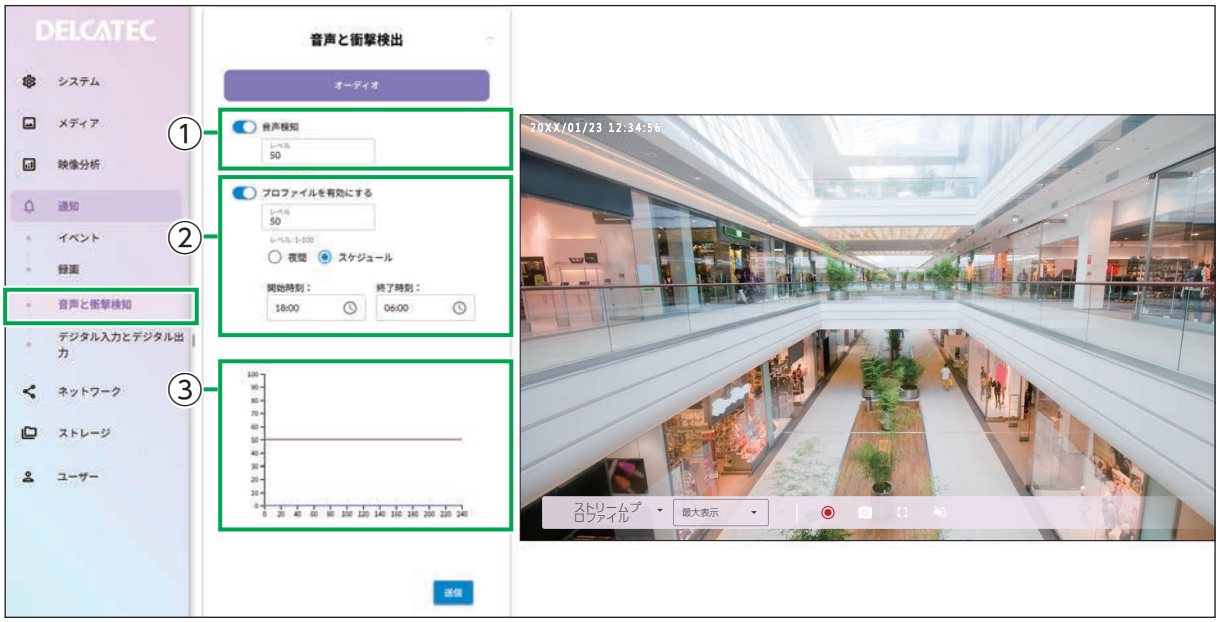
</td></tr>
</table>

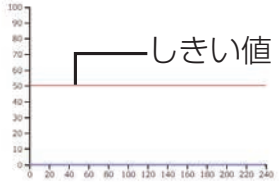
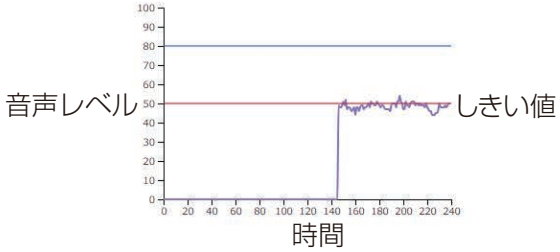
設定後、 適用 をクリックします。

音声と衝撃検出

通知 > 音声と衝撃検知 >> 音声と衝撃検出

異常な音を検知してアラームを通知します。



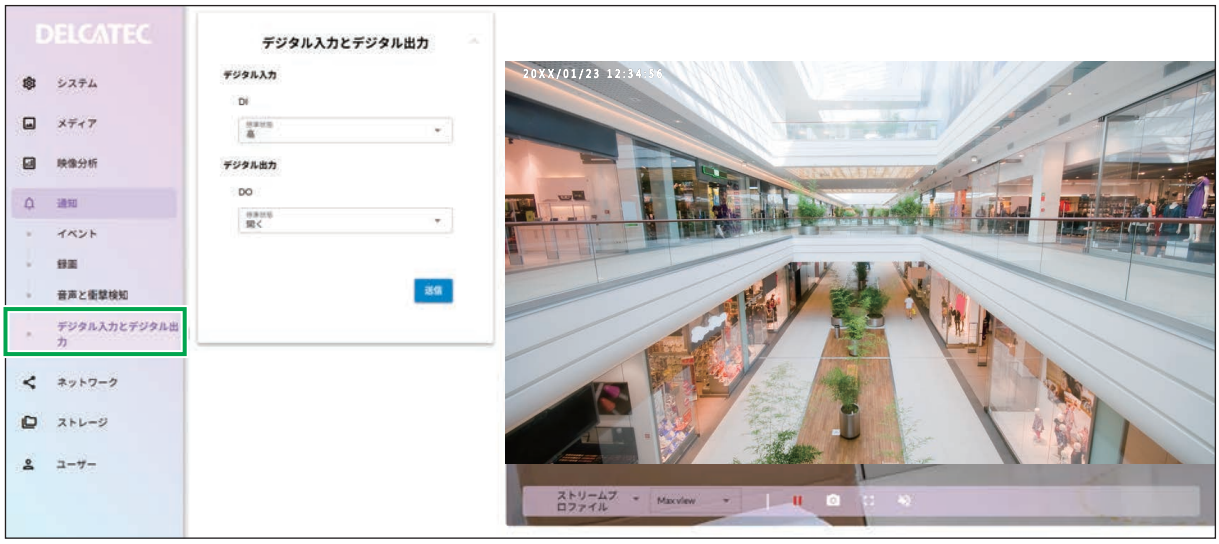
番号	項目	内容
①	**音声検知**	（有効）に切り換えると、音声検知が有効になります。 レベルに値を入力し、しきい値を設定します。 
②	**プロファイル**	（有効）に切り換えると、プロファイルが有効になります。 プロファイルを有効にすると、夜間や設定したスケジュールで設定した感度で音声検知が有効になります。 しきい値を設定します（レベルに値を入力し、しきい値を設定します）。 チェックを入れると、設定時間のみ設定したしきい値を超えるとで音声を検知します。 <スケジュールを設定する>（➡ 21 ページ）を参照してください。 チェックを入れると、夜間のみ設定したしきい値を超えると音声検知を行います。
③	**レベルグラフ**	音声がどのように変化しているかを確認することができます。 設定したしきい値を超えたときに音声検知を開始します。 

設定後、 送信 をクリックします。

デジタル入力とデジタル出力

通知 > デジタル入力とデジタル出力 >> デジタル入力とデジタル出力

本機能はシステム構築・運用業者向けに用意した機能のため、弊社からサポートは対象外です。



ネットワーク

ネットワーク設定

ネットワーク > 一般設定 >> ネットワーク設定

IP アドレスなどのネットワークに関する一般的な設定ができます。

番号	項目	内容
①	**ネットワーク設定**	「IP 設定」：IPv4 の設定ができます。 「HTTPS」：HTTPS の設定ができます。 「その他」：設定を変更しないでください。
②	**IPv4**	**■「IP 設定」を選択した場合** 「自動的に IP アドレスを取得する」にチェックを入れると、自動的に IP アドレスを取得します。 「以下の IP アドレスを使用する」にチェックをいれると、手動で下記の項目を設定します。 ・ 本製品をインターネット回線を使って接続しているときに設定が可能です（➡ 5 ページ）。

項目	内容
IP アドレス	IP アドレスを入力します。 この IP アドレスを使用して管理画面にアクセスします。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
デフォルトルーター	デフォルトルーター（デフォルトゲートウェイ）を入力します。
プライマリ DNS	プライマリ DNS を入力します。
セカンダリ DNS	セカンダリ DNS を入力します。

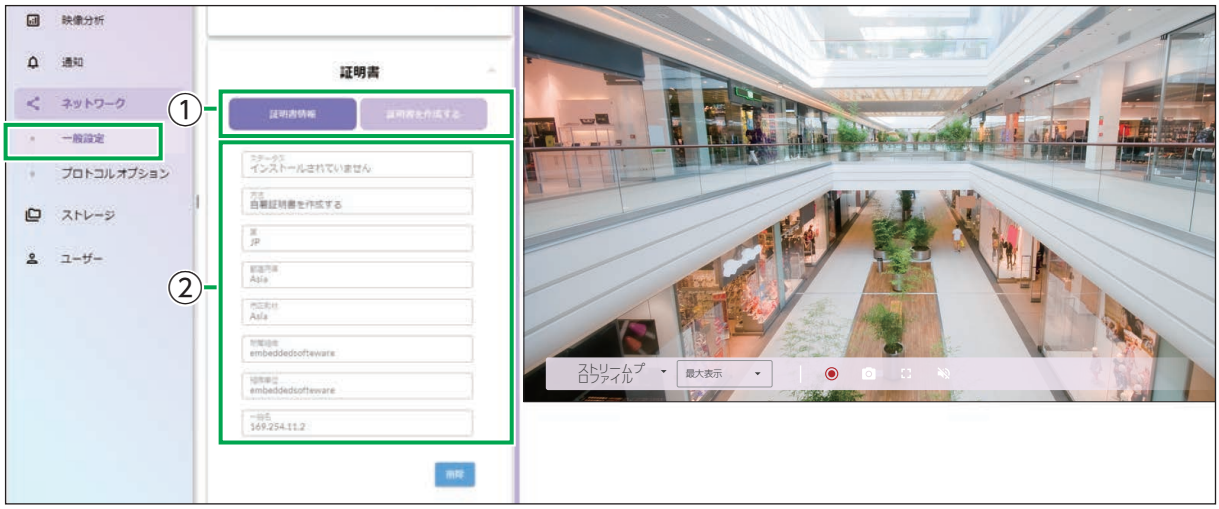
<table>
<tr><th>番号</th><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>③</td><td>IPv6</td><td>に切り換えると、IPv6 の設定が有効になります。
「自動的に IP アドレスを取得する」にチェックを入れると、自動的に IP アドレスを取得します。
「以下の IP アドレスを使用する」にチェックをいれると、手動で下記の項目を設定します。
<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>IPv6 アドレス</td><td>IPv6 の IP アドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>デフォルトルーター</td><td>デフォルトルーター（デフォルトゲートウェイ）を入力します。</td></tr>
<tr><td>プライマリ DNS</td><td>プライマリ DNS を入力します。</td></tr>
<tr><td>接頭辞の長さ</td><td>接頭辞の長さを設定します。
・IPv6 アドレスにおいてネットワーク部のビット数を示します。
・ネットワークを識別し、同じネットワークに属するデバイス間で通信を行います。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>④</td><td>HTTPS</td><td>（有効）に切り換えると、HTTPS が有効になります。
設定を有効にすると、証明書の発行をすることができます。
<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>HTTPS ポート</td><td>HTTPS ポートを設定します。</td></tr>
<tr><td>HTTPS モード</td><td>HTTPS のみ：
通信がすべて暗号化されます。
HTTP と HTTPS：
ログイン情報などを入力するサイトには、通信が暗号化されます。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

設定後、 送信 をクリックします。

証明書

ネットワーク > 一般設定 >> 証明書

HTTPS の設定を有効にすると、証明書の設定が可能です。



番号	項目	内容
①	**証明書**	「証明書情報」：証明書を発行します。 「証明書を作成する」：証明書の発行に必要な情報を入力します。
②	**証明書情報**	**■「証明書情報」を選択した場合** 証明書の内容を表示します。 下記の「証明書を作成する」で証明書を作成したときに、削除 をクリックすると証明書を削除できます。 **■「証明書を作成する」を選択した場合** 証明書の発行に必要な情報を入力します。

設定後、 送信 をクリックします。

プロトコル設定

ネットワーク > プロトコルオプション >> プロトコル設定

プロトコルの設定ができます。

通常、プロトコル設定を初期設定から変更する必要はありません。

番号	項目	内容
①	**プロトコル**	「HTTP」、「RTSP」および「マルチキャスト」のプロトコルを選択できます。
②	**ストリーム設定**	ストリーム１から３までを設定することができます。 ストリーム設定に必要な項目を入力します。

設定後、 送信 をクリックします。

ストレージ

ストレージ管理

ストレージ > ストレージ管理 >> ストレージ管理

microSD カードの使用率などの確認をしたり、上書き保存の設定ができます。

- 別の機器でフォーマットされた microSD カードは、本製品では認識しない場合があります。その場合は下記の URL より SD メモリカードフォーマッターをダウンロードし、フォーマットをしてください。
  https://www.sdcard.org/ja/downloads-2/formatter-2/

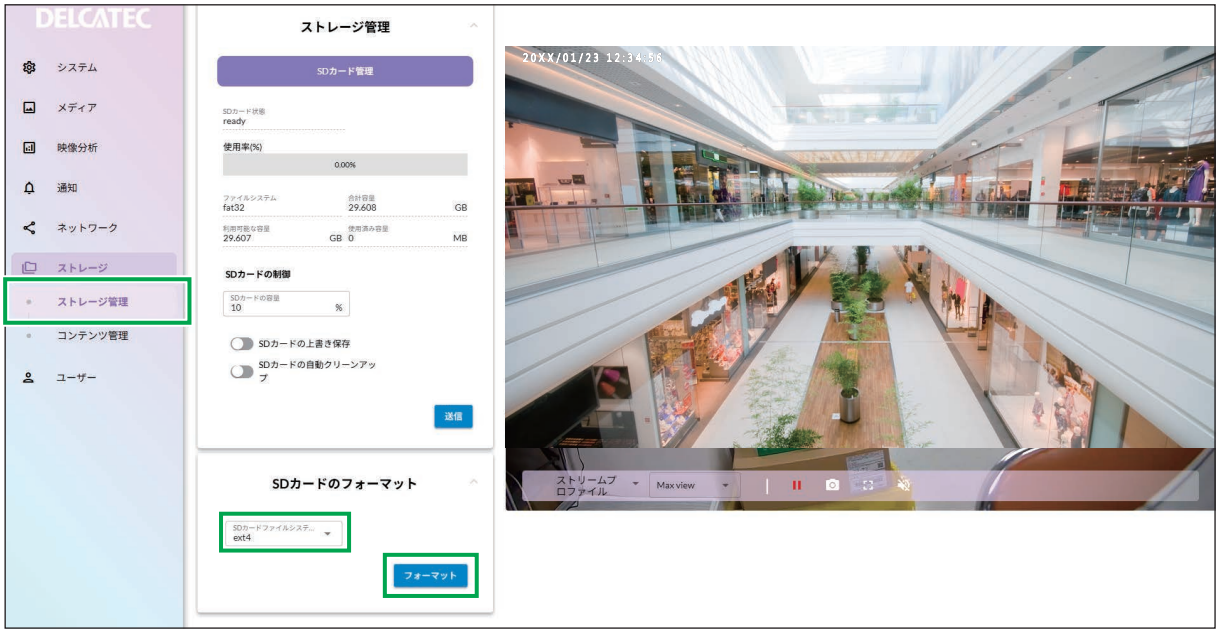
番号	項目	内容
①	**SD カード状態**	microSD カードの状態を表示します。 「ready」と表示されたときは、microSD カードが正常に挿入されています。
②	**使用率**	microSD カード内のデータ使用状況を%で表示します。
③	**ファイルシステム / 合計容量 / 利用可能な容量 / 使用済み容量**	**ファイルシステム** 現在のファイルシステム（データの保存方式）を表示します。 **合計容量** microSD カード全体の容量を表示します。 **利用可能な容量** データを保存できる microSD カードの容量を表示します。 **使用済み容量** microSD カードの使用済みの容量を表示します。
④	**SD カードの制御**	microSD カードの使用容量が、全体容量から使用できる割合を%で設定します。
⑤	**SD カードの上書き保存 /SD カードの自動クリーンアップ**	**SD カードの上書き保存** に切り換えると、microSD カードの使用容量が、使用可能割合の上限に達したときに、古いデータから上書き保存されます。 **SD カードの自動クリーンアップ** に切り換えると、microSD カードの使用容量が、設定した最大保存期間に達したときに、古いデータを削除し、空き容量を確保します。 保存期間を設定する ー 7 日

設定後、 送信 をクリックします。

SD カードのフォーマット

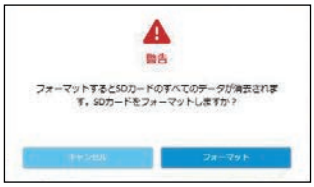
ストレージ > ストレージ管理 >>SD カードのフォーマット

microSD カードを FAT32 または ext4 形式でフォーマットをすることができます。



SDカードファイルシステ... ext4 でフォーマット形式(FAT32または ext4)を選択し，フォーマットをクリックすると、microSD カードが選択した形式でフォーマットされます。

microSD カードをフォーマットするときに、警告内容が表示されます。表示された内容を読んでからフォーマットをクリックします。

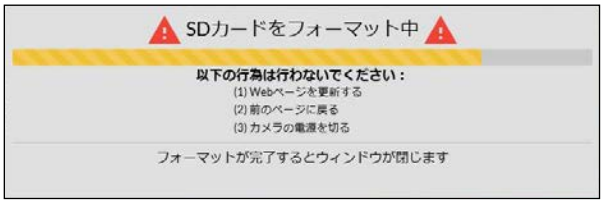


32GB までの microSD カードをフォーマットするとき

「ext4」でフォーマットすると右記の警告が表示されます。

> ・ 64GB 以上の microSD カードをフォーマットするときは FAT32 は選択できません。

フォーマット実行している間は、下記が表示されます。
バーが右側まで表示され、画面が消えるとフォーマットは完了です。



> フォーマットができないときは、
> 下記の URL より SD メモリカードフォーマッターをダウンロードし、フォーマットをしてください。
> https://www.sdcard.org/ja/downloads-2/formatter-2/

重要

- **microSD カードの抜き差しをするときは、本製品の電源を OFF にしてください。電源が入ったまま、抜き差しすると本製品が破損するおそれがあります。**
- **microSD カードは消耗品ですので、定期的に新品への交換をお勧めします。長期間ご使用になると、不良セクタの多発などにより正常に記録できなくなる場合や microSD カードに不具合が起こり使用できない場合があります。**
- **microSD カードを初期化すると、microSD カード内のデータは消去されます。事前にバックアップを取って大切なデータを保管することをお勧めします。**

メディアコンテンツ

ストレージ > コンテンツ管理 >> メディアコンテンツ

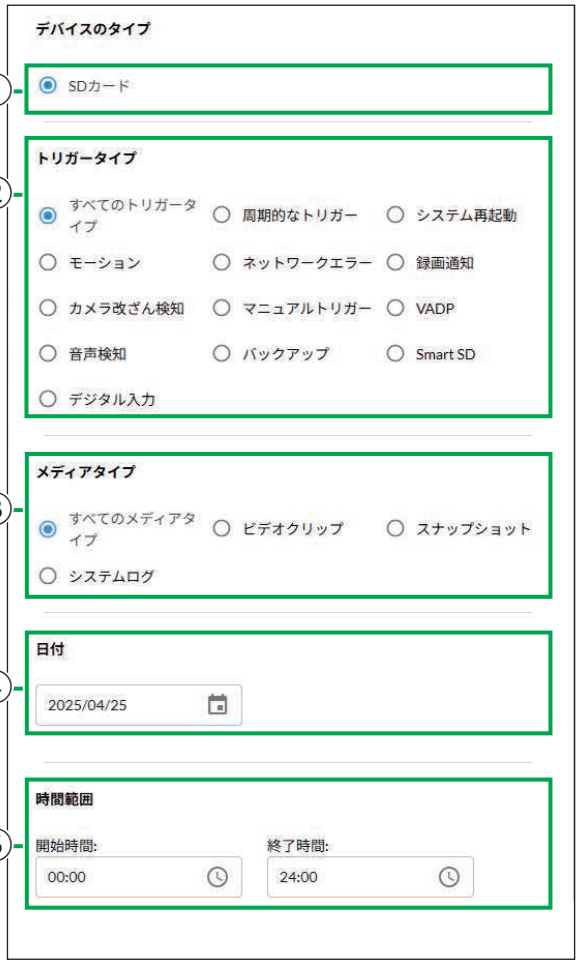
microSD カード内のイベント検索ができます。

設定したイベント録画で microSD カードに録画されます (➡ 79 ページ)。
記録した内容は随時追加されます。

▼をクリックすると、次ページの検索条件が表示されます。

番号	項目	内容
①	**デバイスのタイプ**	microSD カードにデータが保存されます。
②	**トリガータイプ**	**すべてのトリガータイプ** 以下のすべての条件を対象とします。 **周期的なトリガー** スケジュールによる録画を対象とします。 **システム再起動** カメラが再起動したときが対象となります。 **モーション** モーション検知をしたときが対象となります。 **ネットワークエラー** ネットワークに問題があったときに対象となります。 **録画通知** 録画を開始または停止したときが対象になります。 **カメラ改ざん検知** カメラが正常に動作しなくなったときが対象になります。 **マニュアルトリガー** 手動でトリガーを発生させたときが対象になります。 **VADP** VCA で検知したときが対象となります（➡ 61 ページ）。 **音声検知** 音声を検知したときが対象となります。 **バックアップ** バックアップが必要なときに対象となります。 **SmartSD** この機能は使用できません。 **デジタル入力** この機能は使用できません。
③	**メディアタイプ**	**すべてのメディアタイプ** すべてのメディアタイプを対象とします。 **ビデオクリップ** ビデオクリップの録画を対象とします。 **スナップショット** 静止画を対象とします。 **システムログ** ログデータを対象とします。

番号	項目	内容
④	**日付**	をクリックして、カレンダーから日付を選択します。
⑤	**時間範囲**	設定方法は、「昼間と夜間設定」（➡ 21 ページ）を参照してください

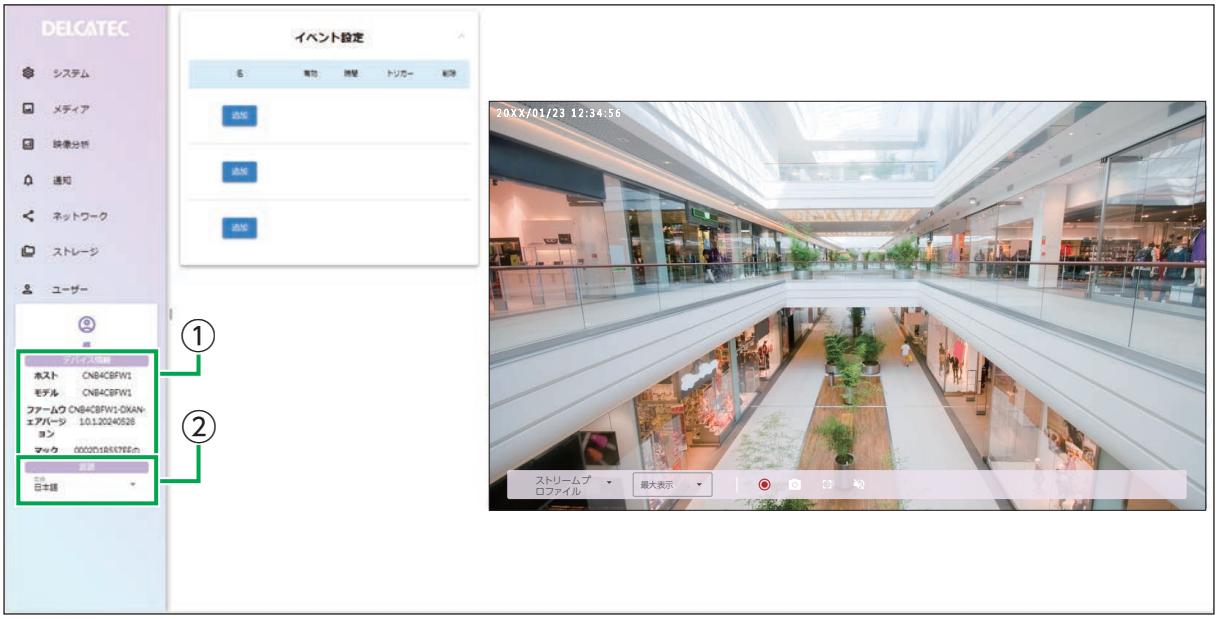


選択後、 検索 をクリックします。

ユーザー

ユーザー（ファームウェアの確認）

ファームウェアなどの情報を確認できます。



番号	項目	内容
①	**デバイス情報**	**ホスト**：ホスト名を表示します。 **モデル**：カメラの型番を表示します。 **ファームウェアバージョン**：現在のファームウェアバージョンを表示します。 **マック**：マックアドレスを表示します。
②	**言語**	言語情報を表示します ▼をクリックすると、言語（英語 / 中国語（繁体字）/ 日本語）を選択することができます。

このマニュアルについて

●このマニュアルの著作権は、DX アンテナ株式会社が所有しています。
●このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製／転載することを禁止させていただきます。
●このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
●Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名／社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における ® および TM は省略させていただきました。

動作環境

Web ベースの管理画面、次の環境のみサポートしています。

対応 OS	Windows 10
対応ブラウザ	Google chrome（Ver58.0 以降）